

資料

系列別主要劇場

劇場名	席数	仕様	劇場名	席数	仕様
伝統演劇系列			三越劇場	543	【中】
国立劇場(大)	1,616	【大】	サンシャイン劇場	832	【中】
国立劇場(小)	526	【中】	シアターコクーン	747	【中】
国立文楽劇場	731～751	【中】	PARCO劇場	636	【中】
国立能楽堂	627	【中】	天王洲銀河劇場	746	【中】
国立劇場おきなわ	578～632	【中】	東京グローブ座	595～713	【中】
歌舞伎座	1,808	【大】	スペース・ゼロ	575	【中】
大劇場演劇系列			シアター・ドラマシティ	898	【中】
新橋演舞場	1,428	【大】	現代演劇系列Ⅱ		
明治座	1,368	【大】	紀伊國屋ホール	418	【小】
御園座	1,299	【大】	紀伊國屋サザンシアター	468	【小】
京都南座	1,086	【大】	博品館劇場	381	【小】
大阪松竹座	1,090	【大】	俳優座劇場	300	【小】
大阪新歌舞伎座	1,453～1,529	【大】	両国シアターX	172～300	【小】
梅田芸術劇場 メインホール	1,905	【大】	本多劇場	386	【小】
博多座	1,392～1,474	【大】	ザ・スズナリ	200	【小】
現代演劇系列Ⅰ(国公立系)			下北沢駅前劇場	200	【小】
新国立劇場(中)	1,010～1,038	【大】	OFF・OFFシアター	100	【小】
新国立劇場(小)	416～468	【小】	下北沢「劇」小劇場	130	【小】
東京芸術劇場 プレイハウス	834	【中】	シアター・モリエール	186	【小】
東京芸術劇場 シアターイースト	286	【小】	シアター・サンモール	294	【小】
東京芸術劇場 シアターウエスト	259	【小】	こまばアゴラ劇場	60～130	【小】
東京建物Brillia HALL	1,300	【大】	吉祥寺シアター	189	【小】
世田谷パブリックシアター	600	【中】	THEATRE E9 KYOTO	89	【小】
シアタートラム	240	【小】	ミュージカル演劇系列		
彩の国さいたま芸術劇場(大)	776	【中】	TBS赤坂ACTシアター	1,324	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(小)	346	【小】	日生劇場	1,330	【大】
ピッコロシアター(大)	396	【小】	帝国劇場	1,826	【大】
兵庫県立芸術文化センター(大)	2,141	【大】	東急シアターオーブ	1,972	【大】
兵庫県立芸術文化センター(中)	800	【中】	宝塚大劇場	2,550	【大】
あうるすぽっと	301	【小】	東京宝塚劇場	2,065	【大】
座・高円寺1	238	【小】	宝塚バウホール	526	【中】
座・高円寺2	256～298	【小】	四季劇場「春」	1,255	【大】
神奈川芸術劇場 ホール	1,300	【大】	四季劇場「秋」	907	【大】
まつもと市民芸術館(主)	1,800	【大】	電通四季劇場「海」	1,216	【大】
ロームシアター(メイン)	2,003	【大】	四季劇場「夏」	1,200	【大】
北九州芸術劇場(大)	1,269	【大】	自由劇場	500	【中】
現代演劇系列Ⅱ			大阪四季劇場	1,119	【大】
京都芸術劇場 春秋座	732～807	【中】	チャンネルシティ劇場	1,144	【大】
シアタークリエ	611	【中】	名古屋四季劇場	約1,200	【大】
			北海道四季劇場	994	【大】

上の内、大劇場は900席以上、中劇場は899～500席、小劇場は499席以下という基準で規定した。各流能楽堂、新国立劇場(大)、東京芸術劇場(大)、オーチャードホール、日本青年館は除いた。

※(公社)日本演劇興行協会所属劇場：歌舞伎座 新橋演舞場 明治座 御園座 南座 松竹座

新歌舞伎座 梅田芸術劇場 博多座 シアタークリエ サンシャイン劇場 帝国劇場

※中劇場協議会所属劇場：三越劇場 サンシャイン劇場 シアターコクーン 天王洲銀河劇場

紀伊國屋ホール 紀伊國屋サザンシアター 博品館劇場 俳優座劇場 両国シアターX

本多劇場 シアターサンモール

2021年松竹株式会社主催公演

会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
歌舞伎座	「壽 初春大歌舞伎」	1/ 2～ 1/27	72
歌舞伎座	「二月大歌舞伎」	2/ 2～ 2/27	72
歌舞伎座	「三月大歌舞伎」	3/ 4～ 3/29 (第二部のみ3/26、3/27中止)	70
歌舞伎座	「四月大歌舞伎」	4/ 3～ 4/28 (4/25～4/28中止)	60
歌舞伎座	「五月大歌舞伎」	5/ 3～ 5/28 (5/3～5/11中止)	48
歌舞伎座	「六月大歌舞伎」	6/ 3～ 6/28	72
歌舞伎座	「七月大歌舞伎」	7/ 4～ 7/29 (第三部のみ～7/16)	60
歌舞伎座	「八月花形歌舞伎」	8/ 3～ 8/28	72
歌舞伎座	「九月大歌舞伎」	9/ 2～ 9/27 (第二部のみ9/2～9/6中止)	67
歌舞伎座	「十月大歌舞伎」	10/ 2～10/27	72
歌舞伎座	「吉例顔見世大歌舞伎」	11/ 1～11/26	72
歌舞伎座	「十二月大歌舞伎」	12/ 1～12/26	72
新橋演舞場	「初春海老蔵歌舞伎」	1/ 3～ 1/17	20
新橋演舞場	「お染与太郎珍道中」	2/ 1～ 2/17	23
新橋演舞場	「滝沢歌舞伎ZERO 2020 The Movie」	2/20～ 3/ 4	29
新橋演舞場	「舟木一夫シアターコンサート」	3/ 6～ 3/ 8	3
新橋演舞場	「未来記の番人」	3/12～ 3/21	15
新橋演舞場	「レビュー春のおどり」	3/26～ 3/28	6
新橋演舞場	「滝沢歌舞伎ZERO 2021」	4/ 8～ 5/16 (4/25～5/11中止)	30
新橋演舞場	「熱海五郎一座」	5/30～ 6/27	38
新橋演舞場	「おあきと春団治」	7/ 3～ 7/26	29
新橋演舞場	「レビュー夏のおどり」	8/ 5～ 8/ 8	7
新橋演舞場	「老後の資金がありません」	8/13～ 8/26	19
新橋演舞場	「少年たち 君にこの歌を」	9/ 5～ 9/27	35
新橋演舞場	「十月新派特別公演」	10/ 2～10/25	30
新橋演舞場	「虎者 NINJAPAN 2021」	11/ 3～11/27	34
新橋演舞場	「舟木一夫特別公演」	12/ 3～12/21	25
新橋演舞場	「舟木一夫サンクスコンサート」	12/22	1
日生劇場	「ミュージカルGOYA」	4/ 8～ 4/29 (4/25～4/29中止)	22
Bunkamuraシアターコクーン	渋谷・コクーン歌舞伎 第十七弾「夏祭浪花鑑」	5/ 6～ 5/30 (5/6～5/11中止)	28
大阪松竹座	「坂東玉三郎初春特別舞踊公演」	1/ 2～ 1/19	14
大阪松竹座	「レビュー春のおどり」	1/28～ 1/31	8

※中止公演は除く

会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
大阪松竹座	「大阪松竹座 狂言の会」	2/ 5	1
大阪松竹座	「早春 松竹お笑い寄席 in 大阪松竹座」	2/12～ 2/13	4
大阪松竹座	「ANOTHER 新たなる冒険」	3/ 1～ 3/31	36
大阪松竹座	「未来記の番人」	4/ 3～ 4/13	9
大阪松竹座	「レビュー夏のおどり」	6/12～ 6/20 (6/12、6/13、6/19、6/20中止)	8
大阪松竹座	「桂南光独演会」	6/26	1
大阪松竹座	「七月大歌舞伎」	7/ 3～ 7/18	30
大阪松竹座	「関西ジャニーズJr. Summer Special 2021」	7/30～ 8/28	40
大阪松竹座	喜劇「老後の資金がありません」	9/ 1～ 9/15	20
大阪松竹座	十月花形歌舞伎「GOEMON 石川五右衛門」	10/ 5～10/27	37
大阪松竹座	「笑福亭松喬 還暦独演会」	10/31	1
大阪松竹座	「松竹新喜劇錦秋公演」	11/ 6～11/21	18
大阪松竹座	「大阪環状線 大正駅編 愛のエイサープロポーズ大作戦」	12/11～12/25	20
京都南座	「初笑い！ 松竹新喜劇 新春お年玉公演」	1/ 1～ 1/ 7	14
京都南座	「前進座初春特別公演」	1/ 9～ 1/15	20
京都南座	「桂南光独演会」	1/17	1
京都南座	喜劇「お染与太郎珍道中」	2/21～ 2/27	10
京都南座	「三月花形歌舞伎」	3/ 6～ 3/21	30
京都南座	「南座 春の舞台体験ツアー」	3/27～ 4/26 (4/25、4/26中止)	125
京都南座	「海老蔵歌舞伎」	6/ 4～ 6/13	15
京都南座	「いぶき、」	6/17～ 6/20	7
京都南座	「都の賑い」	6/26、 6/27	4
京都南座	「京都 古典芸能の會」	7/ 3	2
京都南座	「桂米朝一門会」	7/ 4	1
京都南座	松竹新喜劇「夏まつり特別公演」	7/10～ 7/18	14
京都南座	「坂東玉三郎 特別舞踊公演」	7/24～ 7/28	5
京都南座	「坂東玉三郎 特別舞踊公演」	8/ 2～ 8/24	21
京都南座	「九月南座超歌舞伎」	9/ 3～ 9/26	44
京都南座	「虎者 NINJAPAN 2021」	10/ 6～10/28	30
京都南座	「伝統芸能 華の舞」	10/29、10/30	3
京都南座	「南座 秋の舞台体験ツアー」	11/ 3～11/17	70
京都南座	「若柳亮太改め 若柳吉亮蔵 名披露目公演 若柳会」	11/23	2
京都南座	「當る寅蔵 吉例顔見世興行 東西合同大歌舞伎」	12/ 2～12/23	60
京都南座	「ゼロからの祈り」	12/27	1

2021年東宝株式会社主催公演

会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
帝国劇場	DREAM BOYS	1/ 1～ 1/27	24
帝国劇場	Endless SHOCK ―Eternal―	2/ 4～ 3/31	60
帝国劇場	モーツァルト！	4/ 8～ 4/27	26
帝国劇場	レ・ミゼラブル	5/21～ 7/26	90
帝国劇場	王家の紋章	8/ 5～ 8/28	32
帝国劇場	DREAM BOYS	9/ 6～ 9/29	31
帝国劇場	ナイツ・テイル	10/ 6～11/ 7	42
帝国劇場	マイ・フェア・レディ	11/14～11/28	20
帝国劇場	ABC座 ジャニーズ伝説	12/ 7～12/21	22
シアタークリエ	レジェンド・オブ・ミュージカル in クリエ Vol.6	1/21	1
シアタークリエ	ローズのジレンマ	2/ 6～ 2/25	27
シアタークリエ	GHOST	3/ 5～ 3/23	25
シアタークリエ	きみはいい人、チャーリー・ブラウン	3/30～ 4/11	17
シアタークリエ	カメレオンズ・リップ	4/14～ 4/26	16
シアタークリエ	ジャニーズ銀座	5/12～ 5/30	26
シアタークリエ	CLUB SEVEN ZERO III	6/ 6～ 6/25	26
シアタークリエ	SHOW BOY	7/ 1～ 7/27	37
シアタークリエ	中川晃教 20th ANNIVERSARY CONCERT	8/ 7～ 8/ 8	3
シアタークリエ	逃げるは恥だが役に立つ	8/11～ 8/18	16
シアタークリエ	リトル・ショップ・オブ・ホラーズ	8/26～ 9/11	24
シアタークリエ	ドッグファイト	9/17～10/ 4	23
シアタークリエ	VOICARION XIII 女王がいた客室	10/ 7～10/13	14
シアタークリエ	Home, I'm Darling	10/20～11/ 7	24
シアタークリエ	GREASE	11/11～12/ 5	33
シアタークリエ	ガラスの動物園	12/12～12/30	24
日生劇場	屋根の上のヴァイオリン弾き	2/ 6～ 3/ 1	31
日生劇場	ウェイトレス	3/ 9～ 3/30	28
日生劇場	ブロードウェイと銃弾	5/12～ 5/30	24
日生劇場	NEWSIES	10/ 9～10/30	29
東急シアターオーブ	マリー・アントワネット	1/28～ 2/21	33
明治座	エニシング・ゴーズ	8/11～ 8/18	7
東京建物プリリアホール	マドモアゼル・モーツァルト	10/10～10/31	29
シアター1010	夫婦漫才	10/16～10/18	3
Zepp DiverCity TOKYO	ENTA！4	12/18～12/22	10

※中止公演は除く

2021年 宝塚歌劇上演記録

会場・劇場	組	上演作品	公演期間	公演回数
宝塚大劇場	雪組	『fff フォルティッシッシモー』『シルクロードへ盗賊と宝石へ』	1/ 1～ 2/ 8	54
	星組	『ロミオとジュリエット』	2/14～ 3/29	62
	花組	『アウグストゥスー尊厳ある者』『Cool Beast!!』	4/ 2～ 5/10	30
	月組	『桜嵐記』『Dream Chaser』	5/15～ 6/21	53
	宙組	『シャーロック・ホームズーThe Game Is Afoot!』『Délieux!ー甘美なる巴里ー』	6/26～ 8/ 2	54
	雪組	『CITY HUNTER』『Fire Fever!』	8/ 7～ 9/13	53
	星組	『柳生忍法帖』『モアー・ダンディズム!』	9/18～11/ 1	64
	花組	『元禄バロックロック』『The Fascination!』	11/ 6～12/13	54
		小計		424
東京宝塚劇場	月組	『WELCOME TO TAKARAZUKA ー雪と月と花とー』『ピガール狂騒曲』	1/ 1～ 1/ 3	4
	宙組	『アナスタシア』	1/ 8～ 2/21	60
	雪組	『fff フォルティッシッシモー』『シルクロードへ盗賊と宝石へ』	2/26～ 4/11	60
	星組	『ロミオとジュリエット』	4/16～ 5/23	34
	花組	『アウグストゥスー尊厳ある者』『Cool Beast!!』	5/28～ 7/ 4	50
	月組	『桜嵐記』『Dream Chaser』	7/10～ 8/15	53
	宙組	『シャーロック・ホームズーThe Game Is Afoot!』『Délieux!ー甘美なる巴里ー』	8/21～ 9/26	53
	雪組	『CITY HUNTER』『Fire Fever!』	10/ 2～11/14	63
	星組	『柳生忍法帖』『モアー・ダンディズム!』	11/20～12/26	53
		小計		430
宝塚バウホール	月組	『Eternità』	1/15～ 1/17	5
	花組	『PRINCE OF ROSESー王冠に導かれし男ー』	1/28～ 2/ 7	17
	月組	『幽霊刑事(デカ)ーサヨナラする、その前にー』	3/ 7～ 3/23	25
	宙組	『夢千鳥』	4/22～ 4/25	6
	雪組	『ほんものの魔法使』	5/21～ 6/ 1	18
	星組	『マノン』	7/ 1～ 7/12	18
	月組	『LOVE AND ALL THAT JAZZ』	10/ 7～10/18	17
		小計		106
梅田芸術劇場メインホール	花組	『NICE WORK IF YOU CAN GET IT』	2/ 2～ 2/ 9	11
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	月組	『ダル・レークの恋』	3/14～ 3/21	11
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	星組	『婆娑羅の玄孫』	7/ 9～ 7/15	10
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	花組	『銀ちゃんの恋』	9/ 2～ 9/10	13
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	宙組	『プロミセス、プロミセス』	11/13～11/18	10
東京国際フォーラム	花組	『NICE WORK IF YOU CAN GET IT』	1/ 9～ 1/19	16
TBS赤坂ACTシアター	月組	『ダル・レークの恋』	2/16～ 2/28	20
東京建物Brillia HALL	宙組	『Hotel Svizra House ホテル スヴィッツラ 하우스』	4/10～ 4/15	10
東京建物Brillia HALL	宙組	『プロミセス、プロミセス』	11/30～12/ 7	12
東京芸術劇場プレイハウス	星組	『婆娑羅の玄孫』	7/21～ 7/29	13
舞浜アンフィシアター	星組	『VERDAD!!』	7/ 2～ 7/10	14
KAAT神奈川芸術劇場	雪組	『ほんものの魔法使』	6/ 8～ 6/16	14
KAAT神奈川芸術劇場	星組	『マノン』	7/22～ 7/28	10
KAAT神奈川芸術劇場	花組	『銀ちゃんの恋』	8/16～ 8/24	13
博多座	月組	『川霧の橋』『Dream Chaserー新たな夢へー』	10/11～11/ 3	35
全国ツアー	雪組	『ヴェネチアの紋章』『ル・ポアゾン 愛の媚薬 ーAgainー』	6/ 2～ 6/15	19
全国ツアー	花組	『哀しみのコルドバ』『Cool Beast!!』	8/25～ 9/14	29
全国ツアー	宙組	『パロンの末裔』『アクアヴィーテ(aquavite)!!』	11/21～12/ 9	22
		小計		282
		総合計		1,242

※中止公演は除く

2021年劇団四季上演記録

	上演作品	会場	公演期間	公演回数 (休演日を含む公演日数)	動員数 (見込み)
東京	『劇団四季 The Bridge ～歌の架け橋～』	JR東日本四季劇場[春]	21/ 1/10～21/ 2/11	29	19,150
	『アナと雪の女王』	JR東日本四季劇場[春]	21/ 6/24～ロングラン上演	178	245,600
	『オペラ座の怪人』	JR東日本四季劇場[秋]	20/10/24～22/ 1/10	327/391	213,840
	『ロボット・イン・ザ・ガーデン』	自由劇場	20/10/ 3～21/ 3/21	47/96	10,180
	『はじまりの樹の神話～こそあどの森の物語～』	自由劇場	21/ 8/15～21/ 8/29	16	6,110
	『ロボット・イン・ザ・ガーデン』	自由劇場	21/12/22～22/ 1/23	7	3,180
	『アラジン』	電通四季劇場[海]	15/ 5/24～ロングラン上演	309/2021	251,770
	『ライオンキング』	四季劇場[夏]	17/ 7/16～21/ 6/12	132/1165	57,680
	『キャッツ』	キャッツ・シアター	18/ 8/11～21/ 6/20	140/818	76,860
	『ライオンキング』	有明四季劇場	21/ 9/26～ロングラン上演	88	83,470
	小計			1273	967,840
大阪	『リトルマーメイド』	大阪四季劇場	18/10/13～21/11/21	250/864	170,060
	小計			250	170,060
京都	『マンマ・ミーア!』	京都劇場	21/ 1/27～21/ 5/23	96	36,970
	小計			96	36,970
名古屋	『ライオンキング』	名古屋四季劇場	20/ 3/26～22/ 5/15	315/478	174,970
	小計			315	174,970
福岡	『マンマ・ミーア!』	キャナルシティ劇場	20/10/ 1～21/ 1/ 3	3/89	1,040
	『コーラスライン』	キャナルシティ劇場	21/ 1/30～21/ 2/11	11	4,970
	『劇団四季 The Bridge ～歌の架け橋～』	キャナルシティ劇場	21/ 3/14～21/ 3/28	15	5,240
	『ロボット・イン・ザ・ガーデン』	キャナルシティ劇場	21/ 4/29～21/ 5/16	18	5,460
	『キャッツ』	キャナルシティ劇場	21/ 7/27～22/ 4/17	145	86,190
	小計			192	102,900
全国	『コーラスライン』	12都市／通算51都市	20/ 9/19～21/ 2/14	13/75	12,530
	『劇団四季 The Bridge ～歌の架け橋～』	65都市	21/ 4/16～21/ 9/30	96	88,910
	『はじまりの樹の神話～こそあどの森の物語～』 全国公演	34都市／通算69都市	21/ 9/12～22/ 3/21	38	24,820
	『はじまりの樹の神話～こそあどの森の物語～』 日産労連チャリティ公演	16都市	21/11/16～21/12/21	16	5,300
	『劇団四季のアンドリュース・ロイド＝ ウェバーコンサート～アンマスクド～』	4都市／通算12都市	21/12/ 5～22/ 2/10	23	24,390
	小計			186	155,950
総合計				2312回	1,608,690人

売上高約150億円(見込み)
(前年比70億円増)

※貸切含む。
※中止公演は除く。

令和3年 演劇賞 関係各賞受賞者

※演劇関係者のみ記載、順不同・敬称略

※2021年(令和3年)2月下旬～2022年(令和4年)2月中旬に発表されたものを記載

【令和3年度 文化勲章】

尾上菊五郎(歌舞伎俳優)、牧阿佐美(舞踊家)

【令和3年度 文化功労者】

唐十郎(劇作家、演出家、俳優)、谷口吉生(建築家)、富野由悠季(アニメーション映画監督、原作者)、豊竹咲太夫(人形浄瑠璃文楽大夫)、西川扇蔵(日本舞踊家)、堀威夫(芸能プロモーター)、山上路夫(作詞家)

【令和3年 春の叙勲・褒章】

※各都道府県順

◇**旭日小綬章**＝いしだあゆみ(俳優・歌手)、服部基(舞台照明家)、杵屋勝国(長唄三味線演奏家)、森進一(歌手)、神田松鯉(講談師)、藤倉名生(長唄囃子[笛]演奏家)、片岡秀太郎(歌舞伎俳優)

◇**旭日双光章**＝中村虎治(元日本舞踊協会青森県支部支部長)、國川純(能楽師[太鼓方高安流])、清元三之輔(清元節三味線演奏家)、谷村育子(能楽師[シテ方観世流])

◇**紫綬褒章**＝金森穰(舞踊家)、鶴澤燕三(人形浄瑠璃文楽三味線演奏家)

【令和3年 秋の叙勲・褒章】

※各都道府県順

◇**旭日小綬章**＝大石静(脚本家)、橋爪功(俳優)、オリビア・ニュートンジョン(米歌手、俳優)

◇**旭日中綬章**＝ヴァレリー・フォーキン(ロシア連邦人民芸術家、現ロシア国立演劇劇場芸術監督)

◇**旭日双光章**＝清元志寿朗(清元節三味線演奏家)

◇**紫綬褒章**＝内野聖陽(俳優)、黒沢清(映画監督) 藤本昭子(地歌演奏家)、湯浅政明(アニメーション映画監督)、小川洋子(小説家)

◇**黄綬褒章**＝渡邊恒(歌舞伎ツケ打ち)

【第32回高松宮殿下記念世界文化賞】

～演劇・映像部門～

新型コロナウイルスの影響により該当者なし

【令和3年度 第76回文化庁芸術祭賞】

◇**大賞**＝劇団新派(「十月新派特別公演」における「太夫さん」の成果)、兵庫県立ピッコロ劇団(第71回公演「いないものだけ手に入る」の成果)

◇**優秀賞**＝内野聖陽(こまつ座第138回公演「化粧二題」における演技)、エイチエムピー・シアターカンパニー(エイチエムピー・シアターカンパニー「マクベス 釜と剣」の成果)

◇**新人賞**＝平体まひろ(ala Collectionシリーズvol.12「紙屋悦子の青春」における演技)、礼真琴(宝塚歌劇 星組公演「柳生忍法帖」モアール・ダンディズム!」における演技)

【令和2年度 第71回芸術選奨】

～演劇部門～

◇**大臣賞**＝岡本健一(俳優/「リチャード二世」の成果)、松本祐子(演出家/「五十四の瞳」の成果)

◇**新人賞**＝鈴木杏(俳優/「殺意 ストリップショウ」ほかの成果)

【第24回文化庁メディア芸術祭】

～アート部門～

◇**大賞**＝「縛られたプロメテウス」(構成・演出/小泉明郎)

～エンターテインメント部門～

◇**優秀賞**＝劇団ノーマーツ

【令和3年度文化庁長官表彰】

足立安男(歌舞伎大道具製作技術者)、一噌庸二(能楽師 笛方一噌流)、伊東正示(劇場コンサルタント)、小木直樹(舞台照明デザイナー)、木俣貞雄(俳優・脚本・演出)、鳳聲晴由(歌舞伎鳴物笛方)、高橋巖(舞台音響家)、高良時江(琉球箏曲演奏家)、富山尚(音響デザイナー)、中島順三(アニメーションプロデューサー)、疋田拓(テレビプロデューサー)、市川海老蔵(歌舞伎俳優)、清元榮志太夫(清元節太夫)、佐藤太圭子(琉球舞踊家)、吉田玉也(人形浄瑠璃文楽人形遣い)、山田幸孝(歌舞伎小道具方)

【令和2年度恩賜賞・日本芸術院賞】

◇**日本芸術院賞**＝片岡孝太郎(歌舞伎)、観世清和(能楽)、西川蓑乃助(舞踊)

【第40回(令和2年度)国立劇場文楽賞】

◇**文楽大賞**＝竹本千歳太夫

◇**文楽優秀賞**＝桐竹勘十郎、吉田勘彌

◇**文楽奨励賞**＝豊竹希太夫、豊竹靖太夫

◇**文楽特別賞**＝鶴澤清治

【令和2年度文楽協会賞】

竹本碩太夫(太夫の部)、鶴澤燕二郎(三味線の部)、桐竹勘次郎(人形の部)

【第50回令和3年度 大谷竹次郎賞】

対象作品なし

【第43回松尾芸能賞】

◇**大賞**＝野村萬斎(能狂言)

◇**優秀賞**＝シルビア・グラブ(演劇)、尾上菊之丞(舞踊)

◇**新人賞**＝坂東巳之助(演劇)

◇**特別賞**＝伊東四朗(演劇)

◇**功労賞**＝坂東竹三郎(演劇)

【第46回菊田一夫演劇賞】

◇**演劇大賞**＝風間杜夫(「セールスマンの死」ウィリー・ローマン役、「女の一生」提章介役、「白昼夢」高橋清役の演技に対して)

◇**演劇賞**＝加藤和樹(「ローマの休日」のジョー・ブラッドレー役、「BARNUM/バーナム」のフィニアス・テイラー・バーナム役の演技に対して)、海宝直人(「アリュージュ・サミエ〜忠誠〜」サミー役、TOHO MUSICAL LAB.「Happily Ever After」男役の演技に対して)、咲妃みや(「NINE」ルイザ役、「GHOST」モリー役の演技に対して)、高畑充希(「ウェイトレス」のジェナ役の演技に対して)

◇**特別賞**＝鳳蘭(「屋根の上のヴァイオリン弾き」をはじめてとする永年の演劇界への功績に対して)

【第56回紀伊國屋演劇賞】

◇**団体賞**＝劇団俳優座(「正義の人びと」「雪の中の三人」「インク」「戒厳令」「面と向かって」の優れた舞台成果に対して)

◇**個人賞**＝ひびのこづえ(NODA・MAP公演「フェイクスピア」の衣裳に対して)、松尾貴史(二兎社公演「鵬外の怪談」における森林太郎(鵬外)の演技に対して)、緒川たまき(ケムリ研究室公演「砂の女」における女の演技に対して)、吉田羊(パルコプロデュース公演「ジュリアス・シーザー」におけるブルータスの演技に対して)、上村聡史(フジテレビジョン/産経新聞社/サンライズプロモーション東京主催 舞台「Oslo(オスロ)」、世田谷パブリックシアター公演「森 フォレ」の演出に対して)

【第29回読売演劇大賞】

◇**大賞・最優秀作品賞**＝NODA・MAP「フェイクスピア」

◇**最優秀男優賞**＝高橋一生(「フェイクスピア」の演技)

◇**最優秀女優賞**＝緒川たまき(「砂の女」の演技)

◇**最優秀演出家賞**＝上村聡史(「OSLO」「森 フォレ」の演出)

◇**最優秀スタッフ賞**＝伊藤雅子(「ジュリアス・シーザー」「反応工程」「友達」の美術)

◇**杉村春子賞**＝那須凜(「アルビオン」「春の終わりに」「ザ・ドクター」の演技)

◇**芸術栄誉賞**＝本多劇場グループ

◇**選考委員特別賞**＝「桜姫東文章」(松竹)

【第63回毎日芸術賞】

風間杜夫(舞台「女の一生」「セールスマンの詩」「白昼夢」「ベンガルの虎」「帰って来たカラオケマン」での演技)

【第72回日本放送協会放送文化賞受賞者】

大石静(脚本家)、北大路欣也(俳優)

【2021年日本民間放送連盟賞】

～番組部門(テレビ)～

◇**エンターテインメント優秀賞**＝WOWOW「劇場の灯を消すな! Bunkamuraシアターコクーン編 松尾スズキプレゼンツアクリル演劇祭」

【WOWOW presents 勝手に演劇大賞2020】

◇**作品賞<ストレートプレイ部門>**＝「大地(Social Distancing Version)」

◇**作品賞<ミュージカル部門>**＝「ホイッスル・ダウン・ザ・ウィンド〜汚れなき瞳〜」

◇**作品賞<2.5次元部門>**＝舞台「刀剣乱舞」シリーズ

◇**演出賞**＝松尾スズキ

◇**男優賞**＝阿部サダヲ

◇**女優賞**＝生田絵梨花

◇**新人賞**＝濱田龍臣

【Corich舞台芸術アワード! 2021】

◇**第1位**＝iaku「フタマツヅキ」

◇**第2位**＝劇団チョコレートケーキ「帰還不能点」

◇**第3位**＝カラ／フル「海のホタル」

【観世寿夫記念法政大学能楽賞】

◇**第43回能楽賞**＝松岡心平(能楽研究者) 野村萬斎(和泉流狂言方)

◇**第31回催花賞**＝三宅右近氏と日本ろう者劇団

【第41回伝統文化ボーラ賞】

◇**優秀賞**＝杵屋勝彦(長唄の伝承・振興)

◇**奨励賞**＝新内多賀太夫(新内節の伝承・振興)

【日本クリエイション大賞2020】

◇**伝統文化革新賞**＝松本幸四郎(新たな歴史を刻む動画配信歌舞伎の創造)

【第22回テアトロ演劇賞】

該当者なし

【第9回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞】

風姿花伝プロデュース「ダウト 〜疑いについての寓話」

【第69回菊池寛賞】

仲代達也、松岡和子

【第65回岸田國土戯曲賞】

受賞作なし

【第33回テアトロ新人戯曲賞】

◇**当選作**＝なし

◇**佳作**＝野村勇「よそのくに」

【『日本の劇』戯曲賞2021】

◇**最優秀賞**＝該当なし

◇**佳作**＝七坂稲「再生」

【第27回劇作家協会新人戯曲賞】

高山さなえ「あなたがわたしを忘れた頃に」

【第25回鶴屋南北戯曲賞】

岡田利規「未練の幽霊と怪物―『挫波』『敦賀』―

【第28回OMS戯曲賞】

◇**大賞**＝山本彩「花を摘む人」

◇**佳作**＝山村菜月「その桃は血の味がする」

【第21回AAF戯曲賞】

◇**大賞**＝守安久二「鮭なら死んでるひよこたち」

◇**特別賞**＝村川拓也「事件」

【かながわ短編演劇アワード2021】

～演劇コンペティション～

◇**かながわ短編演劇賞グランプリ**＝安住の地「ボレロの廻行」

～戯曲コンペティション～

◇**かながわ短編戯曲賞大賞**＝「@ Morioka (僕＝村田青葉の場合)」〈作：村田青葉〉

【第6回泉鏡花記念金沢戯曲大賞】

◇**大賞**＝武石最中「水向茶碗」

◇**佳作**＝辻本久美子「幸せな人形」

◇**審査員奨励賞**＝萩谷至史「君と出会えるその日まで」

【第4回 人間座「田畑実戯曲賞」】

武士岡大吉「路線図」、水野はつね「骨を捨てる」

【第14回小田島雄志・翻訳戯曲賞】

齋藤敦子(「Le Fils 息子」の翻訳に対して)、高橋亜子(「Glory Days グローリー・デイズ」「ダブル・トラブル」の翻訳・訳詞に対して)、オフィスコトナー(「墓場なき死者」の上演に対して)、風姿花伝プロデュース(「ダウト〜疑いについての寓話」の上演に対して)

◇**特別賞**＝松岡和子(シェイクスピア37戯曲完訳に対して)

【第73回(2021年度)読売文学賞】

戯曲・シナリオ賞＝該当作なし

【若手演出家コンクール2020】

◇**最優秀賞**＝三上陽永(ぼこぼこクラブ)

◇**優秀賞**＝今井尋也(シルクロード能楽会)、國吉咲貴(くによし組)、伏木啓(演出家/映像作家)

【第27回ニッセイ・バックステージ賞】

高橋嘉市(音響クリエイター・オペレーター)、岡本義秀(文楽背景画製作)

【第40回2020年度日本照明家協会賞】

～舞台部門～

◇**文部科学大臣賞・大賞**＝小沢敦(こまつ座「イヌの仇討」)

◇**優秀賞**＝喜多村貴(東京二期会「椿姫」、齋藤潤(緑黄色社会「SINGALONG tour 2020〜last piece」)、高田政義(「オレステスとピュラデス」)、吉川ひろ子(「ドラマチック古事記2020―神々の愛の物語―」)

◇**新人賞**＝田中祐太(劇団俳優座「マクベスの悲劇」、高瀬勇佑(「新 雪之丞変化」、富山貴之(「BETRAYAL 背信」、吉田一弥(「忠臣蔵・急・ポリティクス/首」、山村弘美(「ENTA! 3」、渡辺佳奈(劇団とつても便利「美しい人」、松田健作(丸岡有子バレエ・モダンダンススタジオ「20周年記念発表会」)

◇**奨励賞**＝浅沼昌弘(第12回奥州市民☆文士劇「鞍馬天狗」、志村拓(劇団わらび座「ミュージカル「空! 空! 空! ! !」、阿部康子(青年劇場「星をかすめる風」、稲葉直人(「ルチア あるいはある花嫁の悲劇」、渡邊雄太(「SUNDAY」、山口明子(ダンス劇「舐める床」、友松裕二(須山仁美クラシックバレエ 定期公演2020)

◇**努力賞**＝柴田良孝(第18回あきたYOSAKOIキッズ祭り

特別大会)、榊田晃代(「NIPPON・CHA!CHA!CHA!」、阿部美世子(TOKYO CITY BALLET LIVE2020 CITY BALL ET SALON Vol.9)、松本大介(「グッドバイ」、須賀智巳(演劇組織KIMYO「ハンザキ」、葛西健一(「The last night recipe」)

◇**スタッフ賞**=前田奈都子、本山和範、長野ちひろ、廣江恭平、株式会社ライティングカンパニーあかり組

【第26回AICT演劇評論賞】

梅山いつき(著作「佐藤信と「運動」の演劇 黒テントとともに歩んだ50年」作品社)

【第11回衛星放送協会オリジナル番組アワード】

～文化・教養部門～

◇**最優秀賞**=WOWOW「劇場の灯を消すな! Bunkamuraシアターコクーン編 松尾スズキプレゼンツ アクリル演劇祭」

【映画連アワード2021】

◇**最優秀作品賞(グランプリ)**=「幕内劇場」(出演:市川海老蔵ほか 製作:(株)HIROBA クライアント:(株)3Top)

【第38回浅草芸能大賞】

◇**奨励賞**=中村七之助(歌舞伎俳優)

【第23回関西現代演劇俳優賞】

◇**大賞**=風太郎(兵庫県立ピッコロ劇団)、はたとようこ(桃園会)

◇**奨励賞**=田淵詩乃(兵庫県立ピッコロ劇団)

【第40回京都府文化賞】

◇**特別功労賞・第40回記念特別賞**=古典の日推進委員会 会長 村田純一

◇**功労賞**=大谷祥子(箏曲家)、沢田研二(歌手・俳優)、富治林浩(和太鼓奏者・指導者)

◇**奨励賞**=中村竜太郎(歌舞伎俳優)

【令和2年度大阪文化祭賞】

◇**大阪文化祭賞**=竹本銀太夫[第1部門:伝統芸能・邦舞・邦楽](新春文楽公演「傾城反魂香 土佐待監閑居の段」の成果)、工藤俊作[第2部門:現代演劇・大衆芸能](「プロジェクトKUTO-10」の成果)

◇**大阪文化祭奨励賞**=豊竹希太夫[第1部門:伝統芸能・邦舞・邦楽](錦秋文楽公演「本朝廿四孝 景勝上使の段」の成果)、橋本匡市[第2部門:現代演劇・大衆芸能](オンライン配信を活用した演劇公演の企画上演)

【令和3年度憲法記念日知事表彰(大阪府)】

～文化関係・個人～

西園寺章雄(俳優)、藤岡英幸(舞台監督)、吉田玉也(人形浄瑠璃文楽・人形)

【第56回大阪市市民表彰】

◇**文化功労**=竹本銀太夫(人形浄瑠璃文楽太夫)、高橋晃子(人形浄瑠璃文楽人形床山)、三林京子(俳優)

【仏・レジオン・ドヌール勲章】

◇**シュバリエ**=コシノジュンコ(ファッションデザイナー)

【第74回トニー賞】(授賞式:2021年9月27日)

～ミュージカル部門～

◇**作品賞**=「ムーラン・ルージュ」(MOULIN ROUGE! THE MUSICAL!)

◇**リバイバル作品賞**=該当なし

◇**主演男優賞**=アロン・トヴェイト(ムーラン・ルージュ)

◇**主演女優賞**=エイドリアン・ウォーレン(ティナ/ザ・ティナ・ターナー・ミュージカル)

◇**助演男優賞**=ダニー・バースタイン(ムーラン・ルージュ)

◇**助演女優賞**=ローレン・パッテン(ジャグド・リトル・ビル)

◇**演出賞**=アレックス・ティンバース(ムーラン・ルージュ)

◇**脚本賞**=ディアブロ・コディ(ジャグド・リトル・ビル)

◇**装置デザイン賞**=デレク・マクレーン(ムーラン・ルージュ)

◇**衣装デザイン賞**=キャサリン・ズーパー(ムーラン・ルージュ)

◇**照明デザイン賞**=ジャスティン・タウンゼンド(ムーラン・ルージュ)

◇**音響デザイン賞**=ピーター・ハイレンスキ(ムーラン・ルージュ)

～演劇部門～

◇**作品賞**=「インヘリタンス」(The Inheritance)

◇**リバイバル作品賞**=「ソルジャーズ・プレイ」(A Soldier's Play)

◇**主演男優賞**=アンドリュー・パーナップ(インヘリタンス)

◇**主演女優賞**=メアリー=ルイズ・パーカー(サウンド・インサイド)

◇**助演男優賞**=デヴィッド・アラン・グリア(ソルジャーズ・プレイ)

◇**助演女優賞**=ロイス・スミス(インヘリタンス)

◇**演出賞**＝スティーヴン・ダルドリー(インヘリタンス)

◇**装置デザイン賞**＝ロブ・ハウエル(クリスマス・キャロル)

◇**衣装デザイン賞**＝ロブ・ハウエル(クリスマス・キャロル)

◇**照明デザイン賞**＝ヒュー・ヴァンストーン(クリスマス・キャロル)

◇**音響デザイン賞**＝サイモン・ペイカー(クリスマス・キャロル)

～ミュージカル・演劇共通部門～

◇**オリジナル楽曲賞**＝クリストファー・ナイチンゲール(クリスマス・キャロル)

◇**振付賞**＝ソーニャ・ターヤ(ムラン・ルージュ)

◇**オーケストラ編曲賞**＝ジャスティン・レヴィン／ケイティ・クレセック／チャーリー・ローゼン／マット・スタイン(ムラン・ルージュ)

～事前発表～

◇**功労賞**＝グラシエラ・ダニエル(Graciela Daniele)

◇**特別賞**＝ブロードウェイ支持連合(The Broadway Advocacy Coalition)、デヴィッド・バーン「アメリカン・ユートピア」(David Byrne's American Utopia)、フリースタイル・ラヴ・シュアブリーム(Freestyle Love Supreme)

◇**地方劇場賞**＝該当なし

◇**イザベル・スティーヴンソン賞**＝ジュリー・ハルストン(Julie Halston)

◇**名誉賞**＝フレッド・ギャロ(Fred Gallo)、アイリーン・キャンディ(Irene Gandy)、パリー・ジェンキンス(Beverly Jenkins)、ニュー・フェデラル・シアター(New Federal Theatre, Woodie King Jr, Founder)

【米・第93回アカデミー賞】

◇**作品賞**＝「ノマドランド」

◇**監督賞**＝クロエ・ジャオ(「ノマドランド」)

◇**主演男優賞**＝アンソニー・ホプキンス(「ファーザー」)

◇**主演女優賞**＝フランシス・マクドーマンド(「ノマドランド」)

◇**助演男優賞**＝ダニエル・カルーヤ(「Judas and the Black Messiah (原題)」)

◇**助演女優賞**＝ユン・ヨジョン(「ミナリ」)

◇**脚本賞**＝「プロミシング・ヤング・ウーマン」(エメラルド・フェネル)

◇**脚色賞**＝「ファーザー」(クリストファー・ハンブトン／フロリアン・ゼレール)

◇**国際長編映画賞**＝「アナザーラウンド」(デンマーク)

◇**長編アニメーション賞**＝「ソウルフル・ワールド」

◇**短編アニメーション賞**＝「愛しているって言って

おくね」

【第44回日本アカデミー賞】

◇**最優秀作品賞**＝「ミッドナイトスワン」

◇**最優秀アニメーション作品賞**＝「劇場版「鬼滅の刃」無限列車編」

◇**最優秀監督賞**＝若松節朗(「Fukushima50」)

◇**最優秀脚本賞**＝野木亜紀子(「罪の声」)

◇**最優秀主演男優賞**＝草薙剛(「ミッドナイトスワン」)

◇**最優秀主演女優賞**＝長澤まさみ(「MOTHERマザー」)

◇**最優秀助演男優賞**＝渡辺謙(「Fukushima50」)

◇**最優秀助演女優賞**＝黒木華(「浅田家!」)

◇**最優秀撮影賞**＝江原祥二(「Fukushima50」)

◇**最優秀照明賞**＝杉本崇(「Fukushima50」)

◇**最優秀音楽賞**＝梶浦由記／椎名豪(「劇場版「鬼滅の刃」無限列車編」)

◇**最優秀美術賞**＝瀬下幸治(「Fukushima50」)

◇**最優秀録音賞**＝柴崎憲治／鶴巻仁(「Fukushima50」)

◇**最優秀編集賞**＝石井巖／石島一秀(「男はつらいよ おかえり寅さん」)

◇**最優秀外国作品賞**＝「パラサイト 半地下の家族」

【東京ドラマアウォード2021】

～連続ドラマ部門～

◇**グランプリ**＝「俺の家の話」(出演：長瀬智也、戸田恵梨香ほか)

◇**優秀賞**＝「コントが始まる」(出演：菅田将暉、有村架純ほか)、「MIU404」(綾野剛、星野源ほか)、「半沢直樹」(堺雅人、上戸彩ほか)、「天国と地獄～サイコな2人～」(綾瀬はるか、高橋一生ほか)、「大豆田とわ子と三人の元夫」(松たか子、岡田将生ほか)、「華麗なる一族」(中井貴一、向井理ほか)

～単発ドラマ部門～

◇**グランプリ**＝「太陽の子」(柳楽優弥、有村架純ほか)

◇**優秀賞**＝「流行感冒」(本木雅弘、安藤サクラほか)、「エアガール」(広瀬すず、坂口健太郎ほか)、「人生最高の贈りもの」(石原さとみ、向井理ほか)、「教場Ⅱ」(木村拓哉、濱田岳ほか)

～ローカル・ドラマ賞～

「ペペロンチーノ」(草薙剛、吉田羊ほか)、「ミヤコが京都にやって来た!」(佐々木蔵之介、藤野涼子ほか)

～奨励賞～

ミニドラマ「悲熊」(日本放送協会)

～個人賞～

◇**主演男優賞**＝窪田正孝(「エール」)

◇**主演女優賞**＝綾瀬はるか(「天国と地獄～サイコな2人～」)

◇**助演男優賞**＝西田敏行(「俺の家の話」)

◇**助演女優賞**＝江口のりこ(「俺の家の話」)

◇**脚本賞**＝坂本裕二(「大豆田とわ子と三人の元夫」)

◇**演出賞**＝西村武五郎(「きれいのくに」)

～特別賞～

橋田壽賀子

【第29回橋田賞】

◇**橋田賞**＝池端俊策(脚本家)、二階堂ふみ(俳優)、長谷川博己(俳優)

◇**橋田賞新人賞**＝賀来賢人(俳優)、上白石萌音(俳優)

【令和2年度橋田賞新人脚本賞】

藤田知多佳「ハゼと私とホタテと」、山脇さやか「スマイレの道標」

令和3年 劇壇時事

2021年1月～12月

【1月】

●昨年8月から四部制公演の実施を続けてきた歌舞伎座が、1月から三部制公演（各部総入れ替え、幕間あり、2演目）を導入。ただ引き続き50%の座席使用を維持。

●松本幸四郎が松竹エンタテインメントと業務提携したことが1日発表された。

●日本舞踊の名手として宝塚歌劇団で長年活躍した専科の松本悠里が3日、月組公演「WELCOME TO TAKARAZUKA 一雪と月と花とー」の東京宝塚劇場千秋楽をもって退団した。歌劇の功労者を称える「宝塚歌劇の殿堂」に現役生から唯一選ばれた大ベテランが、足かけ64年のタカラジェンヌ人生に幕を下ろした。

●米音楽の祭典「グラミー賞」の授賞式が、新型コロナウイルスの影響で予定されていた1月末から3月に延期されることが5日発表された。

●政府は7日、首都圏の1都3県（東京、神奈川、千葉、埼玉）に緊急事態宣言を決定した。期間は2月7日まで。飲食店などの営業を午後8時までに短縮するよう求めたほか、イベントの開催については収容人数が1万人を超える場合は5000人を上限とし、1万人以下の場合は収容率50%を上限とした。緊急事態宣言は昨年4月7日、東京など7都府県を対象に初めて発令され、その後全国に拡大。段階的に解除し、5月25日に全面解除されていた。

●東京都は7日、政府の緊急事態宣言を受け、劇場や映画館などを対象に、法律に基づかない「呼びかけ」として、営業時間を午後8時までとするよう協力を求めた。また、劇場や映画館などのイベント関係の施設管理者に対しては、人数の上限を5000人かつ収容率を50%以下とするよう協力を求めた。

●世田谷区役所玉川総合支所の新庁舎が12日開所。行政施設のほか区民会館も併設。可動式で最大388座席、愛称は公募で「玉川せせらぎホール」に決まった。

●政府の緊急事態宣言を受け、歌舞伎座・宝塚歌劇団・劇団四季など各劇場や興行元は、夜8時までに終演できるよう開演時間を早めるなどの対応を行った。

●NHKは13日、2023年度に受信料を約1割値下げする方針を固めた。経営効率化で生じた繰越剰余金を積み立てる制度を導入するなどして値下げの原資を捻出する。

●政府は13日、緊急事態宣言の対象地域に、大阪・兵庫・京都の関西3府県、愛知・岐阜の東海2県、さらに福岡県と栃木県の合わせて7つの府県を追加した。

●昨年からの着工している紀伊國屋ビルディング耐震補修工事で間もなく改修工事期間に入る紀伊國屋ホールで14日、「改修前最終公演」となる「熱海殺人事件 ラストレジェンド ～旋律のダブルスタンバイ～」が開幕した。公演は1月31日まで。

●脚本家・小説家・放送作家などと多岐に渡り活躍した向田邦子の没後40周年特別イベント「いま、風が吹いている」が14日から東京・南青山のスパイラルで開催された。愛用品や生原稿、写真など約300点の資料が展示されたほか、舞台『寺内貫太郎33回忌』（出演：浅田美代子、溝口淳平、荒川良々、小林亜星[声]ほか）の配信公演などが行われた。

●新橋演舞場『新春海老蔵歌舞伎』で17日、千鶴楽公演がオンライン生配信（料金3,500円）された。歌舞伎本興行の千秋楽がオンライン生配信されたのは初めて。

●パナソニックが18日、劇場などの評価方法「View-est」に関するセミナーを開催した。評価方法は、近年、国内の劇場やホールで特定の座席で舞台が見にくいケースが増えていることを受けて開発されたもの。具体的には、それぞれの座席からの舞台の見え方を評価する「見え方総合評価プログラム」などで構成されており、既存施設の評価や客席の格付け、舞台が見にくい劇場やホールの改修に役立てる。

●第164回芥川賞・直木賞の選考会が20日開かれ、芥川賞は宇佐美りん『推し、燃ゆ』、直木賞は西條奈加『心淋し川』に決まった。

●静岡県は2021年度、演劇を活用した地域活性化モデル事業「演劇の都」構想の一環として、県舞台芸術センター（SPAC）内に高校生対象の通年の演劇スクールを新設する方針を固め、21年度当初予算案への事業費計上に向けて調整を始めた。県では将来的な県内高校への演劇学科の設置を見据え、授業カリキュラムや指導方法を実践的に検証する場としても位置付けるほか、県内約60校にある演劇部の活性化にもつながる考え。

●カンヌ国際映画祭事務局は27日、新型コロナウイルスの流行を踏まえ、5月11～22日に予定していた開催日程を7月6～17日に延期すると発表した。一方、ベルリン国際映画祭は2月の通常開催を取りや

め、オンラインで開催し受賞作品を発表する予定となった。

●東京・柴又の料亭「川甚」が31日、新型コロナウイルスの影響で閉店した。江戸時代後期の創業以来230年にわたり柴又で愛され、映画「男はつらいよ」シリーズ第1作目で、主人公・車寅次郎の妹・さくらの結婚披露宴の舞台ともなった。

【2月】

●宝塚歌劇団は1日、現在宝塚音楽学校の理事副校長の木場健之氏が4月1日付で宝塚歌劇団新理事長に就任すると発表した。

●政府は2日、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた緊急事態宣言を決定した。宣言を延長するのは、東京・神奈川・埼玉・千葉・愛知・岐阜・大阪・京都・兵庫・福岡の10都府県。栃木県は状況改善のため7日で解除した。合わせて午後8時までの飲食店の時短要請、午後8時以降の外出自粛要請、イベントの収容人数の上限最大5000人と収容率50%までの要請も継続とした。延長期限は3月7日までとした。

●二月大歌舞伎が2日に開幕。十七世中村勘三郎三十三回忌追善狂言として上演された『連獅子』で、父・中村勘九郎と共に長男・勘太郎が仔獅子を勤めた。勘太郎は現在9歳。本興行で連獅子を1か月勤めたのは、記録にある限り最年少での挑戦となった。

●総務省が5日発表した2020年(令和2年)の家計調査で、1世帯当たりの月平均消費支出が277,926円となり、前年と比べ5.3%減少した。「新しい生活様式」の下、人が密集する娯楽施設は客足が減り、映画や演劇などは63.2%減と大幅に減少した。

●国立文楽劇場は5日、昨年10月1日から2月4日まで募集をしていた人形浄瑠璃文楽の次代を担う第30期文楽研修生の募集期間を19日まで延長することを発表した。新型コロナウイルスの影響で、昨年の春から夏にかけての公演中止や休止が続き、PRが十分できなかったためとしている。

●国立能楽堂で5日、伝統芸能エンタテインメントプログラム『蝸牛〜KAGYU』がオンライン配信された。国立能楽堂で初のクロマキー撮影を実施し、VFX技術によって背景や群衆、見立てによる小道具など、演者以外をCGやアニメーションで表現。台詞には現代語訳されたテロップも入れられた。

●バレエダンサーの若手登竜門として知られる「ローザンヌ国際バレエコンクール」の本選が6日開かれ、淵山隼平(18歳)が5位に入賞した。日本人の入賞は2大会ぶり。今大会は新型コロナウイルスの影響により、ビデオ審査方式となった。優勝は、ポルトガルのアントニオ・カサリーニョ。

●コロナ禍で生まれた「オンライン演劇」の活動で知られる劇団ノーミーツとサンリオピューロランドがコラボレーションしたオンライン演劇公演『VIVA LA VALENTINE』が6日スタート。バレンタイン当日まで全5回配信された。

●国内初となる「演劇やダンスなどを本格的に学ぶことができる公立大学」として、兵庫県豊岡市にこの春開校する芸術文化観光専門職大学の一般入試が7日行われた。定員35人に対し163人が志願し倍率は4.7倍に。

●チケット販売大手「チケットぴあ」を展開するぴあ(株)は10日、2021年3月期(連結)の純利益が65億円赤字となる予想を発表した。売上高予想も720億円と半減する見通しだとも発表。緊急事態宣言の再発令に伴う集客イベント規制の再強化や観客心理の冷え込みから厳しい予想を見込んだ。

●堂本光一が主演を務めるミュージカル「SHOCK」シリーズが12日、公演回数1800回を達成、国内のミュージカルの単独主演記録を更新した。堂本は2000年の初演から一度も代役を立てることなく主演を続けている。

●世界初のマルチアングル映像によるオンライン能楽体験「すまほ能」が12日～19日まで公開された。これは大阪・山本能楽堂が主催したもので、演目は『羽衣』『安達原』。視聴者はスマートフォンを片手に180度どこからでも自分の見たい視点で演者の動きや足さばき、能面の陰影、衣装の美しさをリアルに楽しんだ。またスペシャルコンテンツとして、能面を3D映像で楽しめる「3D能面」や、能舞台や舞台下の甕までも自在に探索できる「3D能楽堂」も合わせて公開された。

●東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会の森喜朗会長は12日、自身の女性蔑視発言の責任を取り、辞任を表明した。

●劇団四季は15日、2022年入社経営スタッフの新卒採用活動を中止すると発表した。新型コロナウイルス感染拡大が事業計画に大きく影響を与えていることなどが理由。技術スタッフは例年通り採用活動を行う。

●市川海老蔵が15日、1月に東京・新橋演舞場で行われた「初春海老蔵歌舞伎」の収録映像を、100万人超の医療従事者に無料配信することを発表した。

●神奈川・平塚で一人遣いの人形浄瑠璃を伝承する「湘南座」が創立30周年を迎え、15日に平塚市内で記念公演を行った。「湘南座」は、従来3人で操る人形を1人で操る「大阪乙女文楽座」の流れを汲む一座。

●14日にアメリカ製薬大手「ファイザー」が開発した新型コロナウイルスのワクチンが、国内で初めて承認されたことを受け、菅総理大臣は15日、衆議院

予算委員会で、承認されたワクチンの医療従事者への接種を17日に開始する考えを表明した。接種は1万〜2万人程度の医療従事者に対し先行して始まり、政府は順次高齢者などへの接種を進める方針を示した。

●15日の東京株式市場の日経平均株価が先週末の終値に比べ500円以上値上がりし3万円台に乗った。取引期間中としては、いわゆる「バブル景気」の1999年8月以来30年6か月ぶりの高値で、終値も560円余り値上がりし、こちらも30年6か月ぶりの高値となった。

●公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団は16日、彩の国さいたま芸術劇場の次期芸術監督に、ダンサー・振付家・コンドルズ主宰の近藤良平に決定したことを発表した。近藤は令和4年4月の就任に先立ち、令和3年4月1日から次期芸術監督としてプログラムの策定にあたる。

●東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の理事会が18日開かれ、女性蔑視とされる発言の責任をとって12日に辞任した森喜朗前会長の後任として、元オリンピック・パラリンピック担当大臣の橋本聖子氏が全会一致で選ばれた。

●熊本県は18日、県立劇場のコンサートホールと演劇ホールの利用について、ステージ・客席・ホワイエを部分的に利用できるよう改めた。コロナ禍で入場者を制限した公演や動画配信用の収録など、利用者の幅広い要望に応じるためとしている。

●新型コロナウイルスの影響により劇場が閉鎖されて1年近くが経過するブロードウェイのある米・ニューヨークの州知事が「NY Pops UP」と題したフェスティバルを実施すると発表。2月20日にスタートした。老舗劇場から地下鉄のホーム、公演などのニューヨークのいたるところで、パフォーマンスを実施するもの。ヒュー・ジャックマン、アレックス・ボールドウィン、マシュー・プロデリック、サラ・ジェシカ・パーカーなどの有名人も参加予定。混乱を避けるため場所や時間は公表されていないが、すべてのパフォーマンスは動画配信される。開催は9月6日までを予定。

●「おうさか学生演劇祭Vol.14」が22日から、あべのハルカスSPACE9などで開催された。関西圏の大学や専門学校などを対象とした学生演劇祭で、大阪芸術大学の劇団桃源道理や劇団ごもじ、京都芸術大学のノラ、枚方演劇連盟の劇団D'などが参加した。

●東宝が25日、宮崎駿監督の大ヒットアニメ映画『千と千尋の神隠し』を初めて舞台化することを発表した。これは東宝創立90周年記念作品のひとつで、翻案・演出はジョン・ケアード、「千尋」役は橋本環奈と上白石萌音のWキャスト。2022年2・3月の帝

国劇場公演を含む全国5か所で公演予定。

●日本舞踊家で俳優としても活動する藤間爽子が28日、三代目藤間紫継承の儀を行い、祖母で紫派藤間流の創始者・藤間紫の名跡を継承した。初世紫の死後は、夫の市川猿翁が二代目藤間紫となり名跡を預かっていた。

[3月]

●第71回ベルリン国際映画祭で5日、コンペティション部門の審査結果が発表され、濱口竜介監督『偶然と想像』が、最高賞の金熊賞に次ぐ銀熊賞の審査員大賞を受賞した。

●東日本大震災の発生から10年となる11日、政府主催の追悼式が東京・国立劇場で開かれた。新型コロナウイルス対策のため招待者を大幅に減らして開催。天皇皇后両陛下、菅総理大臣、遺族や被災者代表らが出席した。また、岩手県や宮城県などの被災地をはじめ、国内各地でも追悼式が行われた。

●東京・皇居前広場で12日、特別公演『祈りのかたち』が開幕した。政府などが展開する文化プログラム「日本博」の一環で、能や狂言、琉球舞踊などを3日間にわたって上演する企画。日本芸術文化振興会によると、皇居とその周辺で、能や狂言が大規模に上演されるのは約100年ぶり。

●宝塚歌劇団は18日、専科(特別顧問)の轟悠が2021年10月1日をもって退団することを発表し、轟が記者会見を行った。

●首都圏の1都3県に継続して出されている緊急事態宣言について、政府は18日、対策本部において3月21日に解除することを決定した。およそ2か月半に渡った宣言は、これで全国すべてで解除されることになった。

●音楽、演劇、映画など22団体でつくる「文化芸術推進フォーラム」が18日、与野党の国会議員による「文化芸術振興議員連盟」のヒアリングで中間報告を発表。調査に回答した全国の公立劇場554館について、主催公演で得た収入が前年より81.6%減少したことがわかった。また演劇公演を継続的に実施する大規模劇場のうち、歌舞伎座や帝国劇場、劇団四季などの20劇場は、主催公演の収入が前年より69.9%減少したことも発表された。

●東京オリンピック・パラリンピックの開閉会式の責任者であるクリエイティブ・ディレクターの佐々木宏総統括が、開会式で女性タレントの容姿を侮辱するような演出を提案していた問題を受け、大会組織委員会の橋本聖子会長が18日の記者会見で、辞意を表明していた佐々木氏の辞任を受託したことを明かした。

●劇団四季が8月に開幕を予定している新作ファミ

リーミュージカル『はじまりの樹の神話～こそあどの森の物語～』の衣裳生地制作において、兵庫県西脇市の「播州織」メーカーと共同開発することを決定。19日、兵庫県西脇市役所に市との連携協定締結式を執り行った。

●東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会、政府、東京都、IOC、IPCの5者会談が20日開かれ、現在のコロナ禍では海外から日本への自由な入国を保証することは困難だとして、海外からの観客の受け入れを断念することが決まった。

●国立劇場は21日、政府等によるイベント収容率の制限が緩和されたことを受け、4月以降に開催される主催公演のチケットの追加販売を発表した。

●兵庫・城崎国際アートセンター(KIAC)の館長・芸術監督の交代が22日発表され、4月1日より館長に志賀玲子、芸術監督に市原左都子が就任することが決まった。

●愛知の小劇場「ナビロフト」が23日、4月10・11日の自主企画公演をもって閉鎖することを発表した。新型コロナウイルス感染防止対策に絡む行政手続きで、住宅地に立つ劇場が興行に不適合だったことが判明したため。ナビロフトは1994年に北村想主宰の劇団「プロジェクト・ナビ」の拠点アトリエとして開設。2003年以降は独立した小劇場として、劇団「東京乾電池」など多くの劇団が利用していた。

●「ふじのくに せかい演劇祭2021」が4月24日～5月5日に開催されることになり、芸術監督の宮城聡が24日会見を行った。開催は2年ぶり。

●美術作家らでつくる「表現の現場調査団」の記者会見が24日開かれ、実施したアンケート調査で、美術や演劇、映画などの創作現場で性差別やセクハラ、パワハラなどの被害を受けたと訴えた人が1195人いたことが分かった。多くは女性、若手、フリーランスだった。

●劇団四季が25日、KDDIと提携し、「四季の会」会員限定サービスとして「四季でんき」を開始することを発表した。電気代の一部が劇団の活動資金になるほか、会員にチケット購入に使えるギフトコードが提供される。

●米・ニューヨークのデブラシオ市長は25日の記者会見で、新型コロナウイルスの影響により興行を中止している市内の劇場街・ブロードウェイについて9月中の再開を目指す考えを明らかにした。またブロードウェイに演劇関係者向けのワクチン接種会場を設ける計画も発表した。

●東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーが25日、福島・檜葉町「Jヴィレッジ」でスタートした。

●早稲田大学坪内博士記念演劇博物館が運営する、

日本初の舞台公演映像の情報検索サイト「Japan Digital Theatre Archives(JDTA)」が25日に公開された。

●OSK日本歌劇団のトップスター、桐生麻耶が28日、東京・新橋演舞場で上演された『レビュー春のおどり』でトップとしてのラストステージを飾った。4月から特別専科に移籍。次期トップスターは楊琳。

●劇団ノーマーズによる「全国学生オンライン演劇祭」が28日に開催され、立教大学チームの「劇団ふむふむ」が最優秀賞のほか、俳優部門賞・技術部門賞・観客賞を受賞した。

●1996年に創刊し、約10年休刊していた戯曲雑誌「せりふの時代」が30日、特別編集版として復刊した。

●兵庫県豊岡市などでつくる豊岡演劇祭実行委員会が30日、「豊岡演劇祭2021」の概要を発表した。今年は隣接する養父市などを加えた2市1町で開催。屋内外に開場を設け9月9日から12日間、35団体程度が公演予定。延べ1万人の来場者を見込む。

●ホリプロ企画「ミュージカル・クリエイター・プロジェクト」による新作2本の無料配信が31日スタートした。世界に向けたオリジナル・ミュージカルを制作することを目的とした企画。『ギョロ 劇場へ』は岩崎直也を作曲に起用した、ドワーフを使ったアニメーションのショートムービーで、構成・脚本・歌詞を宮本亜門、声の出演を鹿賀丈史、濱田めぐみらが担当。『PARTY』は横山清崇・脚本、ジェイソン・ハラウンド・作曲で、今後の劇場公演を目指したパイロット版が制作されており、そのリーディング・ワークショップの様子が公開された。

【4月】

●チケット販売サイト「カンフェティ」で、チケット補償サービス「カンフェティ安心チケットサービス」が1日始まった。病気やけが、急な宿泊出張や交通機関の遅延などにより公演やイベントに参加出来なくなった場合、所定の申請・審査を経てチケット代90%がポイントとして戻ってくるシステム。会員が同サイトから購入したチケットに自動付帯される。

●新型コロナウイルスの感染再拡大を受けて政府は1日、大阪・兵庫・宮城の3府県に「まん延防止等重点措置」を適用することを決定した。期間は5日から1か月間。期間中、イベント等の開催は収容人数の上限を5000人までとした。

●5月に解散する前橋演劇鑑賞会の最後の観劇会が7日、高崎演劇鑑賞会との合同で行われた。同会は1962年に創立し、400回以上の観劇会を提供。ピーク時の80年代には6,000人以上の会員がいたが、その後は娯楽の多様化で若い会員が増えないこと、会

員の高齢化などを理由に59年に渡る活動に幕を閉じた。

●政府は9日、東京都・京都府・沖縄県にも「まん延防止等重点措置」を適用することを決定した。期間は12日から、京都と沖縄は来月5日まで、東京は来月11日までとした。

●宝塚歌劇団雪組トップの望海風斗と、トップ娘役の真彩希帆が11日、東京宝塚劇場で行われた『fff—フォルティッシシモ— 〜歓喜に歌え!〜』『シルクロード〜盗賊と宝石〜』の千秋楽をもって、同歌劇団を退団した。

●文楽協会は15日、人形浄瑠璃・人形遣いで重要無形文化財保持者の三代吉田賛助が、開催中の国立文楽劇場4月文楽公演(〜25日)をもって引退することを発表した。

●宝塚音楽学校で16日、入学式が行われ、109期生40人が出席。新入生代表の南平友里愛さんが答辞を述べた。

●米・ブロードウェイの大物プロデューサー、スコット・ルーディン(Scott Rudin)が17日、ワシントンポスト紙に送った声明で「製作から身を引く」と退任を発表した。ルーディンは40年近いキャリアの中で『ブック・オブ・モルモン』『ハロー・ドーリー!』『フェンス』などトニー賞受賞作17作品に加え、アカデミー賞作品賞を受賞した映画『ノー・カントリー』など数々のヒット作を生み出した。一方で職場での虐待行為やパワーハラスメントが報じられていた。

●株式会社歌舞伎座は22日、代表取締役の異動等について決議したことを発表した。異動の理由は経営体制の変更のためとし、新任の代表取締役社長に元松竹株式会社代表取締役副社長の安孫子正氏とした。現代代表取締役社長の武中雅人氏は任期満了で退任。異動予定は5月27日。

●韓国ミュージカル協会は22日、韓国版ミュージカル『ジャック・ザ・リッパー』『フランケンシュタイン』『三銃士』などに出演し、韓国ミュージカル大賞や大邱国際ミュージカルフェスティバル「今年のスター賞」など数々の受賞歴がある俳優ユ・ジュンサンから、協会に1億ウォン(日本円約1000万円)の寄付があったことを明らかにした。ユ・ジュンサンは韓国ミュージカル産業の発展と、長期化する新型コロナウイルス禍でもミュージカル俳優らがステージを守っていく意志を伝えた。

●菅総理大臣は23日の記者会見で、東京・大阪・兵庫・京都の4都府県を対象に、4月25日から5月11日までの期間、緊急事態宣言を出すことを発表した。宣言が出されるのは昨年4月、今年1月に次いで3回目。

●政府の非常事態宣言を受け東京都は23日、劇場や公会堂、文化会館等に無観客開催を要請。1000㎡超の映画館には休業を要請した。

●日本初の常設イマージシアター「Venus of TOKYO」が29日、東京・お台場ヴィーナスフォートにオープンした。イマージシアターとは、2000年代にロンドンから始まり、近年ニューヨークを中心に世界的に人気を博している体験型の演劇公演。ダンスカンパニー「DAZZLE」など国内外で活躍する一流のクリエイターらが手がける。

【5月】

●ニューヨーク州のクオモ知事は5日、ブロードウェイミュージカルを9月14日に再開すると発表した。座席数に制限を設けず、100%の収容人数で開催する方針。

●緊急事態宣言を延長する政府の方針に対し、演劇興行会社、劇団、劇場、演劇制作会社など約200団体でつくる横断組織「緊急事態舞台芸術ネットワーク」は6日、「現場の努力の実態とエビデンスに基づいた対策方針を政府に強く求め、安全に公演を開催してまいる所存です」と訴える声明を出した。また、3度目の緊急事態宣言が東京、大阪など4都府県でのイベントの無観客開催を求めたことについて、「ライブイベントは本来、お客様と実際に空間を共有することで、初めて成立するものです。したがって、この決定は、実質的には『舞台興行の中止要請』であったと考えております」と指摘した。

●宝塚歌劇団は6日、緊急事態宣言を受けて中止する公演を無観客で実施し、インターネットテレビで配信することを発表した。同歌劇団が無観客公演を配信するのは初めて。配信は、花組宝塚大劇場公演『アウグストス—尊厳ある者—』『Cool Beast!!』千秋楽、星組東京宝塚劇場公演『ロミオとジュリエット』、宙組宝塚バウホール公演『夢千鳥』、宙組梅田芸術劇場メインホール公演『Hotel Svizra House ホテルズヴィッツラハウス』の4公演。

●政府は7日、東京・大阪・兵庫・京都の4都府県を対象に、4月25日から5月11日までの期間に出していた緊急事態宣言を5月31日まで延長し、新たに愛知県と福岡県を来週12日から対象地域に加えることを発表した。また「まん延防止等重点措置」の適用を北海道、埼玉、千葉、神奈川、岐阜、三重、愛媛、沖縄の8道県に拡大することも発表した。

●東京都による緊急事態宣言休業要請の緩和に伴い、都内の劇場や演芸場などでの公演が12日より再開された。緊急事態宣言が延長された地域の劇場や演芸場などでの公演について、政府は原則、無観客での開催としていたのを見直し、人数の上限を5000

人かつ収容率を50%以内に、午後9時までの営業時間短縮を要請した。大阪府は無観客で開催するよう独自に要請したが、それ以外の東京、京都、兵庫、愛知、福岡の5都府県は政府と同じ要請をとった。

●劇団☆新感線が14日、展開中の『新感線・シンパシー・プロジェクト』(SSP)の最後を締めくくる企画『SSP動画まつりⅡ』をスタートさせた。SSPは、劇団☆新感線が直接会うことはできなくても劇団のコンテンツを楽しんでほしいと2020年から展開している企画。配信されたのは『新感線MMF!』『鋼鉄番長』『ラストフラワーズ』『五右衛門 vs 轟天』の4作品で、ニコニコ動画の新感線チャンネルなどで配信した。

●東急株式会社は13日、Bunkamuraを含む渋谷・東急百貨店本店エリアの再開発計画を発表した。これに伴いBunkamuraは2023年4月より長期休館する予定。

●政府は14日、緊急事態宣言の対象地域に北海道、岡山、広島の3道県を加えることを発表した。期限は5月16日から31日まで。これで対象地域は東京、大阪、兵庫、京都、愛知、福岡の6都府県に、3道県が加わり、9都道府県に拡大された。一方、「まん延防止等重点措置」の適用地域には群馬、石川、熊本の3県が追加された。期限は埼玉、千葉、神奈川、岐阜、三重、愛媛、沖縄の7件は5月31日、追加された3県は6月13日までとした。

●第34回三島由紀夫賞と山本周五郎賞の選考会が14日開かれ、三島由紀夫賞に乗代雄介『旅する練習』、山本周五郎賞に佐藤究『テスカトリボカ』が選ばれた。

●京都三大祭りのひとつ「葵祭」が15日開催された。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、神事のみで、見せ場となる行列は昨年に続き中止となった。

●福岡県飯塚市の国の登録有形文化財である芝居小屋「嘉穂劇場」を運営するNPO法人嘉穂劇場が17日、解散した。新型コロナウイルスの影響による経営難が原因。今年2月に開演90周年を迎えたばかりだった。劇場は市が無償で譲り受けることを表明しているが、運営形態は未定で、当面の間、休館することになった。

●イギリスの首都ロンドンで17日、新型コロナウイルスのワクチン接種計画が順調に進んでいることを受け、飲食店の屋内営業や映画館・劇場などが再開した。

●英・ロイヤルバレエ団は18日、所属する金子扶生を最高位のプリンシパルに昇格させると発表した。

●滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールは3D映像が18日公開された。これは文化財や貴重な建築物などを3D映像として残す「3Dウォークスルー・アーカイ

ブプロジェクト」の一環で、日本有数のオペラ劇場として高い評価を得るびわ湖ホール大ホールの客席やステージなどが360度好きなアングルで見学できるものとなっている。

●本多劇場グループは19日、松竹芸能株式会社が運営を行ってきた「松竹芸能 新宿角座」の運営を引き継ぎ、2009年3月に閉館した「新宿シアタートップス」として8月に再開することを発表した。

●オーストリアの首都ウィーンで19日、新型コロナウイルスの感染状況の改善を受けて経済活動の制限が相次いで緩和された。これを受けて国立歌劇場が入場者数を制限した上で再開。昨年11月以来となる公演が行われた。

●東京・渋谷のミニシアター「アップリンク渋谷」が20日、新型コロナウイルスの影響で閉館した。独自に選んだ作品を上映する、いわゆる“ミニシアター”の代表格として26年に渡りファンに親しまれてきた。

●NHK放送文化研究所が20日発表した国民生活時間調査で、10代・20代の半数がほぼテレビを見ないことが分かった。若年層のテレビ視聴減少の背景として、主に夜間帯はインターネットの利用が活発になっていることなどが挙げられる。30代以上の上の年代でも割合が下がっており、「テレビ離れ」が加速している実態が浮かび上がった。

●政府は28日、新型コロナウイルス対策として東京や大阪など9都道府県に出されている緊急事態宣言について6月20日まで期限を延長することを決定した。延長決定は北海道、東京、愛知、大阪、兵庫、京都、岡山、広島、福岡で、6月20日までとしていた沖縄と同じとなる。また「まん延防止等重点措置」についても埼玉、千葉、神奈川、岐阜、三重の5県の期限を31日から6月20日まで延長することも決めた。一方、群馬、石川、熊本の重点措置は6月13日の期限を延長せず、それまでに解除を目指すことになる。

●「第11回せんがわ劇場演劇コンクール」が29・30日、生配信で開催された。結果は以下の通り。グランプリ＝ほろびて『あるこはく』(作・演出／細川洋平)、オーディエンス賞＝オパンボン創造社『サンセット』(作・演出／野村有志)、劇作家賞＝細川洋平、演出家賞＝宮崎玲奈(ムニ『真昼森を抜ける』)、俳優賞＝吉増裕士(ほろびて『あるこはく』)。

●緊急事態宣言の延長に伴う休業要請の一部緩和を受け、シネコン大手のTOHOシネマズは31日、東京都内と大阪府内の映画館を6月1日から営業すると発表した。シネコンのT・ジョイやユナイテッド・シネマも営業再開方針をすでに発表した。

[6月]

●緊急事態宣言延長に伴い開催が延期されていた特別展「別役実のつくりかたー幻の処女戯曲からそよそよ族へ」が3日、早稲田大学演劇博物館で始まった。幻の処女戯曲と言われてきた『ホクロ・ソーセージ』の自筆原稿や、初期の傑作『象』の元になった散文『アカツキ』など初披露となる豊富な新資料などが展示された。合わせて企画展「Lost in Pandemicー失われた演劇と新たな表現の地平」も開催。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止や延期を余儀なくされた公演のポスターやチラシなど100点以上が展示され、感染拡大の影響が多くの舞台芸術に及ぼした影響が見て取れる展示となった。8月6日まで。

●2019年5月31日に活動を休止した演劇集団キャラメルボックスが3日、活動を再開することを発表した。復活公演は12月予定。

●大地真央による初の個展「MAO PECASSO DAICHI 目玉焼きオリジナルアート展」が3日、大阪・梅田ロフトで始まった。キャンパスに見立てた目玉焼きにケチャップを使って人や動物、車、風景などを描いた作品約200点が展示された。7月4日まで。

●華道・草月流の第三代家元で、実験的な映像作品を多く手がけた勅使河原宏監督の没後20年を記念した特集上映「アートを越境する 勅使河原宏という天才」が5日、東京・シネマヴェーラ渋谷で始まった。作家・安部公房と作曲家・武満徹と組んだ『砂の女』や『他人の顔』のほか、『利休』『豪姫』『北斎』などが上映された。18日まで。

●米・歌手のブルース・スプリングスティーンが7日、ニューヨークのブロードウェイで『スプリングスティーン・オン・ブロードウェイ』を26日からセントジェームス劇場で再開すると発表した。同ショーは2017年10月～2018年12月までに236回以上上演されたショー。新型コロナウイルスの影響により閉鎖していたニューヨークでは、各所で公演などが再開しているが、大規模な屋内会場で公演するスター歌手の公演はこれが初めて。ミュージカルなどの大規模興行は早くても9月になる見通し。

●劇団四季が8日、新作オリジナルミュージカル『バケモノの子』の上演決定を発表した。2015年公開のスタジオ地図作品、細田守監督による長編アニメーション映画『バケモノの子』が原作。脚本・歌詞はこれまでも劇団四季の作品に携わってきた高橋知伽江、演出は劇団四季『恋におちたシェイクスピア』を手がけた青木豪。開幕は2022年4月予定。

●2021年2月から改装工事に入っていた東京・紀伊國屋ホールが9日、初お披露目され、こけら落とし公演である『新・熱海殺人事件』の一部シーンが公開された。こけら落とし公演は10日に開幕。21日まで。

●日本民間放送連盟(民放連)は11日、東北新社などによる総務省幹部への接待問題を受け、政治・行政との適切な関係構築に関する「基本姿勢」を公表した。

●ベルリン国際映画祭の授賞式が13日行われ、濱口竜介監督の『偶然と想像』が、最高賞(金熊賞)に次ぐ銀熊賞(審査員大賞)を受賞した。金熊賞はルーマンのラドウ・ジュデ監督『バッド・ラック・パンギング・オア・ルーニー・ボルノ』が受賞した。

●OSK日本歌劇団の新トップスター、楊琳のお披露目公演『レビュー夏のおどり』が14日、大阪松竹座で開幕した。18日まで。8月5～8日東京・新橋演舞場。

●政府は17日、緊急事態宣言が出ている北海道、東京都、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、福岡県について、6月20日をもって緊急事態宣言を解除することを決定した。沖縄県については7月11日まで延長することも決定した。一方で、「まん延防止等重点措置」について、北海道、東京都、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県を新たに対象とし、期間を7月11日までにする。埼玉県、千葉県、神奈川県についても7月11日まで延長し、岐阜県、三重県は6月20日をもって終了することも決定した。

●ジャニーズ事務所とPR会社のサニーサイドアップグループは17日、連名で新型コロナウイルスワクチンの職域接種を実施すると発表し2社の所属アーティストや社員のほか、映画や舞台などのエンターテインメント業界の従事者を対象とし、1000人以上を想定とした。

●「全国シニア演劇大会 in Tokyo」が17日、東京・あうるすぽっとで開幕した。2011年に始まった演劇祭で、第5回大会は昨年6月に開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響で中止に。今回延期開催となった。20日まで。

●1951年創業の劇団わらび座が、今年で70周年を迎えた。山川龍巳社長が21日記者会見を行い、アフターコロナにおいてこれまでにない新しい展開、発展をするという決意を表明した。

●兵庫県豊岡市が24日、11月に上演を予定していた、片岡愛之助が座頭を務める「永楽館歌舞伎」を昨年に続き中止することを発表した。同館は近畿圏最古の芝居小屋といわれ復元された2008年から愛之助の座頭公演を続けていた。

●『寺田瀧雄 没後20年メモリアルコンサート All His Dreams“愛”』が26日、大阪・梅田芸術劇場メインホールにて開催された。1956年の入団以来、寺田が手がけた楽曲は約3000曲にのぼる。榛名由梨、鳳蘭、汀夏子、安奈淳など歴代のトップスターOGのほか現役の専科・轟悠などが出演した。27日まで。7

月1・2日、東京・オーチャードホール。

●宝塚音楽学校をこの春卒業し、歌劇団に入団した107期生が26日、宝塚大劇場で開幕した宙組公演で初舞台を踏み、一糸乱れぬ伝統のラインダンスを披露した。

【7月】

●東京・国立劇場で「歌舞伎鑑賞教室 義経千本桜」が3日、開幕した。「歌舞伎鑑賞教室」としてはこれが100回目。「歌舞伎鑑賞教室」は1967年に始まり、中学生や高校生など、これまでの入場者は615万人を超える。

●今年4月22日に「15周年」を迎えた愛媛県・坊っちゃん劇場で3日、15周年特別企画「子ども観劇無料ご招待」がスタートした。これは新型コロナウイルスの影響で多くの学校観劇がキャンセルになってしまったことを受けて実施される企画。期間中に上演しているミュージカル『〜おかやま桃太郎伝説〜 鬼の鎮魂歌』に高校生以下を招待。8月14日まで。

●文化庁は5日、新型コロナウイルスの感染拡大で深刻な影響を受ける文化芸術の担い手を対象に、東京・国立劇場で集団接種を始めた。文化庁は1万8千人余りに集団接種を実施する方針で、同会場で9日まで、来月には東京・国立新美術館でも行うことを予定している。

●松竹は5日、「新春浅草歌舞伎」2022年1月公演の中止を発表した。中止は今年1月に続き2年連続となる。

●「世界演劇祭2023」のディレクターに、芸術公社の相馬千秋(プログラムディレクター)と岩本京子(チーフドラマトゥルク)が就任したことが7日分かった。1981年に始まった「世界演劇祭」は3年に一度、ドイツの都市で開催される演劇祭。今回初めてディレクターが公募されたが、西洋圏以外でプログラムディレクターとチーフドラマトゥルクが選出されるのは初めて。

●第74回カンヌ国際映画祭が6日に開幕。米・俳優アダム・ドライバーと仏・俳優マリオン・コティヤールが共演したミュージカル映画『Annette』がオープニングを飾った。またフランスと日本などの合作映画『ONODA』がある視点部門に選出され、同日公式上映された。

●円谷英二監督が撮影カメラマンとして参加したトーキー映画『かぐや姫』の短縮版フィルムがイギリスで見つかり、7日、東京・国立映画アーカイブで招待客に向けて上映された。同作は1935年に日本で公開された75分の作品。36年にイギリスへ輸出する際に33分に再編集されたもので、見つかったのは約85年ぶり。

●政府は9日、東京都に4回目となる緊急事態宣言を出すことを決定した。期限は8月22日まで。沖縄県に出されている宣言も同日まで延長することも決定した。また「まん延防止等重点措置」について、埼玉、千葉、神奈川と大阪の4府県では同日まで延長する一方、北海道、愛知、京都、兵庫、福岡の5道府県は今年11日の期限をもって解除することも決めた。

●緊急事態宣言地域については政府は9日、対応方針を発表した。飲食店には酒類の提供停止と午後8時までの時短営業を要請。イベント開催については収容定員50%もしくは5000人まで少ない方を上限とし、原則午後9時までとした。

●緊急事態宣言の決定を受けて東京都は9日、飲食店などには休業要請を出すものの、デパートや映画館など大規模施設については休業要請をせず時短要請を継続する方針を出した。

●東京オリンピック大会組織委員会と政府、東京都、IOC＝国際オリンピック委員会は9日、東京、神奈川、千葉、埼玉の1都3県すべての会場で無観客で開催することを決定した。一方で宮城、福島、静岡の3県は収容定員の50%以内で上限1万人とする原則で観客を入れ、茨城県は学校連携観戦チケットによって子どもたちの観戦のみ認めることとした。

●第165回芥川龍之介賞・直木三十五賞の選考会が14日行われ、芥川賞に石沢麻依『貝に続く場所にて』と李琴峰『彼岸花が咲く島』が、直木賞に佐藤究『テスカトリボカ』と澤田瞳子『星落ちて、なお』が選ばれた。

●東京オリンピック・パラリンピックの開会式と閉会式のクリエイティブチームが14日に公表された。アドバイザーには野村萬斎、開会式と閉会式共にショー・ディレクターを小林賢太郎(企画・演出・脚本家)、楽曲担当を小山田圭吾(コーネリアス)、音楽監督を田中知之(FPM、DJ／プロデューサー)、舞台美術を種田陽平、振付を平原慎太郎、ライターを樋口卓治(放送作家)が担当。閉会式の振付に山田うん(ダンサー、振付家)などのメンバーも名を連ねた。

●女性劇団『096k(オクロック)熊本歌劇団』の公演『前田慶次かぶき旅 肥後の虎・加藤清正編』が14日、熊本市市民会館シアーズホーム夢ホールで披露目され、団員25人が初舞台を飾った。同劇団は東京の漫画出版社が創設、17日からは熊本城ミュージアムわくわく座で定期公演が始まった。

●「札幌演劇シーズン2021-夏」が17日、北海道札幌市のシアターZOOへ扇谷記念スタジオで開幕した。2012年のスタート以来、夏と冬の年2回開催されている企画。今回は、の☆えれきなど5団体が参加した。8月21日まで。

●第75回夏期阿波人形浄瑠璃大会が17・18日、徳島

市のあわぎんホールで開催された。今回は【Re.あわ文化へ精妙な人形、唸る声、共鳴する至高の身体へ】と題し、徳島県内の人形座・太夫部屋が一同に会して伝統芸能の上演のほか、人形浄瑠璃の名作をメドレー形式で繋ぐ「義太夫節メドレー」など様々な作品が上演された。

●第74回カンヌ国際映画祭の授賞式が18日行われ、コンペティション部門に出品された『ドライブ・マイ・カー』の浜口竜介監督と大江崇允が脚本賞に選ばれた。日本人の同賞受賞は初。また同作は国際批評家連盟賞とエキュメニカル章も受賞した。最高賞「パルムドール」は、仏『チタン』。

●「劇トツ×20分」2021が18日に福岡・北九州芸術劇場小劇場で開催され、福岡を拠点に活動する万能グローブガラパゴスダイナモスが優勝した。「劇トツ」は、上演時間20分以内、登場人物は3人までというルールで短編作品を上演し競い合うもの。昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となっており、今回2年ぶりの開催となった。

●東京オリンピック・パラリンピックの大会組織委員会は19日、開閉会式の楽曲制作を担当していた小山田圭吾が、過去のいじめ問題を受け辞任したことを発表した。

●兵庫県伊丹市が、民間事業者による市立演劇ホール(アイホール)の活用へ市場調査を行うことを受け、演劇関係者が21日、「アイホールの存続を望む会」を発足させた。同ホールは1988年にオープン。80～90年代は関西の小劇場演劇がブームで、「劇団☆新感線」「劇団そとばこまち」「惑星ピスタチオ」などが公演を行うなど全国的に注目されてきた。しかし同市は、市の支出が年間約9千万円と他の市立ホールに比べて高コスト、来場者に占める市民の割合が約15%と低いなどと指摘。現在の用途にとらわれず、芸術文化・スポーツの範囲で、にぎわいを創出する独立採算の事業提案を求めるとしている。これに対し、演劇関係者は「舞台芸術以外が事業化されると、公共の演劇専門ホールとして存続が困難となり、事実上廃館となる」と危惧。芸術文化観光専門職大学の平田オリザ学長らを発起人に会を立ち上げ、舞台芸術以外の事業提案により、劇場としての役割が失われることがないよう、同会のサイトで署名活動を展開した。

●東京オリンピック・パラリンピックの大会組織委員会は22日、開閉会式のショーディレクターを務めていた小林賢太郎を解任したことを発表した。小林が過去にホロコースト(ユダヤ人大量虐殺)を揶揄するセリフをコントに使っていた問題を受けたもの。

●東京オリンピックの開会式が23日行われ、真矢みき、森山未來、市川老蔵などが出演。MISIAが「国

歌斉唱を行った。

●さいたま芸術劇場を運営する公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団が23日、さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアターの活動終了を発表した。結成から15年経ち、劇団員の平均年齢は81歳を超え、48名で出発したメンバーは現在34名となっていた。

●こども歌舞伎スクール寺子屋中学部門成果披露発表会が23日歌舞伎座稽古場で行われた。『菅原伝授手習鑑 賀の祝』『白波五人男 稲瀬川勢揃』が上演され、「賀の祝」では梅王丸・松王丸・桜丸の父・白太夫を賛助出演の片岡千次郎が務めた。

●三重・四日市市文化会館が企画する演劇シリーズ「Yonbun Drama Collection(通称「よんどら」)」の公演『劇団解散』が24・25日に同会館で上演された。四日市の演劇文化を活性化するべく2015年にスタートした企画。これまで東海エリアのみならず関西や関東の団体などを招聘しワークショップなどを行ってきたが、昨年度は新型コロナウイルスの影響により中止。今年度は東京の劇団・江古田のガールズを招聘して3月中旬からワークショップなどが行われ、その参加者がアンサンブルとして出演。江古田のガールズにとっては初の地方公演となった。

●『滝沢歌舞伎 ZERO 2020 The Movie』(監督: 滝沢秀明、主演: Snow Man)が、8月14日から開催される第11回北京国際映画祭に出品されることが26日分かった。同作が出品されるのは、オペラや京劇、ミュージカルなど舞台と映像が融合した芸術など多様化したコンテンツを世界に紹介する、カーニバル・舞台映像部門。

●劇団四季のミュージカル『キャッツ』が27日、福岡・キャナルシティ劇場で開幕した。福岡での初演は1990(平成2)年で、4月から約7か月にわたりシーサイドももち(早良区百道浜)にテント式仮設劇場を建設して上演した。今回は、2014(平成26)年以來の約7年振り4度目のロングラン上演となる。

●東京オリンピック・パラリンピックの公認文化行事として8月21・22日に予定されていた「東京キャラバンin駒沢2021」が中止となったことが27日、広報事務局より発表された。同イベントは野田秀樹が総監修を務め、松たか子、東京スカパラダイスオーケストラ、木村カエラ、津村禮次郎ら約300名のアーティストが参加予定だったが、緊急事態宣言の発令により、参加者が東京に集結することが難しいとの判断が下された。

●神奈川県警は28日、17歳の少年にわいせつな行為をしたとして、歌舞伎俳優の坂東竹之助(本名・柴原永太郎)容疑者を東京都青少年健全育成条例違反の疑いで逮捕した。発表によると柴原容疑者は昨年

3月、都内にある商業施設のトイレの個室で高等専門学校の少年(当時17歳)にわいせつな行為をした疑い。調べに対し「間違いありません」と容疑を認めている。2人はTwitterを通じて知り合ったという。柴原容疑者は、坂東竹三郎を師とする女方。2018年に自主公演「竹之助の会」を開催、2020年12月には南座で片岡秀太郎(故人)の代役を務めるなど若手俳優として期待されていた。

●映画『イン・ザ・ハイツ』が30日、日本公開された。同作はトニー賞4冠の同名ブローウェイ・ミュージカルの実写版映画。

●福岡・北九州芸術劇場にゆかりのある演劇人へのインタビュー動画企画「ねほりはほり」が30日、同劇場のYoutubeチャンネルでスタートした。第1弾は「飛ぶ劇場」代表で、同劇場のローカルディレクターを務める泊篤志。

●月蝕歌劇団の二代目代表・白永歩美が30日、11月公演を持って活動を休止し、充電期間に入ることを発表した。

【8月】

●国立能楽堂が1日、ガイドラインを受けてこれまで販売を停止していた最前列席等について、観劇当日時点で、新型コロナウイルス感染症ワクチンを2回接種し、十分な免疫が確認される一定期間(2回目接種後、ファイザー社は1週間、武田/モデルナ社は2週間)が経過している観客に対して販売することを発表した。対象は9月主催公演のみとした。

●政府は2日、埼玉・千葉・神奈川・大阪の4府県に緊急事態宣言を発令した。これで対象地域は、発令中の東京都と沖縄県を合わせ6都府県になった。一方で北海道・石川・京都・兵庫・福岡の5道府県には新たにまん延防止等重点措置を適用した。期間はいずれも31日までとした。

●政府は5日、まん延防止等重点措置の適用地域に福島・茨城・栃木・群馬・静岡・愛知・滋賀・熊本の8県を追加。期限は8～31日までとした。

●宝塚歌劇団雪組トップスターに就任した彩風咲奈のお披露目公演『CITY HUNTER—盗まれたXYZ—』『Fire Fever!』が7日、兵庫・宝塚大劇場で開幕した。新トップ娘役の朝月希和との新コンビお披露目ともなった。

●東京オリンピックの閉会式が8日行われた。宝塚歌劇団から真風涼帆(宙組)、礼真琴(星組)、柚香光(花組)のトップスターら20人が参加し国歌斉唱を行った。また、大竹しのぶも出演した。日本選手団が獲得したメダル数は金27、銀14、銅17の計58個で、国別のメダル獲得数では米国、中国に次いで3位、獲得数は過去最高となった。

●中村獅童と初音ミクらが出演する「九月南座超歌舞伎」が日本並びに世界11カ国でオンライン配信されることが12日発表された。配信先は米・英・独・仏などのヨーロッパ6カ国のほか、フィリピン、シンガポール、メキシコ、インド、南アフリカ共和国。

●宝塚歌劇団の月組トップスター・珠城りょうが15日、東京宝塚劇場で行われた『桜嵐記』『Dream Chaser』の千秋楽をもって退団した。合わせてトップ娘役・美園さくらを含め、計9人が退団した。

●政府は17日、東京や大阪など6都府県に発令している緊急事態宣言について、茨城、栃木、群馬、静岡、京都、兵庫、福岡の7府県を追加することを決めた。期間は20日から9月12日までとした。また北海道など6道県に適用している、まん延防止等重点措置も9月12日まで延長することを決定。さらに宮城、山梨、富山、岐阜、三重、岡山、広島、香川、愛媛、鹿児島県の10県を20日から追加した。

●9月9日から兵庫県内で開催予定だった「豊岡演劇祭2021」の実行委員会は18日、兵庫県の緊急事態宣言発令を受け、中止することを発表した。

●東京2020パラリンピックの開会式が24日、東京・国立競技場で行われた。ディレクターは、演出家・劇作家のウォーリー木下が務め、ディレクター・チーフ振付を森山開次が担当した。

●株式会社木下グループとゴージャス・エンターテインメントは26日、共同制作中の宮本亜門演出の新作ミュージカル『カラテ・キッド』(英題:The Karate Kid—The Musical)を2022年5月25日～7月3日まで、米・セントルイスにてワールドプレミア公演を実施することを発表した。

●政府は27日、新型コロナウイルス対策として、大規模イベントの参加人数を上限5000人とする措置を10月末まで2か月間延長する方針を決めた。

●東京・板橋区は27日、区内在住の歌舞伎俳優・坂東彌十郎を板橋区観光大使に任命すると発表した。俳優・杉浦太陽、腹話術師・いっこく堂に続く3人目の就任となった。

●群馬・高崎芸術劇場で28日・29日、地元のアマチュア劇団「劇団ザ・マルク・シアター」が、同劇場スタジオシアターで公演を行った。2019年2月に開館した同劇場をアマチュア劇団が利用するのはこれが初めて。

●札幌市は31日、劇団四季から無償譲渡された旧「北海道四季劇場」について、2025年3月まで公演会場等として市が窓口となり有料開放する方針を示した。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当初予定していた民間事業者への運営委託を見送ったため。市内では2018年に「さっぽろ芸術文化の館」が開館、23年1月からは市教育文化会館が改修工事に入

り、市内にある1000席規模の大ホールが利用できなくなるため、市では同規模の同劇場の継続利用に向けて準備を進めていた。

【9月】

●「東京芸術祭2021」が1日開幕した。2016年にスタートした同祭は、東京・豊島区池袋周辺エリアで開催される都市型総合芸術祭。今回は、上演や配信を行う「東京芸術祭プログラム」と、人材育成事業「東京芸術祭ファーム」の2本柱を設定。またこれまで「東京芸術祭」の一環として開催されてきた「フェスティバル／トーキョー」が「東京芸術祭プログラムFTレーベル」に生まれ変わった。全35演目を配信、上演、実施予定。11月30日まで。

●東京・東日暮里にある劇場「d・倉庫」が2日、2021年12月末日をもって閉館することを発表した。劇場存続のためクラウドファンディングを行っていたが閉館が決まった。

●第31回Bunkamura ドウマゴ文学賞は3日までに、堀川理万子・著の絵本『海のアトリエ』に決まった。同賞で絵本が受賞するのは初めて。

●東京2020パラリンピックの閉会式が5日、東京・国立競技場で行われた。演出は元俳優でクリエイターの小橋賢治が担当した。今大会で日本は金メダル13個を含む51個のメダルを獲得。

●日本音楽著作権協会(JASRAC)は9日、1937年に死去し、著作権が消滅していた米・作曲家のジョージ・ガーシュインの楽曲のうち337曲を、1983年に死去した兄・アイラとの共同著作と確認したため、管理を再開すると発表した。対象楽曲は「アイ・ガット・リズム」「サマータイム」など。アイラが関わっていない人気楽曲「ラブソフィー・イン・ブルー」「パリのアメリカ人」などは含まれない。

●政府は9日、9月12日が期限となる緊急事態宣言について9月30日まで延長することを決めた。対象は、北海道、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、広島、福岡、沖縄の19都道府県。また、宮城、岡山、岡山、熊本、宮崎、鹿児島、鹿儿島の8県で、期限は9月30日までとした。一方、「まん延防止等重点措置」の対象となっていた富山、山梨、愛媛、高知、佐賀、長崎の6県については、いずれも解除とした。

●「鳥の演劇祭14」が11日、鳥取・鳥の劇場などで開幕した。上演プログラムとして、じゆう劇場『「ロミオとジュリエット」から生まれたもの』、鳥の劇場『プレヒト版「アンティゴネ」』などが上演された。26日まで。

●新型コロナウイルスの影響により興行を中止していた米ニューヨーク・ブロードウェイでの興行が14日、本格再開した。ブロードウェイの劇場が興行を行うのは2020年3月以来、約1年半ぶり。

●宝塚歌劇団は17日、「東京宝塚劇場 Reborn 20th ANNIVERSARY」のBlu-rayと2枚組CDを発売した。これは東京宝塚劇場のリニューアル20周年を記念したもの。東京宝塚劇場は1934年に誕生、2001年にリニューアルオープンした。

●「しまね演劇フェスティバル2021 第3回しまね演劇コンクール」が19日、島根県芸術文化センターで開かれた。県内5劇団が熱演を繰り広げ、最優秀「しまね演劇大賞」に益田市市民演劇集団「ドリームカンパニー」が選ばれた。

●10月30日から開幕する第34回東京国際映画祭のオープニング作品とクロージング作品が21日発表され、クロージング作品に、米ミュージカル映画『ディア・エヴァン・ハンセン』(原題: Dear Evan Hansen)が選ばれた。同作は2017年に米トニー賞6部門を受賞した同名ミュージカルを映画化したもの。一方、オープニング作品はクリント・イーストウッド監督・主演『クライ・マッチョ』(原題: Cry Macho)となった。

●劇団四季の新たな専用劇場「有明四季劇場」が26日に開場。こけら落とし公演としてディズニーミュージカル『ライオンキング』の東京ロングラン公演が開幕した。

●19都道府県の緊急事態宣言と8県のまん延防止等重点措置について、政府は28日、30日の期限をもってすべて解除することを決めた。宣言と重点措置がどの地域にも出されていない状況は、2021年4月4日以来、およそ半年ぶり。

●米ニューヨーク・ブロードウェイで28日に再開されたばかりのディズニーミュージカル『アラジン』で、29日夜の公演が直前で中止となった。舞台関係者に、ワクチン接種後に感染する、いわゆる「ブレークスルー感染」が見つかったため。「関係者を検査した結果、陽性者がいなかった」として翌30日の公演は予定通り行われた。

【10月】

●東京・TBS赤坂ACTシアターでのロングラン上演が予定されている、TBSとホリプロが共同でプロデュースする舞台『ハリーポッターと呪いの子』の開幕日が2022年7月8日に決まったことが4日発表された。同作はこれまででロンドン、ニューヨークなど5都市で開幕しヒットを記録中。東京公演はアジアとしては初、世界では7番目となる。

●串田和美が総合ディレクターを務める「FESTA松

本2021」が8日開幕した。長野・まつもと市民芸術館を中心に開催される「演劇のフェスティバル」で今回が初開催。演劇やダンスなどのライブパフォーマンス約30プログラムが上演された。17日まで。

●早稲田大学演劇博物館で11日、2021年度秋季企画展「新派SHIMPA—アヴァンギャルド演劇の水脈」が始まった。同館の収蔵資料を中心に、新派という演劇の相貌を問い直す試みとなった。また同日、特別展「家族の肖像—石井ふく子のホームドラマ」も始まった。同展はプロデューサー・石井ふく子の仕事に焦点を当て、氏が手がけたホームドラマを台本やスチール写真、映像などの諸資料を通して振り返った。2022年1月23日(両展示共)まで。

●1924年にオープンした旧劇場を建て替え、93年1月1日に開場した現在の兵庫・宝塚大劇場が15日、上演中の星組公演『柳生忍法帖』『モア—ダンディズム!』で、来場者3000万人を達成した。当日の終演後には星組組長・美稀千種、星組トップスター・礼真琴によるご挨拶があり、観劇者全員に記念ノベルティがプレゼントされた。

●京都国際映画祭が17日閉幕。国際的な活躍が期待される俳優を表彰する「三船敏郎賞」に俳優・桐谷健太が、日本映画の発展に寄与した映画関係者に贈る「牧野省三賞」に映画監督・武正晴が受賞した。

●2021年3月より改修工事を行っていた東京・サンシャイン劇場が22日、リニューアルオープンした。

●第33回池袋演劇祭の受賞団体・作品が22日発表された。大賞は劇団東京ハイビーム『新「My Sweet Baby」』に、優秀賞には演劇集団・東京ストーリーテラー『咲きそこね、そして散りそびれ』、カガミ想馬プロデュース『イリクラ2020-21〜Iridescent Clouds〜』が選ばれた。

●2020年11月に死去した坂田藤十郎をしのぶ会が28日、都内のホテルで行われた。

●沖縄・那覇市民会館の後継施設である「那覇文化芸術劇場 なは—と」が31日開館した。大劇場(1549席)、小劇場(259席)のほかスタジオなども併設し、文化芸術の活性化を目指す。

【11月】

●劇団「わらび座」が2日、秋田地方裁判所に民事再生を申し立てたことを発表した。コロナ禍の長期化に伴う経営悪化が原因。今後は、わらび座新法人サポート体制をはじめとした支援体制のもと、非営利法人として再生を図る。公演等は予定通りに実施。同劇団は1951年に東京で創設され、秋田に移り「わらび座」になった。

●ブシロードミュージックは8日、学校法人上野学園と上野学園石橋メモリアルホールの取得に関する

契約を締結したことを発表した。同ホールは株式会社劇団飛行船が運営し「飛行船シアター」として2022年春にリニューアルオープンする方針も発表した。

●日本芸術文化振興会が10日、老朽化した国立劇場再整備等事業の実施方針を発表した。劇場上部にホテルを整備し、レストランやカフェの併設も想定された。

●サントリーパブリシティサービス株式会社が10日、2021年10月に全国290の劇場・コンサートホールに向けて実施した実態調査アンケートの結果を公表した。客席を1席ずつ空けて販売する施設は70%を超えたほか、公演当日の個人情報(来場者)収集は必須と答えた施設が70%を超えた。またワークショップなどの体験型イベントの再開に踏み切れない施設が30%を超えた。

●2022年春に上演が予定されている丸美屋食品ミュージカル『アニー』のアニー役、孤児役オーディションの合格者が14日発表された。アニー役には山崎杏さん(9)と山本花帆さん(10)が選ばれた。

●松竹は15日、2022年1月以降の歌舞伎座の公演形態を発表した。座席は間隔を空けた2席並びを原則とする配置で販売、引き続き三部制公演(各部総入れ替え、幕間あり)などとした。

●東急及び東急レクリエーションが18日、新宿TO KYU MILANO跡地を中心とした敷地にて両社で推進している歌舞伎町一丁目地区開発計画の施設名称を「東急歌舞伎町タワー」に決定したと発表した。同タワーは約900席を予定している劇場のほか映画館やライブホールなどのエンターテインメント施設やホテルなどが入る計画で、2023年1月に竣工、同年春開業を予定している。

●宝塚クリエイティブアーツは19日、東京宝塚劇場内にある公式グッズ販売「キャトルレーヴ東京劇場店」の営業を12月26日に終了すると発表した。同劇場2階ショップ及び「キャトルレーヴ日比谷店」は引き続き営業、同劇場近隣に新店舗のオープンを来春に予定。

●11月20日に開幕した「関西演劇祭2021」が28日閉幕、表彰式が行われた。小劇場を拠点とする全国10劇団が競った結果、最優秀劇団MVOには、『ぼぼ永遠の稽古場』を上演したプロデュース団体「メガネカナウ」(主宰:上杉逸平)が選ばれた。同団体からはベスト脚本賞に二郎松田(演劇ユニット「カヨコの大発明」)、ベストアクター賞に寺井竜哉(「STAR☆JACKS」)が選ばれトリプル受賞となった。

●ステイプン・スピルバーク監督が60年ぶりにリメイクした映画『ウエスト・サイド・ストーリー』のワールドプレミアが、現地時間29日、米ニュー

ヨークで行われた。日本公開は2022年2月11日予定。
●松野官房長官が30日午後の記者会見で、新型コロナウイルスの新たな変異ウイルス「オミクロン株」の感染が国内で確認されたことを明らかにしました。「オミクロン株」はアフリカなどを中心に感染が確認された新種の変異ウイルスで、感染が確認されたのはナミビア国籍の30代の外交官の男性。日本国内でオミクロン株の感染者が確認されたのは初めてのことで。

【12月】

●「横浜国際舞台芸術ミーティング2021 (YPAM2021)」が1日、KAAT神奈川芸術劇場などで開幕した。「国際舞台芸術ミーティング(TPAM)」は1995年に東京で始まり、2011年から会場を横浜に移し、今年から名称を「YPAM」に変更。主催公演プログラム「YPAMディレクション」では、第1回TPAMで公演した「劇団戯変」による『さ迷える愛・序破急』三部作などが上演された。～19日。

●「現代用語の基礎知識」選「ユーキャン 新語・流行語大賞」が1日発表され、年間大賞に大谷翔平選手の「リアル二刀流／ショートタイム」が選ばれた。

●新潟県新潟市が10月29日の市長定例会見で新潟・りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館の新たなレジデンシャル制度を発表。それに基づきNoism Company Niigataの金森穰が新たな制度の第1号として芸術監督に就任することが正式に決定、3日記者会見が行われた。レジデンシャル制度は、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団が主体となり、専属契約を締結したアーティストが新潟市に在住し、りゅーとびあを拠点にしながら、同劇場で創造した舞台芸術作品を国内外で発表するとともに、市民の文化芸術活動の振興に貢献する継続的な取り組み。

●東京にある3劇場、サンモールスタジオ、雑遊、シアター風姿花伝が6日、2022年1月に演劇祭「劇場都市TOKYO」を開催することを発表した。会期は同年1月10日から3月31日を予定。

●劇団四季とオリエンタルランドが9日記者会見を行い、東京ディズニーリゾート内にある舞浜アンフィシアターにて、ディズニーミュージカル『美女と野獣』のロングラン公演を2022年10月から行うことを発表した。今回の公演では、舞台美術が一新され、台本・演出もリニューアルし、『美女と野獣』初演のクリエイティブスタッフが再構築したバージョンとなる予定。

●「コロナからの復興企画～関西演劇を広める・広げる」と題した記者会見が9日、大阪市内で行われ、「関西えんげき大賞」の開催が決定したことが発表された。毎年1月から12月に関西2府4県で上演された

舞台作品を対象に、選考委員から年間ベスト10作を選考され、観客のネット投票によりベストステージが選出される。2022年1月から実施。

●2019年5月から活動を休止していた演劇集団キャラメルボックスが11日と12日、兵庫・AiiA 2.5 The ater Kobeで「復活公演」となる『サンタクロースが歌ってくれた』を上演した。22日～26日に東京・サンシャイン劇場でも上演した。

●漢字1文字で今年の世相を表す「今年の漢字」に「金」が選ばれ、京都・清水寺で13日揮毫された。

●世田谷パブリックシアターは20日、2002年から20年務めてきた芸術監督・野村萬斎が2022年3月31日をもって退任することを発表した。合わせて次期芸術監督に白井晃が就任することも発表された。

●劇団四季が上演中のディズニーミュージカル「ライオンキング」が20日、日本上演23周年を迎えた。同作は1998年、旧・四季劇場[春]のオープニング作品として開幕した。

●11月27日から行われていた「ならのまち演劇フェス」が25日閉幕。奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」の一環として行われたもので、青年団公演『忠臣蔵・武士編』『忠臣蔵・OL編』のほか、青少年と創る演劇『奈良の夜の夢』などの上演のほか、フリンジ企画などのワークショップなどが行われた。

●故・蜷川幸雄さんが創設した高齢者の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」が26日、彩の国さいたま芸術劇場公演で最終公演を終え、15年間の活動に幕を閉じた。最終公演は『水の駅』だった。

令和3年 雑誌掲載戯曲

2021年1月～12月

【テアトロ(カモミール社)】

1月号

- ◆『祖国、遥かなり～日印のかけ橋～』作：江原吉博

2月号

- ◆『常闇、世を照らす』脚本：中村ノブアキ

3月号

- ◆『豊後訛り節』作：藤田傳

4月号

- ◆『堕ち潮』作：中津留章仁

5月号

- ◆『よそのくに』作：野村勇／第33回テアトロ新人戯曲賞佳作

- ◆『幸先矢(五場)』作：相澤嘉久治

6月号

- ◆『虚数』作：三浦剛

- ◆『ミュージカル 新・若草物語』ルイザ・オルコットの原作による 脚本：福田善之[1985、改訂2021]

7月号

- ◆『紅葉谷獣跡路』作：響リユウ

- ◆『海城発電一四つの国の物語』原作：泉鏡花 作：本田徹

8月号

- ◆『忍(おに)～絵師金蔵～』作：阿原乃里子／第33回テアトロ新人戯曲賞最終候補作

- ◆『29万の雫-ウィルスと闘う-』企画：岡田心平(劇団ゼロQ) 取材：「29万の雫」プロジェクト(劇団ゼロQと宮崎の演劇人) 構成・脚本・演出：古城十忍(ワンツーワークス)

9月号

- ◆『言い訳2018』作：相馬杜宇／第33回テアトロ新人戯曲賞最終候補作

- ◆『一人芝居(一幕) 春の風 狂に生きた男、野山獄の高杉晋作』作：江久里ばん

10月号

- ◆『ウォルト・ディズニーマの夢』作：岡本ジュンイチ／第33回テアトロ新人戯曲賞最終候補作

- ◆『朧な処で、徐に』作：大西弘記

11月号

- ◆『いちばん小さな町』作：瀬戸口郁

- ◆『にんげん日記』作：東憲司

12月号

- ◆『廻る礎』作：中村ノブアキ

【悲劇喜劇(早川書房)】

1月号

- ◆『現代能楽集X 幸福論～能「道成寺」「隅田川」より』作：瀬戸山美咲「道成寺」／長田育恵「隅田川」

- ◆『投げられやすい石』作：岩井秀人

- ◆『いきしたい』作：前田司郎

3月号

- ◆『花樟の女』作：石原燃

- ◆『そして春になった』作：岩松了

- ◆『POPPY!!!』作：野田慈伸

5月号

- ◆『白昼夢』作：赤堀雅秋

- ◆『帰還不能点』作：古川健

7月号

- ◆『森 フォレ』作：ワジディ・ムワウド 翻訳：藤井慎太郎

- ◆『サマー』作：玉田真也

9月号

- ◆『イエスタデイ』作：清水邦夫

- ◆『首切り王子と愚かな女』作：蓬萊竜太

11月号

- ◆『ザ・ドクター』作：ロバート・アイク 訳：小田島恒志

- ◆『ぼんやりブルース』作：額田大志

【演劇と教育(晩成書房・日本演劇教育連盟)】

1+2月合併号

- ◆『オレンジ東京大ぼうけん』作：米山貴史

- ◆『カルペ・ディエム』作：畠山忠久

3+4月合併号

- ◆人形劇脚本『ちょうふく山のやまんば』原作民話：ちょうふく山のやまんば 脚本：かまほりしげる

- ◆『サニィ』作：大木潤子

5+6月合併号

- ◆『椅子に座る人々の話』作：柏木陽

- ◆『OFFLINE』作：福島康夫

7月+8月合併号

- ◆『雷注意報』作：大上環 大竹口晴陽 中辻世奈 清水七海

9+10月合併号

- ◆『卒業公演』作：伊藤英梨／2021年子どもが上演する劇脚本募集入選

- ◆『水深ゼロメートルから』作：中田夢花／2021年子どもが上演する劇脚本募集準入選

11+12月合併号

- ◆『十年目の三月に』作：野間玲子
- ◆『雪わたり』原作：宮沢賢治 脚本：小関英明

【せりふの時代2021（演劇出版社）】

特集 ポストコロナを紡ぐ物語

- ◆『バーテンダーどこへ行く』作：岩松了
- ◆『専門医／雨のバス停留所』作：北村想
- ◆『花をさがして』作：渡辺えり
- ◆『2020年12月』作：川村毅
- ◆『ここにおる』作：樋口ミユ
- ◆『ランナーもマスクを』作：坂手洋二
- ◆『甘いドーナツと人魚』作：小川未玲
- ◆『きっと』作：佃典彦
- ◆『地下室からの配信』作：土田英生
- ◆『祝福』作：サリngROCK
- ◆『洞窟ごっこ』作：ごまのはえ
- ◆『たぶん散歩中』作：加藤一浩

- ◆『砂を掴む』作：高橋恵
 - ◆『新しい音楽の起源』作：田辺剛
 - ◆『すなの』作：山本正典
 - ◆『夜をさがそう』作：橋本健司
 - ◆『めくれる祭』作：福谷圭祐
 - ◆『華指212度』作：ピンク地底人3号
～一部掲載～
 - ◆『アカシアの雨が降る時』作：鴻上尚史
 - ◆『十一夜～あるいは星の輝く夜に』作：鄭義信
 - ◆『わたしは幾つもの ナラティブのバトルフィード』作：岡田利規
 - ◆『物語なき、この世界。』作：三浦大輔
～配信作より～
 - ◆『PRE AFTER CORONA SHOW The Movie』作：
ケラリーノ・サンドロヴィッチ
- ### 特集「せりふの時代」創刊号再録
- ◆「赤鬼」上演準備稿 作：野田秀樹

令和3年 演劇関係新刊書

令和3年(2021年)1月～12月の間に刊行された主な演劇関係新刊図書—演劇論、演劇評論、随筆、芸談、戯曲集—を収録した。

※書名、著者・編集者名、税込価格、出版社名の順に記載した。

《1月》

「芸能文化博物館事典 祭礼・演劇・映画・音楽から服飾・マンガ・アニメまで」 日外アソシエーツ (編) 14850円 日外アソシエーツ

「演劇と教育 2021年02月号」 990円 晩成書房

「岸田理生の劇世界 アングラから国境を越える演劇へ」 岡田路子(著) 4950円 大阪大学出版会

「多和田葉子の〈演劇〉を読む 切り拓かれる未踏の地平」 谷川道子(編) 2200円 論創社

「演劇界 2021年02月号」 1480円 小学館

「昭和戦時期の娯楽と検閲」 金子龍司(著) 9900円 吉川弘文館

「Stage fan vol.11(2021) (MEDIABOY MOOK)」 1045円 メディアボーイ

「何とかならない時代の幸福論」 ブレイディみかこ(著) 1485円 朝日新聞出版

「送別歌」 宝田明(著) 1760円 ユニコ舎

「2.5次元文化論 舞台・キャラクター・ファンダム」 須川亜紀子(著) 2200円 青弓社

「STAGE navi vol.52(2021) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版

「領域研究の現在〈表現〉(幼児教育 知の探究)」 山本直樹(著) 2750円 萌文書林

「テアトロ 2021年02月号」 1300円 カモミール社

「宝塚イズム 42 特集柚香・珠城・望海・礼・真風、激動の2020年！」 数下哲司(編著) 1760円 青弓社

「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年2/10号」 2036円 アシエツトコレクションズジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年1/27号」 2036円 アシエツトコレクションズジャパン

「宝塚GRAPH 2021年02月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「波瀾爆笑!?我が人生 3 (タカラヅカMOOK)」 ますっく(イラスト・潤色) 1800円 宝塚クリエイティブアーツ

「Le Cing(ル・サンク) 2021年 02月号」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2021年01月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「往生際にはぎやかに (田辺典忠戯曲集)」 田辺典忠(著) 1650円 青森文芸出版

「ミステリマガジン 2021年03月号」 1320円 早川書房

「岸田理生の劇世界 アングラから国境を越える演劇へ」 岡田路子(著) 4950円 大阪大学出版会

「演文庫戯単図録 中国芝居番付コレクション」 中里見敬(編) 7700円 花書院

「和歌山県の祭り」と民俗 和歌山県民俗芸能保存協会(編) 2420円 東方出版

「ミュージカル 2021年1-2月号」 1000円 ミュージカル出版

「Prince of STAGE ミュージカル&舞台を徹底特集! Vol.11 (ぶんか社ムック)」 1800円 ぶんか社

「国立文楽劇場 2巻セット」 国立文楽劇場営業課(編集) 770円 日本芸術文化振興会

「観世文庫所蔵能楽資料解題目録」 観世清和(監修) 14300円 檜書店

「人類にとって『推し』とは何なのか、イケメン俳優オタクの僕が本気出して考えてみた」 横川良明(著) 1540円 サンマーク出版

「会いたくて会いたくて」 室井滋(著) 1320円 小学館

「石原プロ社史 石原裕次郎・渡哲也 1963-2021」 石原プロモーション(編) 4180円 青志社

「えんぶ 2021年02月号」 600円 えんぶ

「イラストでわかるお江戸ファッション図鑑 町娘・若衆・武家・姫君・役者・芸者・遊女など」 撫子凜(著) 1870円 マール社

《2月》

「一九四〇年代素人演劇史論 表現活動の教育的意義」 小川史(著) 5500円 春風社

「演劇界 2021年03月号」 1480円 小学館

「ステージスクエア vol.49 Snow Man『滝沢歌舞伎ZERO2021』/『Endless SHOCK—Eternal—』(HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版

「STAGE navi vol.53(2021) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版

「なぜ戦争をえがくのか 戦争を知らない表現者たちの歴史実践 10組の表現者たちとの対話」 大川史織(編著) 2200円 みずき書林

「東の風が吹くとき 原発事故三部作 高木達戯曲集」 高木達(著) 2420円 晩成書房

「精神病院つばき荘／ひなの砦ほか3篇 くるみざわしん精神医療連作戯曲集」 くるみざわしん(著) 2200円 ラグーナ出版

「歌舞伎評判記集成 第3期第4巻 自安永十年至天明四年」 役者評判記刊行会(編) 16500円 和泉書院

「文化を問い直す 舞台芸術の視座から」 平田栄一郎(編著) 3300円 彩流社

「悲劇喜劇 2021年03月号」 1500円 早川書房

「奇祭巡礼」 北條秀司(著) 2200円 淡交社

「Enregisterment of thou in Eighteenth-Century Plays」 野々宮鮎美(著) 6820円 開拓社

「Best Stage(ベストステージ) 2021年04月号」 1080円 音楽と人

「宝塚GRAPH 2021年03月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「宝塚歌劇団の経営学」 森下信雄(著) 1760円 東洋経済新報社

「Le Cing(ル・サンク) NICE WORK IF YOU CAN (タカラヅカMOOK)」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ

「TAKARAZUKA PRIME STAR PORTRAITS」 1800円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2021年02月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「望海風斗メモリアルブック (タカラヅカMOOK)」 3300円 宝塚クリエイティブアーツ

「マシーン日記2021」 松尾スズキ(著) 2420円 白水社

「テアトロ 2021年03月号」 1300円 カモミール社

「絶版新書交響楽 新書で世界の名作を読む」 近藤健児(著) 1760円 青弓社

「残酷な遊戯・花妖 坂口安吾作品集」 坂口安吾(著) 2640円 春陽堂書店

「かきやまぶし (講談社の創作絵本 狂言えほん)」 もとしたいづみ(文) 1650円 講談社

「趣味に生きる教師 『表現』追求のための狂言稽古ノート 私のピアノ日記」 田中憲夫(著) 2750円 一莖書房

「キャストサイズ 2021-02 冬の特別号 本田礼生 spi 立石俊樹 赤澤遼太郎 (三オムック)」 1980円 三オブックス

《3月》

「イタリア・宝塚・2.5次元 多彩な演劇世界をめ

ぐって」 鈴木国男(著) 3190円 春風社
 「聖なる日 闇の河 その雨が降りやむとき (オーストラリア演劇叢書)」 アン德里ュー・ボヴェル(著) 2200円 オセアニア出版社
 「せりふの時代 特別編集 2021 特集『ポストコロナを紡ぐ物語』 特集創刊号再録〜コロナ禍の演劇界へのメッセージ〜 (演劇出版社ムック)」 「せりふの時代2021」編集部(編集) 1650円 演劇出版社
 「演劇と教育 2021年 04月号」 990円 晩成書房
 「げき 22 (児童・青少年演劇ジャーナル)」 児童・青少年演劇ジャーナル(著) 1320円 児童・青少年演劇ジャーナル〈げき〉編集委
 「演劇界 2021年04月号」 1480円 小学館
 「鈴木志忠と利賀村 世界演劇の地平へ」 杉田欣次(著) 1980円 能登印刷出版部
 「STAGE navi vol.54(2021) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版
 「かわいいうルフ」 小澤みゆき(編) 1870円 亜紀書房
 「ポスト・アートセオリーズ 現代芸術の語り方」 北野圭介(著) 2530円 人文書院
 「帰還する英米文学 時代を生き抜く〈学び〉とは」 高橋美帆(編) 3740円 大阪教育図書
 「Sparkle vol.44(2021) (メディアボーイMOOK)」 1800円 メディアボーイ
 「Stage fan vol.12(2021) (MEDIABOY MOOK)」 1045円 メディアボーイ
 「英語劇の魅力 日本語訳付」 小出広(作) 1980円 英光社
 「ケイティ・ミッチェルの演出術 舞台俳優と仕事するための14段階式クラフト」 ケイティ・ミッチェル(著) 2750円 白水社
 「〈作者〉とは何か 継承・占有・共同性」 ハロシラネ(著) 7370円 岩波書店
 「テアトロ 2021年04月号」 1300円 カモミール社
 「気がつけば光の中を 旅回り劇団・希望舞台の『劇場人生』」 玉井徳子(著) 1540円 同時代社
 「ナチスと闘った劇場 精神的国土防衛とチューリヒ劇場の『伝説』」 葉柳和則(編) 4620円 春風社
 「ザ・空気 ver.3 そして彼は去った…」 永井愛(著) 1650円 而立書房
 「都若丸 座長就任20周年メモリアルフォトブック(ぴあMOOK)」 5500円 ぴあ
 「インプロがひらく(若い)の創造性 『くるる即興劇団』の実践」 園部友里恵(著) 1980円 新曜社
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年4/7号」 2036円 アシエットコレクションズジャパン
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年3/24号」

2036円 アシエットコレクションズジャパン
 「日本古典と感染症 (角川ソフィア文庫)」 ロバート・キャンベル(編著) 1012円 KADOKAWA
 「古文書を学ぶ 市川海老蔵の証文から (神奈川大学入門テキストシリーズ 歴史民俗資料入門)」 関口博巨(著) 990円 御茶の水書房
 「宝塚GRAPH 2021年04月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「こう見えて元タカラジェンヌです」 天真みちる(著) 1870円 左右社
 「Le Cing(ル・サンク) 2021年」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「歌劇 2021年03月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「えんぶ 2021年04月号」 600円 えんぶ
 「早稲田文学 2021年春号 創作松原俊太郎「光の中のアリス」(戯曲) 特集「オノマトベにもぐる／オノマトベがひらく」 早稲田文学会(編) 2420円 早稲田文学会
 「井上ひさしの憲法指南 (岩波現代文庫 社会)」 井上ひさし(著) 1210円 岩波書店
 「ミュージカル 2021年3-4月号」 1000円 ミュージカル出版社
 「能と狂言 18 〈特集〉家元のアーカイブ」 能楽学会(編) 2200円 能楽学会
 「もう一度楽しむ能」 友枝真也(著) 2420円 淡交社
 「聖地と日本人 (角川ソフィア文庫)」 小松和彦(著) 968円 KADOKAWA
 「千五郎の勝手に狂言解体新書」 茂山千五郎(著) 2750円 春陽堂書店
 「能から紐解く日本史」 大倉源次郎(著) 1980円 扶桑社
 「THEやんごとなき雑談」 中村倫也(著) 1320円 KADOKAWA
 「流れゆくまに」 渡哲也(著) 1760円 青志社
 「A-blue THE Stage 色は匂えど、佐藤流司。(白夜ムック)」 1870円 白夜書房

《4月》

「シアターアーツ 65 2021春」 国際演劇評論家協会日本センター(編) 1540円 出版社晩成書房
 「中国伝統芸能の俳優教育 陕西省演劇学校のエスノグラフィー」 清水拓野(著) 5500円 風響社
 「演劇年鑑 2021」 日本演劇協会(監修) 3300円 日本演劇協会
 「演劇界 2021年05月号」 1480円 小学館
 「中学生のための脚本集U-15 上」 一般社団法人

日本演劇教育連盟(編) 2530円 晩成書房
 「演劇とスキャンダル 東洋・西洋、初期近代から現代まで」 フランソワ・ルセルクル(編) 2200円 Sophia University Press上智大学出版
 「これからの古典の伝え方 西鶴『男色大鑑』から考える」 畑中千晶(著) 2090円 文学通信
 「STAGE navi vol.55(2021) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版
 「ステージスクエア vol.50 城田優×高木雄也 ミュージカル『ブロードウェイと銃弾』/『滝沢歌舞伎ZERO 2021』 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版
 「『趣味に生きる』の文化論 シリアスレジャーから考える」 宮入恭平(編) 2640円 ナカニシヤ出版
 「テアトロ 2021年05月号」 1300円 カモミール社
 「ヘッダ・ガブラー (近代古典劇翻訳(注釈付)シリーズ)」 ヘンリック・イブセン(著) 1650円 論創社
 「受動的主人公は、可能か? これまで語られなかった劇的主人公」 菊川徳之助(著) 3080円 晩成書房
 「舞台芸術 24 FEATURE・言葉と音楽—〈日本語〉を超えて」 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター(企画・編集) 1650円 角川文化振興財団
 「悲劇喜劇 2021年05月号」 1500円 早川書房
 「ステージグランプリ vol.13(2021SPRING) (主婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス(編) 1760円 主婦の友インフォス
 「近代歌舞伎年表 名古屋篇第15巻 昭和二年～昭和六年」 日本芸術文化振興会国立劇場調査養成部調査記録課近代歌舞伎年表編纂室(編) 17600円 八木書店出版部
 「読んで楽しい舞台&芸能用語解説集」 パリオプロモーション(編) 1650円 ジャパンインターナショナル総合研究所
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年5/5号」 2036円 アシェットコレクションズジャパン
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年4/21号」 2036円 アシェットコレクションズジャパン
 「江戸歌舞伎の情報文化史」 倉橋正恵(著) 15400円 汲古書院
 「Best Stage(ベストステージ) 2021年06月号」 1080円 音楽と人
 「宝塚おとめ 2021年度版 (タカラヅカMOOK)」 1650円 宝塚クリエイティブアーツ
 「'20 宝塚Stage Album (タカラヅカMOOK)」 1350円 宝塚クリエイティブアーツ
 「宝塚GRAPH 2021年05月号」 750円 宝塚クリ

エィティブアーツ
 「Le Cing(ル・サンク) 2021年05月号」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「歌劇 2021年04月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「戯曲 母をなくして」 松永澄夫(著) 1650円 東信堂
 「戯曲 ミュージカル『刀剣乱舞』 葵咲本紀」 御笠ノ忠次(著者) 1760円 集英社
 「戯曲 ミュージカル『刀剣乱舞』 つはものどもがゆめのあと」 御笠ノ忠次(著者) 1760円 集英社
 「戯曲 ミュージカル『刀剣乱舞』 結びの響、始まりの音」 御笠ノ忠次(著者) 1760円 集英社
 「遠藤周作事典」 遠藤周作学会(編) 10450円 鼎書房
 「サンソン ルイ16世の首を刎ねた男 (K.NAKAS HIMA SELECTION)」 中島かずき(脚本) 1650円 論創社
 「ロミオとジュリエット (静山社ペガサス文庫 物語で読むシェイクスピア)」 斉藤洋(文) 902円 静山社
 「ハムレット (静山社ペガサス文庫 物語で読むシェイクスピア)」 斉藤洋(文) 924円 静山社
 「能 650年続いた仕掛けとは 英文版 (JAPAN LIBRARY)」 安田登(著) 2420円 出版文化産業振興財団
 「映画女優吉永小百合 (祥伝社文庫)」 大下英治(著) 1100円 祥伝社
 「三浦春馬 死を超えて生きる人 Part1」 月刊『創』編集部(編) 1650円 創出版

《5月》

「毘ノボーイング=ボーイング 新装復刊」 日仏演劇協会(編) 4400円 白水社
 「演劇と教育 2021年06月号」 990円 晩成書房
 「演劇界 2021年06月号」 1480円 小学館
 「古典の挑戦 古代ギリシア・ローマ研究ナビ」 葛西 康徳(編) 5500円 知泉書館
 「STAGE navi vol.56(2021) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版
 「Stage fan vol.13(2021) (MEDIABOY MOOK)」 1045円 メディアボーイ
 「ライブ・エンタテインメントの社会学 イベントにおける『受け手』と『創り手』の関係に着目して 増訂版」 中川和亮(著) 2750円 五紘舎
 「歌舞伎十八番の内勸進帳 (岩波文庫)」 郡司正勝(校注) 726円 岩波書店
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年6/2号」

2036円 アシェットコレクションズジャパン
「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年5/19号」
2036円 アシェットコレクションズジャパン
「act guide[アクトガイド] 2021 Season 8 (TO
KYO NEWS MOOK)」 1100円 東京ニュース通
信社
「雅楽のひみつ 見かた・楽しみかたがわかる本
伝統の和楽器超入門」 日本雅楽會(監修) 2530円
メイツユニバーサルコンテツツ
「宝塚GRAPH 2021年06月号」 750円 宝塚クリ
エイティブアーツ
「私の見たソビエット・ロシア」 小林一三(著)
2200円 教育評論社
「珠城りょうメモリアルブック (タカラヅカMOO
K)」 3300円 宝塚クリエイティブアーツ
「HotelSvizraHouse ホテル (タカラヅカMOO
K)」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
「文化・芸術の精神分析」 祖父江典人(編) 3300
円 遠見書房
「歌劇 2021年05月号」 750円 宝塚クリエイティ
ブアーツ
「真訳シェイクスピア四大悲劇」 ウィリアム・シェ
イクスピア(著) 5060円 河出書房新社
「シェイクスピア全集 33 終わりよければすべて
よし (ちくま文庫)」 シェイクスピア(著) 1045
円 筑摩書房
「裏切りの塔 G・K・チェスタトン作品集 (創元
推理文庫)」 G・K・チェスタトン(著) 902円
東京創元社
「ピルグリム21世紀版/ハルシオン・デイズ2020バ
ンデミック・バージョン」 鴻上尚史(著) 2420円
論創社
「マンガ日本の古典 27 ワイド版 心中天網島」
里中満智子(著) 1650円 中央公論新社
「竹内統一郎集成 Volume1 花ノ紋」 竹内統一
郎(著) 3300円 松本工房
「ショーンケン天才と狂気」 大下英治(著) 1870円
青志社
「ミュージカル 2021年5-6月号」 1000円 ミュ
ジカル出版
「Prince of STAGE 話題のミュージカル&2.5次元
を徹底特集! Vol.12 (ぶんか社ムック)」 1800円
ぶんか社
「awesome! Plus DRAMAMOVIESTAGE SE
ARCH MAGAZINE Vol.09 (シンコー・ミュ
ジック・ムック)」 1430円 シンコーミュージ
ック・エンタテイメント
「【オンデマンドブック】 伝統文化 史料編 (はじ
めて学ぶ芸術の教科書)」 森田都紀(著) 1430円

京都芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎
「伊藤正義中世文華論集 第6巻 中世文華とその
資料 下」 伊藤正義(著) 16500円 和泉書院
「わたしたちはみな弱法師である」 千葉万美子(著)
1650円 盛岡出版コミュニティー
「決定版日本の喜劇人」 小林信彦(著) 3960円 新
潮社
「岸恵子自伝 卵を割らなければ、オムレツは食べ
られない」 岸恵子(著) 2200円 岩波書店
「テアトロ 2021年06月号」 1300円 カモミール
社

《6月》

「演劇入門 生きることは演じること (集英社新
書)」 鴻上尚史(著) 968円 集英社
「ロスト・イン・バンデミック 失われた演劇と新
たな表現の地平」 早稲田大学坪内博士記念演劇博
物館(監修) 1980円 春陽堂書店
「他者の発見 演劇教育から人類学、ボランティア
と地域活性論への架け橋 (早稲田大学エウブラク
シス叢書)」 石野由香里(著) 4400円 早稲田大
学出版部
「ハロルド・ピンター 不条理演劇と記憶の政治学」
奥畑豊(著) 3300円 彩流社
「演劇界 2021年07月号」 1480円 小学館
「花歌舞伎徒然草」 夢枕獯(著) 1870円 河出書
房新社
「ステージグランプリ vol.14(2021SUMMER) (主
婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス(編)
1760円 主婦の友インフォス
「考える身体 (河出文庫)」 三浦雅士(著) 1342
円 河出書房新社
「エンタテインメント法実務」 骨董通り法律事務所
(編) 4180円 弘文堂
「Sparkle vol.45(2021) (メディアボーイMOO
K)」 1800円 メディアボーイ
「思考する芸術 非美学への手引き」 アラン・パ
ディオウ(著) 3520円 水声社
「虹む街」 タニノクロウ(著) 2640円 白水社
「今日も韓国ミュージカル日和 韓ドラ&K-POP
ファンも魅了する観劇ワールド」 田代親世(著)
1650円 双葉社
「ステージスクエア vol.51 菊池風磨×田中樹
『DREAM BOYS』/安田章大×行定勲 (HINODE
MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版
「STAGE navi vol.57(2021) (NIKKO MOOK
TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版
「父・福田恆存 (文春学藝ライブラリー 雑英)」 福

田逸(著) 1540円 文藝春秋
「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年7/14号」
2036円 アシェットコレクションズジャパン
「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年6/30号」
2036円 アシェットコレクションズジャパン
「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年6/16号」
2036円 アシェットコレクションズジャパン
「鶴屋南北未刊作品集 第1巻 勝俵蔵篇」 鶴屋南
北(著) 28600円 白水社
「宝塚GRAPH 2021年07月号」 750円 宝塚クリ
エイティブーツ
「Le Cing(ル・サンク) 2021年06月号」 1000円
宝塚クリエイティブアーツ
「歌劇 2021年06月号」 750円 宝塚クリエイティ
ブアーツ
「夜の言箱 2つの戯曲と小品集」 み群杏子(著)
1650円 星みずく
「ペドジフ・フォリエルシュタインと日本」 ヘレ
ナ・チャプコヴァ(著) 4400円 成文社
「悲劇喜劇 2021年07月号」 1500円 早川書房
「小谷契月作品集」 小谷契月(著) 3520円 桂書
房
「加藤和樹アーティストデビュー15周年メモリアル
フォトブック『K』(TOKYO NEWS MOOK)」
3600円 東京ニュース通信社
「見えないものを探す旅 旅と能と古典」 安田登
(著) 1650円 亜紀書房
「ZEAMI 中世の芸術と文化 05 特集=世阿弥と
その周縁」 松岡心平(編集) 2530円 森話社
「観世宗家能暦 観世清和が語る七〇〇余年受け継
がれる伝統と継承」 観世清和(述監修) 3850円
淡交社
「歌うように伝えたい 人生を中断した私の再生と
希望」 塩見三省(著) 1870円 角川春樹事務所
「仁義なき戦い菅原文太伝」 松田美智子(著) 1870
円 新潮社
「SWITCH VOL.39 NO.7 (2021 JUL.) team
NACS役者たちの25年」 1100円 スイッチ・パブ
リッシング
「テアトロ 2021年07月号」 1300円 カモミール
社
《7月》
「テアトロ 社会と演劇をつなぐもの」 高山明
(著) 3135円 河出書房新社
「演劇名鑑 2022年度版」 3500円 カモミール社
「演劇と教育 2021年08月号」 990円 晩成書房
「演劇界 2021年08月号」 1480円 小学館

「Theモノローグ集 リアリズム演技を修得するた
めの独白」 BNAW(編) 1870円 而立書房
「ステージスクエア vol.52 堂本光一×井上芳雄
ミュージカル『ナイツ・テイル騎士物語』(HI
NODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之
出出版
「旭川青春グラフィティ ザ・ゴールデンエイジ
旭川歴史市民劇 コロナ禍中の住民劇全記録」 那
須敦志(著) 1980円 中西出版
「STAGE navi vol.58(2021) (NIKKO MOOK
TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版
「文化事業の評価ハンドブック 新たな価値を社会
にひらく (文化とまちづくり叢書 SAL BOOKS)」
文化庁×九州大学共同研究チーム(編) 2750円 水
曜社
「アートマネジメントと社会包摂 アートの現場を
社会にひらく (文化とまちづくり叢書 SAL BOO
KS)」 九州大学ソーシャルアートラボ(編) 2970
円 水曜社
「Stage fan vol.14(2021) (MEDIABOY MOO
K)」 1045円 メディアボーイ
「花嫁化鳥 改版 (角川文庫)」 寺山修司(著) 748
円 KADOKAWA
「母と暮せば」 畑澤聖悟(著) 1320円 みずき書
林
「中学校創作脚本集 2021」 中学校創作脚本集202
1編集委員会(編) 2640円 晩成書房
「STAGE navi SUMMER SPECIAL 2021 (NI
KKO MOOK TVnaviプラス)」 1200円 産経新
聞出版
「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年8/11号」
2036円 アシェットコレクションズジャパン
「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年7/28号」
2036円 アシェットコレクションズジャパン
「宝塚GRAPH 2021年08月号」 750円 宝塚クリ
エイティブーツ
「宝塚イズム 43 特集さよなら轟&珠城&美園&
華」 数下哲司(編著) 1760円 青弓社
「zeitlos 真風涼帆写真集 (タカラヅカMOOK)」
3600円 宝塚クリエイティブアーツ
「轟悠 舞台写真集 (タカラヅカMOOK)」 3000
円 宝塚クリエイティブアーツ
「Le Cing(ル・サンク) 2021年08月号」 1000円
宝塚クリエイティブアーツ
「歌劇 2021年07月号」 750円 宝塚クリエイティ
ブアーツ
「風車小屋だより 改版 (岩波文庫)」 ドーデー
(著) 858円 岩波書店
「獄窓の雪 帝銀事件 (theater book)」 高橋い

さを(著) 2200円 論創社

「修禅寺物語 傑作伝奇小説 新装増補版 (光文社文庫 光文社時代小説文庫)」 岡本綺堂(著) 858円 光文社

「衛生 リズム&バキューム」 福原充則(著) 1650円 河出書房新社

「夏の夜の夢 (静山社ペガサス文庫 物語で読むシェイクスピア)」 斉藤洋(著) 902円 静山社

「大日本近世史料 6-31 市中取締類集 31 芝居之部 芝居所替之部」 東京大学史料編纂所(編纂) 11330円 東京大学史料編纂所

「ミュージカル 2021年7月・8月号」 1000円 ミュージカル出版社

「もの狂いの人々 古典文学に見る異形のヒロイン」 小林とし子(著) 2970円 花鳥社

「小松政夫遺言」 小菅宏(著) 1760円 青志社

「テアトロ 2021年08月号」 1300円 カモミール社

《8月》

「震災を問う生きるいのちのメッセージ 演劇表現を通して」 松本由隆(著) 2200円 柘植書房新社

「アフラ・ベーンと演劇について ひとつの演劇論」 近藤直樹(著) 2970円 大阪公立大学共同出版会

「演劇界 2021年09月号」 1480円 小学館

「カミュ伝 (インターナショナル新書)」 中条省平(著) 924円 集英社インターナショナル

「STAGE navi vol.59(2021) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版

「いつも心にタカラヅカ!! 読んで楽しむ宝塚歌劇演目ガイド123選」 牧彩子(著) 1430円 平凡社

「京劇名優・梅蘭芳と日本」 袁英明(著) 4180円 桜美林大学出版会

「ナターシャの踊り ロシア文化史 上」 オーランドー・ファイジズ(著) 5280円 白水社

「ナターシャの踊り ロシア文化史 下」 オーランドー・ファイジズ(著) 5500円 白水社

「宙くん、0番のりばはこっちだよ! ミュージカル教育の実践」 宮崎美智子(著) 1430円 幻冬舎メディアコンサルティング

「山川静夫の歌舞伎思い出ばなし」 山川静夫(著) 1980円 岩波書店

「教養として学んでおきたい歌舞伎 (マイナビ新書)」 葛西聖司(著) 957円 マイナビ出版

「歌舞伎役者・市川雷蔵 のらくらりと生きて」 大島幸久(著) 2200円 中央公論新社

「歌舞伎日蓮 日蓮聖人降誕八百年慶讃上演記念」 主婦と生活社(編) 1210円 主婦と生活社

「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年9/8号」 2036円 アシエット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年8/25号」 2036円 アシエットコレクションズジャパン

「江戸遊民の擾乱 転換期日本の民衆文化と権力」 平野克弥(著) 5060円 岩波書店

「文化史よりみた東洲斎写楽 なぜ寛政六年に登場したのか」 岡林みどり(著) 2530円 清水書院

「宝塚GRAPH 2021年09月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「TAKARAZUKA REVUE 2021 (タカラヅカMOOK)」 2200円 宝塚クリエイティブアーツ

「VERDAD (タカラヅカMOOK)」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2021年08月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「叛逆する精神 評伝藤森成吉」 中田幸子(著) 3520円 国書刊行会

「リトル・ヴェニス」 近藤耕人(著) 2420円 幻戯書房

「カウラの班長会議 side-A」 坂手洋二(著) 1980円 松本工房

「悲劇喜劇 2021年09月号」 1500円 早川書房

「fabulous stage Vol.15 (シンコー・ミュージック・ムック)」 1650円 シンコーミュージック・エンタテイメント

「狂言十番 私のお稽古帖」 高橋美紀子(著) 1320円 めでいあ森

「予約一名、角野卓造でございます。 京都編続」 角野卓造(著) 1628円 京阪神エルマガジン社

「牙を抜かれた男達が化粧をする時代」 綾野剛(著) 3300円 ワニブックス

「Next Stars(ネクストスターズ) Vol.2」 1980円 ジーオーティー

「テアトロ 2021年09月号」 1300円 カモミール社

《9月》

「演劇で(世界)を変える 鈴木忠志論」 菅孝行(著) 2970円 航思社

「演劇と教育 2021年10月号」 990円 晩成書房

「アメリカ演劇 32 ミュージカル特集」 日本アメリカ演劇学会(編) 1650円 日本アメリカ演劇学会

「演劇界 2021年10月号」 1480円 小学館

「STAGE navi vol.60(2021) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版

「空襲と文学 新装版」 W.G.ゼーバルト(著)

3190円 白水社

「act guide 2021 Season9 ナイツ・テイルー
騎士物語ー／秋冬の国内外注目作特集 (TVガイドMOOK)」 1100円 東京ニュース通信社

「Stage fan vol.15(2021) (MEDIABOY MOOK)」 1045円 メディアボーイ

「ステージグランプリ vol.15(2021 AUTUMN)
(主婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス
(編) 1760円 主婦の友インフォス

「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年10/6号」
2036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年9/22号」
2036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「銀座で逢ったひと」 関容子(著) 2420円 中央
公論新社

「市川雷蔵と勝新太郎」 中川右介(著) 2860円
KADOKAWA

「日本のエリート家系 100家の系図を繋げてみま
した」 菊地浩之(著) 980円 パブリック・プレ
イン

「fabulous stage Vol.16 (シンコー・ミュ
ジック・ムック)」 1650円 シンコーミュージ
ック・エンタテイメント

「宝塚GRAPH 2021年10月号」 750円 宝塚クリ
エイティブアーツ

「70過ぎたら生き方もファッションもシンプルなほ
ど輝けると知った」 安奈淳(著) 1760円 主婦の
友社

「Le Cing(ル・サンク) 2021年09月号」 1000円
宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2021年09月号」 750円 宝塚クリエティ
ブアーツ

「ゲザの戯曲・石川啄木 改訂版」 閻魔悪太郎(著)
770円 文芸社

「ドイツ文学における哀しみの女たち (NHKシ
リーズ NHK こころをよむ)」 久保哲司(著) 880
円 NHK出版

「狐晴明九尾狩 (K.Nakashima Selection)」
中島かずき(著) 1980円 論創社

「シェクスピア・カバーズ (SWITCH LIBRAR
Y)」 イッセー尾形(著) 3520円 スイッチ・パブ
リッシング

「ページルタウンの女神」 ケラリーノ・サンドロ
ヴィッチ(著) 2200円 論創社

「いろいろ」 上白石萌音(著) 1980円 NHK出版

「服と賢一 滝藤賢一の『私服』着こなし218」 滝藤
賢一(著) 1870円 主婦と生活社

「ミュージカル 2021年9-10月号」 1000円 ミュ
ジカル出版社

「Prince of STAGE 話題のミュージカル&2.5次元
を徹底特集! Vol.13 (ぶんか社ムック)」 1800円
ぶんか社

「アクター・ジェンダー・イメージズ 転覆の身振
り」 北村匡平(著) 2420円 青土社

「三浦春馬 死を超えて生きる人 Part2」 月刊
『創』編集部(編) 1650円 創出版

「テアトロ 2021年10月号」 1300円 カモミール
社

《10月》

「演劇界 2021年11月号」 1480円 小学館

「近代演劇の脈拍 その受容と心性」 神山彰(著)
5390円 森話社

「STAGE navi vol.61(2021) (NIKKO MOOK
TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版

「ステージスクエア vol.53 『葵上』『弱法師』ー
「近代能楽集」よりー神宮寺勇太／増田貴久×松下優
也 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980
円 日之出出版

「Sparkle vol.46(2021) (メディアボーイMOO
K)」 1800円 メディアボーイ

「シェイクスピアとの往還 日本シェイクスピア協
会創立六〇周年記念論集」 日本シェイクスピア協
会(編) 4180円 研究社

「2001 ぼくがSAPPOROへ飛んだワケ」 遠州ま
さき(著) 2200円 かりん舎

「名古屋の栄さまと『得月楼』 父の遺稿から」 寺田
繁(著) 1760円 鳥影社

「サラ・ベルナール (コミック版世界の伝記)」 山
田一喜(漫画) 1210円 ポプラ社

「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年11/3号」
2036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年10/20号」
2036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「マンガ日本の歴史 新装版 19 寛政の改革と化
政文化 (中公文庫)」 石ノ森章太郎(著) 924円
中央公論新社

「母との食卓 (まあいいか)」 大竹しのぶ(著) 1760
円 幻冬舎

「宝塚GRAPH 2021年11月号」 750円 宝塚クリ
エイティブアーツ

「タカラヅカ百年の芸名」 桐山智子(著) 3850円
武蔵野書院

「井上芳雄のミュージカル案内 (SB新書)」 井上
芳雄(著) 990円 SBクリエイティブ

「Le Cing(ル・サンク) 2021年10月号」 1000円
宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2021年10月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
「ヴィルヘルム・テル シラー戯曲傑作選 (ルリユール叢書)」 フリードリヒ・シラー(著) 3850円 幻戯書房
「戯曲傑作誕生をめぐる物語三部作 フェルメール、モーツァルト、ベートーヴェン」 田尾下哲(著) 3300円 創成社
「世界文学の名作を『最短』で読む 日本語と英語で味わう50作 (筑摩選書)」 榎本伸明(編) 1870円 筑摩書房
「悲劇喜劇 2021年11月号」 1500円 早川書房
「昭和文学研究 第83集 特集饒舌体再考 一口語体文学の可能性」 昭和文学会編集委員会(編集) 4620円 昭和文学会
「室町文化の座標軸 遣明船時代の列島と文事」 芳澤元(編) 10780円 勉誠出版
「室町時代の日明外交と能狂言」 西原大輔(著) 2970円 笠間書院
「BARFOUT! VOLUME314(2021 NOVEMBER) 京本大我(SixTONES) 小松菜奈 神宮寺勇太(King & Prince)」 ブラウンズブックス(編集) 968円 ブラウンズブックス
「テアトロ 2021年11月号」 1300円 カモミール社

《11月》

「演劇界 2021年12月号」 1480円 小学館
「シェイクスピアとロシアの作家・演劇人たち」 星野立子(著) 3080円 八千代出版
「戦後日本のコミュニティ・シアター 特別でない『私たち』の演劇」 須川渡(著) 4950円 春風社
「演劇と教育 2021年12月号」 1320円 晩成書房
「ベンヤミン メディア・芸術論集 (河出文庫)」 ヴァルター・ベンヤミン(著) 1452円 河出書房新社
「STAGE navi vol.62(2021) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版
「Stage fan vol.16(2021) (MEDIABOY MOOK)」 1045円 メディアボーイ
「テアトロ 2021年12月号」 1300円 カモミール社
「ピランデッロ戯曲集 1 役割ごっこ／作者を探す六人の登場人物」 ルイジ・ピランデッロ(著) 4400円 水声社
「エンタメの未来2031」 北谷賢司(著) 1980円 日経BP
「文学とアダプテーション 2 ヨーロッパの古典を

読む」 小川公代(編) 3960円 春風社
「三島由紀夫小百科」 井上隆史(編) 7700円 水声社
「しんとく丸の栄光と悲惨 上方文化の源流を訪ねて 業縁と輪廻の世界」 福井栄一(著) 1650円 批評社
「『型破り』の発想力 武蔵・芭蕉・利休・世阿弥・北斎に学ぶ (祥伝社黄金文庫)」 齋藤孝(著) 880円 祥伝社
「英米文学、多彩な文学解釈への誘い シェイクスピアからシドニー、ソローからトウウェイン」 川成洋(編) 4400円 彩流社
「河竹黙阿弥 オンデマンド版 (人物叢書 新装版)」 河竹繁俊(著) 2970円 吉川弘文館
「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年12/1号」 2036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン
「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年11/17号」 2036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン
「歌舞伎を読む 武の巻 源平合戦」 大矢芳弘(編著) 4180円 森話社
「〈キャラクター〉の大衆文化 伝承・芸能・世界」 荒木浩(編) 2750円 KADOKAWA
「歴史からでも楽しい! おもしろ日本音楽」 釣谷真弓(著) 3080円 東京堂出版
「写真集 明治大正昭和 宝塚 オンデマンド版 (ふるさとの想い出)」 平池一三(編) 8800円 国書刊行会
「宝塚GRAPH 2021年12月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
「21 RISING STAR GUIDE (タカラヅカMOOK)」 2200円 宝塚クリエイティブアーツ
「歌劇 2021年11月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
「鷗外の怪談」 永井愛(著) 1650円 而立書房
「オール・アバウト・乙」 川村毅(著) 1320円 論創社
「ミュージカル 2021年11・12月号」 1000円 ミュージカル出版社
「ウエスト・サイド・ストーリー 新訳版 (ハヤカワepi文庫)」 アーヴィング・シュルマン(著) 990円 早川書房
「義太夫年表 昭和篇第6巻 昭和四十六年～昭和五十六年」 日本芸術文化振興会国立文楽劇場部事業推進課義太夫年表昭和篇刊行委員会(編) 20900円 和泉書院
「能と狂言 19 〈特集〉曾我兄弟の伝承と能」 能楽学会(編) 2200円 能楽学会
「〈芸道〉の生成 世阿弥と利休 (講談社選書メチエ)」 大橋良介(著) 1925円 講談社

「狂言作品研究序説 形成・構想・演出 (研究叢書)」 稲田秀雄(著) 13750円 和泉書院
 「高倉健、その愛。(文春文庫)」 小田貴月(著) 924円 文藝春秋
 「矢印」 松尾スズキ(著) 1540円 文藝春秋
 「近衛十四郎十番勝負」 谷川建司(著) 4180円 雄山閣
 「東海道四谷怪談 (Koten Comics マンガでさきどり古典)」 上杉可南子(著) 880円 くもん出版
 「マンスフィールド・パーク上 (岩波文庫)」 ジェイン・オースティン(著) 1320円 岩波書店

《12月》

「演劇界 2022年01月号」 1800円 小学館
 「中国演劇史論」 田仲一成(著) 5940円 知泉書館
 「ステージスクエア vol.54 坂本昌行オフ・ブロードウェイ・ミュージカル『MURDER for Two マーダー・フォー・トゥー』 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版
 「STAGE navi vol.63(2021) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1020円 産経新聞出版
 「ミネオラ・ツインズ 六場、四つの夢、(最低)六つのウィッグからなるコメディ」 ポーラ・ヴォーゲル(著) 2310円 小島遊書房
 「ステージグランプリ vol.16(2022 WINTER) (主婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス(編) 1760円 主婦の友インフォス
 「人生70点主義 自分をゆるす生き方」 梅沢富美男(著) 1100円 講談社
 「ゆっくりの美学 太田省吾の劇宇宙」 西堂行人(著) 3080円 作品社
 「テアトロ 2022年01月号」 1300円 カモミール社
 「島村抱月の世界 ヨーロッパ・文芸協会・芸術座」 井上理恵(編著) 3520円 社会評論社
 「歌舞伎 研究と批評 歌舞伎学会誌 66 特集—歌舞伎の江戸東京—都市空間と劇場街—」 歌舞伎学会(編集) 2563円 歌舞伎学会
 「かぶき手帖 最新歌舞伎俳優名鑑 2022年版 特集歌舞伎の『世界』」 日本俳優協会(編集) 1630円 日本俳優協会
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2022年1/12号」 2036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年12/29号」 2036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン
 「歌舞伎特選DVDコレクション 2021年12/15号」 2036円 アシェット・コレクションズ・ジャパン

「和楽 2022年02月号」 1650円 小学館
 「忠臣蔵入門 映像で読み解く物語の魅力 (角川新書)」 春日太一(著) 990円 KADOKAWA
 「すぐそばにある。働きすぎのババのおはなし」 市川海老蔵(著) 1980円 KADOKAWA
 「宝塚GRAPH 2022年01月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「ザ・タカラヅカ 星組特集8 (タカラヅカMOOK)」 2400円 宝塚クリエイティブアーツ
 「タカラヅカの解剖図鑑詳説世界史」 中本千晶(文) 1980円 エクスナレッジ
 「歌劇 2021年12月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「Le Cing(ル・サンク) 2021年12月号」 1000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「SHO AYANAGI」 彩風翔(著) 3300円 日本文芸社
 「綺羅と艶冶の泉鏡花 戯曲篇 (双葉文庫 文豪怪奇コレクション)」 泉鏡花(著) 1100円 双葉社
 「優秀新人戯曲集 2022」 日本劇作家協会(編集) 2200円 ブロンズ新社
 「唐十郎のせりふ 二〇〇〇年代戯曲をひらく」 新井高子(著) 3080円 幻戯書房
 「マンスフィールド・パーク 下 (岩波文庫)」 ジェイン・オースティン(著) 1254円 岩波書店
 「ギリシア悲劇入門」 丹下和彦(著) 1980円 未知谷
 「文楽徘徊」 鈴木創士(著) 1980円 現代思潮新社
 「鶴屋南北未刊作品集 第2巻 鶴屋南北篇」 古井戸秀夫(校訂・編集) 28600円 白水社
 「awesome! Plus DRAMAMOVIESTAGE SEARCH MAGAZINE Vol.10 (シンコー・ミュージック・ムック)」 1540円 シンコーミュージック・エンタテイメント
 「侍役者道 我が息子たちへ」 千葉真一(著) 1760円 双葉社

令和3年 演劇関係物故者一覧

※敬称略

【1月】

●**福本清三**(本名：橋本清三) 俳優。1月1日、肺がんのため死去。77歳。1958年、15歳で東映京都撮影所に入所。約半世紀にわたり「斬られ役」として活躍。「5万回斬られた男」の異名を取った。映画『ラスト・サムライ』では寡黙な侍役に抜擢されて脚光を浴びる。また映画『太秦ライムライト』では「斬られ役50年の大ベテラン」役で初主演し、加・ファンタジア国際映画祭で最優秀男優賞を受賞した。

●**タニア・ロバーツ** 米・俳優。1月4日、死去。65歳。15歳で芸能界に入り、オフ・ブロードウェイのラ・ママ劇場での公演やCMに出演。1985年に映画『007 美しき獲物たち』でbondガールを務めたほか、80年にテレビドラマシリーズ『チャーリーズエンジェル』で主役の一人(ジュリー・ロジャース役)を演じ人気を博した。

●**ゆう輝哲也**(本名：井上哲也) 元「チャンバラトリオ」メンバー、俳優。1月4日、敗血症のため死去。79歳。1960年に東映に入り高倉健の付き人を務めた後、68年「チャンバラトリオ」に加入。剣劇風コントで人気を集めた。83年脱退後、「極道の妻たち」難波金融伝・ミナミの帝王」シリーズなどで俳優としても活躍した。

●**岡村喬生** オペラ歌手。1月6日、慢性腎不全のため死去。89歳。バス歌手として1960～70年代に欧州の歌劇場で活躍、日本を代表するオペラ歌手として知られた。一方、『ピーター・パン』『アニー』などのミュージカルに出演したほか、俳優としてNHK大河ドラマ『徳川慶喜』や映画『静かな生活』などにも出演、幅広く活動した。

●**半藤一利** 作家。1月12日、自宅で倒れているのが見つかり死亡が確認された。90歳。1965年、終戦の玉音放送までの24時間を描いた『日本のいちばん長い日』を刊行。67年、2015年と2度映画化もされた。

●**大路三千路**(本名：神山美知子) 1月12日、脳梗塞のため死去。100歳。宝塚歌劇団に入団し、1939年に初舞台。越路吹雪、乙羽信子さんと同期で名脇役として知られた。花組と雪組の組長も歴任。80年に退団後も後進の指導を担当した。2014年には「宝塚歌劇の殿堂」の1人に選ばれた。テレビなどでも活躍し、NHK連続テレビ小説『おしん』では主人公の祖母役を演じて人気を集めた。

●**川和孝** 演出家。1月14日、新型コロナウイルス感染症のため死去。88歳。イエール大学大学院を

修了後、俳優座、青年座に在籍した後フリーに。東京・両国のシアターXの名作劇場を推進。100本記念公演までと2本に迫る98本目の公演が昨年行われる予定だった。日本演劇協会会員。

●**奥畑康夫** 舞台照明家。1月15日、肝細胞がんのため死去。72歳。照明会社に入社後、アート・ステージライティング・グループに入り、吉井澄雄や沢田祐二に師事し、演劇やオペラ、舞踊の照明を学ぶ。1979年の藤原歌劇団『ラ・ボエーム』の照明デザインを担当した後はオペラを中心に活動し、パイロイト祝祭劇場、ローマ歌劇場、ネザーランド・ダンスシアターなど国内外の数々の公演を担当した。日本演劇協会会員。

●**来路史圃** 俳優。1月16日、死去。76歳。俳優座養成所16期生で1967年に劇団俳優座に入団。俳優座公演『どん底』『蟹工船』『赤ひげ』などに出演した。

●**山地健仁** 俳優。1月21日、死去。50歳。1995年に劇団東京乾電池に入団。劇団公演のほか、音楽劇『マリウス』、新派特別公演『鶴八鶴次郎』など外部舞台や映画やドラマなどで活躍した。

●**坂本スミ子**(本名：石井寿美子) 歌手、俳優。1月23日、脳梗塞のため死去。84歳。NHK合唱団を経て歌手デビュー。バラエティー番組『夢であいましょう』の主題歌で注目される。また1983年カンヌ国際映画祭で最高賞パルムドールに輝いた映画『楢山節考』で山に捨てられる老いた母を演じて話題となった。

●**ブルース・カービー** 米・俳優。1月24日、死去。95歳。ドラマ『刑事コロンボ』シリーズで人気キャラクターのクレイマー刑事を演じた。

●**クロリス・リーチマン** 米・俳優。1月27日、老衰のため死去。94歳。1970年代の人気テレビドラマ『メアリー・ムーア・ショー』などでエミー賞を8回受賞。また71年の映画『ラスト・ショー』でアカデミー賞助演女優賞を獲得した。

●**大橋太朗** 元阪急電鉄(現：阪急阪神ホールディングス)社長。1月28日、胸部大動脈疾患のため死去。81歳。1000days劇場や新・東京宝塚劇場のオープン、CSへの参画による舞台映像の情報提供など、宝塚歌劇団の発展に寄与した。

●**シシリー・タイソン** 米・俳優。1月28日、死去。96歳。1950年代からブロードウェイやオフ・ブロードウェイのほか映画やドラマで活躍。72年の映画『サウンダー』で母親役を好演しアカデミー賞助演女

優賞にノミネート。74年『ジェーン・ピットマン／ある黒人の生涯』で主人公を演じエミー賞最優秀主演女優賞を受賞。また2013年の舞台『バウンティフルへの旅(原題:The Trip of Bountiful)』では第67回トニー賞演劇主演女優賞を受賞。2018年にはアカデミー名誉賞が贈られた。

●**峰さを理(本名:安田峰子)** 俳優。1月30日、甲状腺がんのため死去。68歳。1972年に宝塚歌劇団に入団し、83年に星組トップスターに就任。代表作は『アルジェの男』『我が愛は山の彼方に』『哀しみのコルドバ』『華麗なるファンタジア』『紫子』『別離の肖像』など。87年に退団後も『サド侯爵夫人』『レ・ミゼラブル』や宝塚OG公演など舞台を中心に活躍。また宝塚歌劇団公演や日本舞踊協会創作舞踊劇場などで振付家としても活躍した。2014年には「宝塚歌劇の殿堂」に選ばれた。

●**本田誠人** 俳優。1月30日、死去。47歳。舞台芸術学院卒業後、1995年に劇団ベテカンの旗揚げに参加。以後、役者として出演するだけでなく、脚本・演出も手がけた。2017年に自身のブログですい臓がんの告知、余命宣告を受けていたことを公表していた。

●**鏡味仙三郎(本名:大木盛夫)** 太神楽師。1月30日、食道がんのため死去。74歳。1955年に十二代目家元・鏡味小仙に入門し、73年鏡味仙之助とコンビを結成。仙之助の死後は鏡味仙三郎社中を結成し高座に立ち続けた。太神楽曲芸会会長や落語協会理事も務めた。

●**くず哲也(本名:野村哲也)** タレント、ラジオパーソナリティー。1月31日、急性骨髄性白血病のため死去。73歳。『ザ・パンチ・パンチ・パンチ』『くず哲也の日曜はダメよ』で知られた。

[2月]

●**クリストファー・ブラマー** 米・俳優。2月5日、死去。91歳。50年代にブロードウェイ・デビューを果たし、ジュリー・アンドリュースと共演した映画『サウンド・オブ・ミュージック』のトラップ大佐役で一躍世界的に有名に。主演を務めた舞台『シラノ』で74年トニー賞ミュージカル主演男優賞を受賞したほか、エミー賞を2度受賞。2011年公開の映画『人生はビギナース』で米アカデミー賞助演男優賞を史上最高齢の82歳で受賞した。2019年には『ナイブズ・アウト 名探偵と刃の館の秘密』に出演するなど晩年で活躍した。

●**山野博大** 舞踊評論家。2月5日、総腸動脈瘤破裂のため死去。84歳。慶応大学在学中から新聞や雑誌に舞踊公演の批評を書き始める。文化庁の芸術文化関係の審議委員会などを歴任。舞踊関連の賞や

コンクールの選考・審査に当たっていたほか、朝日舞台芸術賞の選考委員なども務めた。編著書に『踊る人にきく』。

●**森山周一郎** 俳優、声優。2月8日、肺炎のため死去。86歳。日本大学芸術学部映画学科を中退。劇団東芸第1期研究生。俳優だけでなく声優やナレーターとしても活躍。洗みのある独特の低音の声で知られ、映画『紅の豚』(ポルコ・ロッソ役)、『さよなら銀河鉄道999アンドロメダ終着駅』(老バルチザン役)、ドラマ『刑事コジャック』(テリー・サバラス吹替)などで人気を集めた。

●**ジャンクロード・カリエール** 仏・作家、脚本家。2月8日、死去。89歳。脚本家としてルイス・ブニュエル監督の映画『昼顔』(ベネチア国際映画祭金獅子賞)『ブルジョワジーの秘かな愉しみ』を手がけたほか、『ブリキの太鼓』(カンヌ国際映画祭パルム・ドール)や『存在の耐えられない軽さ』、大島渚監督『マックス、モン・アムール』など数々の名画の脚本を手がけた。2014年、米アカデミー賞名誉賞。

●**井上陽一** 活動写真弁士。2月9日、肺炎のため死去。82歳。映写技師として働きながら無声映画に語りなどを当てる活動写真弁士・浜星波に師事。1979年から各地の映画祭・上映会などで公演を続け、晩年まで活躍した。

●**鴨下信一** 演出家、元TBS常務。2月10日、肺炎のため死去。85歳。1958年にラジオ東京(現:TBSホールディングス)に入社。ドラマ『岸辺のアルバム』『女たちの忠臣蔵』『高校教師』など数々のドラマを演出。一方で92年から白石加代子の「百物語」源氏物語シリーズの台本構成・演出を手がけた。

●**小峰隆司** 俳優。2月10日、胃がんのため死去。87歳。京都・太秦の東映京都撮影所に所属、「水戸黄門」「大岡越前」「暴れん坊将軍」シリーズなどで、長年に渡り時代劇などの悪役や斬られ役として活躍した。

●**チック・コリア** 米・ジャズピアニスト。2月11日、がんのため死去。79歳。マイルス・デイビスの名盤『キリマンジャロの娘』でエレクトリックピアノを演奏し、ジャズの新しい方向性を見出した。「スペイン」「ラ・フェスタ」など名曲は多数。グラミー賞を23回受賞。

●**成澤昌茂** 脚本家、演出家。2月13日、老衰のため死去。96歳。日本大学芸術学部演劇学科卒業後、脚本家や映画監督、ドラマ演出家などとして活躍。脚本の代表作は映画『丹下左衛門』『妖婦伝』『噂の女』『赤線地帯』『浪花の恋の物語』『本所いなり湯』『雪燃える2.26事件』『元禄おんな舞』『黒蜥蜴』、ドラマ『若き日の信長』『香華』『華岡青洲の妻』『残菊物語』など。シルバースター国際映画脚本賞、日本映画批評家大賞

などを受賞した。日本演劇協会会員。

●**村山新治** 2月14日、老衰のため死去。98歳。東映の前身である太泉映画に入社。1957年『警視庁物語 上野発五時三十五分』で劇映画監督デビュー。主な作品に『七つの弾丸』『無法松の一生』など。「キイハンター」「特捜最前線」シリーズなどドラマの演出も手がけた。

●**嵯川哲朗(本名:勝野忠孝)** 俳優。2月17日、筋萎縮性側索硬化症(ALS)のため死去。84歳。劇団青俳や東宝演劇部を経てフリーに。数多くの舞台に出演し、『真夏の夜の夢』など多くの嵯川幸雄作品でも活躍した。また多くのドラマにも出演、NHK大河ドラマ『三姉妹』の近藤勇役で人気を集めた。1989年には東京・赤坂に「シアターVアカサカ」をオープンさせ、2008年の閉館まで代表を務めた。

●**アンドレイ・ミャフコフ** 露・俳優。2月18日、死去。82歳。1965年にモスクワの「現代人」劇場に入り、77年にモスクワ芸術座に移籍、数々の舞台作品に参加。映画俳優としても活躍し、75年の主演コメディ映画『運命の皮肉』は、ソ連時代から現在まで毎年大晦日には必ずテレビで放映されるほどの国民的人気を博した。

●**金丸哲也** テレビプロデューサー。2月17日、心不全のため死去。55歳。東映テレビ企画制作所所属、「山村美沙サスペンス・狩矢警部シリーズ」「内田康夫サスペンス・浅見光彦シリーズ」「おかしな刑事」「特捜9」などを手がけた。

●**菅谷政子** 声優。2月25日、死去。83歳。劇団ちどり、劇団草、りんどうの会、俳協など経て声優として活躍。代表作に『エースをねらえ! (愛川マキ)』『パーマン(ガン子)』『忍者ハットリくん(ケンイチ)』など。

●**八幡泰彦** 音響家。2月25日、死去。84歳。1959年より舞台音響効果・音響企画制作に従事。66年にサウンドクラフトを設立。『死神』ほか、いずみたくミュージカル作品や『ショウ・ガール』ほか福田陽一郎作品、斉藤満作品、劇団NLT、無名塾などの音響効果を担当した。

●**斎藤祐** 元東映プロデューサー。2月27日、老衰のため死去。87歳。『タイガーマスク』など、主にアニメ番組を企画。「木谷梨男」名義で、タイガーマスクの主題歌などの歌詞も手がけていた。

[3月]

●**小沢信男** 作家。3月3日、CO2ナルコーシスのため死去。93歳。戦後の民主主義文学運動をリードした新日本文学会に所属。小説や詩、俳句、評論、劇作など多彩な作品を執筆。2001年『裸の大将一代記―山下清の見た夢』で桑原武夫学芸賞を受賞。共著

に『戯曲故事新編』。

●**バトリック・デュボン** 仏・バレエダンサー。3月5日、死去。61歳。1970年にパリ・オペラ座バレエ学校に入学し、80年に21歳でバレエ団最高位のエトワールに。日本をはじめ世界中で人気を集めた。また90～95年にパリ・オペラ座バレエ団の芸術監督も兼務した。

●**大塚康生** アニメーター、作画監督。3月15日、死去。89歳。代表作は『白蛇伝』『長靴をはいた猫』『ルパン三世』『ルパン三世 カリオストロの城』『未来少年コナン』『じゃりン子チエ』。

●**安西正弘** 俳優、声優。3月15日、急性心不全のため死去。66歳。1976年に劇団テアトル・エコーに入団。劇団公演のほか、『ラ・マンチャの男』『元禄港歌』『ラ・カージュ・オ・フォール』『エニシング・ゴーズ』などに出演。また、アニメ『うる星やつら』『それいけ! アンパンマン』などで声優としても活躍した。

●**原正人** 映画プロデューサー。3月17日、心不全のため死去。89歳。主なプロデュース作品に『戦場のメリークリスマス』『乱』『失楽園』など。フランス芸術文化勲章オフィシエを受章。

●**皇達也** プロデューサー、元テレビ朝日取締役編成・制作局長。3月20日、肺炎のため死去。79歳。『欽ちゃんのどこまでやるの!』『みごろ!たべごろ!笑いごろ!』『タモリ倶楽部』『ミュージックステーション』などの人気番組をプロデュースした。

●**浜田滋郎** 音楽評論家、日本フラメンコ協会会長。3月21日、死去。86歳。スペイン語圏の音楽や文化を研究。著書に『約束の地、アンダルシア』など。

●**田中邦衛** 3月24日、老衰のため死去。88歳。1955年に俳優座養成所に入所。57年『純愛物語』で映画デビューした。加山雄三主演『若大将』シリーズの青大将役で人気に。以降『網走番外地』『仁義なき戦い』シリーズなどでも活躍。81年から始まったドラマ『北の国から』シリーズの父親役が代表作となった。10年に公開された映画『最後の忠臣蔵』以降は表舞台から遠ざかっていた。99年紫綬褒章、2006年旭日小綬章。

●**ジェシカ・ウォルター** 米・俳優。3月24日、死去。80歳。クリント・イーストウッドの初監督作品『恐怖のメロディ』など、約半世紀にわたって映画やテレビ、舞台で活躍。1975年にエミー賞主演女優賞を受賞した。

●**ベルトラン・タベルニエ** 仏・映画監督。3月25日、死去。79歳。1984年『田舎の日曜日(原題: Un Dimanche a La Campagne)』でカンヌ国際映画祭の監督賞、95年『ひとりぼっちの狩人たち(原題: l'apptat)』でベルリン国際映画賞の最高賞(金熊賞)を

受賞した。

●**ラリー・マクマートリー** 米・作家、脚本家。3月25日、心不全のため死去。84歳。1984年に米アカデミー賞作品賞などを受賞した映画『愛と追憶の日々』の原作小説を執筆。また脚本も多数執筆し、映画『ブロークバック・マウンテン』ではアカデミー賞脚色賞を受賞した。

●**朝比奈順子(本名：越後亜紀子)** 3月30日、多臓器不全のため死去。68歳。宝塚音楽学校を経て1971年に宝塚歌劇団に入団。72年退団後はNHK大河ドラマや日活ロマンポルノなど女優や歌手として活躍した。

●**渡辺千明** 脚本家。3月31日、がん性心膜炎のため死去。70歳。1999年『ニーセーター(若者たち)』で第2回日本シナリオ大賞準入選。代表作に映画『十八歳、海へ』『ジャイブ 海風に吹かれて』、ドラマ『あまえないでヨ!』など。野田高梧シナリオ研究所・理事。

[4月]

●**アーサー・コピット** 米・劇作家。4月2日、死去。83歳。1962年、戯曲『Oh Dad, Poor Dad, Mamma Hung You in the Closet and I'm Feelin' So Sad』でドラマ・デスク・アワードの前身にあたるパーノン・ライス・アワードを獲得。『Indians』『Wings』『Nine』でトニー賞ミュージカル脚本賞に3度ノミネートされた。そのほか『Success』『Phantom』『High Society』なども手がけた。

●**田村正和** 4月3日、心不全のため死去。77歳。阪東妻三郎の三男として生まれ、高校在学中の1961年に映画『永遠の人』でデビュー。その後、NHK大河ドラマや数多くの映画に出演。72年からのテレビ時代劇『眠狂四郎』で人気を集めたほか、80年代には『うちの子にかぎって…』『パパはニュースキャスター』などコメディードラマで従来のニヒルなイメージを覆すコミカルな演技で新境地を開いた。94年からのドラマ『古畑任三郎』シリーズ(作・三谷幸喜)は世代を超えて人気を集めた。また、舞台『眠狂四郎』『乾いて候』『刀化粧』『恋山彦』シリーズで主演を務めた。

●**橋田壽賀子** 脚本家。4月4日、急性リンパ腫のため死去。95歳。松竹脚本部を経てフリーに。その後、プロデューサー・石井ふく子と出会い、ドラマの脚本を手がけるようになる。代表作に『愛と死を見つめて』『となりの芝生』『おしん』『おんな太閤記』『おんなは度胸』『春よ、こい』など多数。人気ドラマ『渡る世間は鬼ばかり』シリーズは第10シリーズまで続き、長きに渡り視聴者に愛された。また、『渡る世間は鬼ばかり』『おんなは一生懸命』『女の言い分』

『春日局』など舞台の脚本も多く手がけた。92年には私財を投じ橋田文化財団を設立。後進の育成にも努めた。88年に紫綬褒章、2004年に勲三等瑞宝章、2020年に文化勲章を受章。

●**鳥越文蔵** 近世演劇研究者。4月5日、呼吸不全のため死去。89歳。近松門左衛門を中心に人形浄瑠璃や歌舞伎などの研究で知られ、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館館長や、初代の歌舞伎学会会長などを歴任。1992年『元禄歌舞伎放』で芸術選奨文部大臣賞を受賞。97年紫綬褒章を受章。主な著書に『松門左衛門集』『能と歌舞伎 大東急記念文庫』など。

●**渡邊守章** 仏文学者、演出家。4月11日、胸部大動脈瘤破裂のため死去。88歳。主な著書に『虚構の身体』『越境する伝統』。東京大学名誉教授のほか京都芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員も務め、演劇集団「円」や自身が主宰する「空中庭園」などで演出家としても活躍。ポール・クロデル『縊子の靴―四日間のスベイン芝居―』を自身の翻訳・構成・演出で上演したほか、ジャン・ラシーヌ『悲劇フェードル』で文化庁芸術祭優秀作品賞を受賞。そのほかジャンジュネ『女中たち』、アルフレッド・ドミュッセ『ロレンザッチョ』などを手がけた。2009年からは京都芸術劇場春秋座の「春秋座一能と狂言」シリーズの企画・監修も行っていた。19年、仏・レジオンドヌール勲章(シュバリエ)を受章。

●**隆大介** 俳優。4月11日、頭蓋内出血のため死去。64歳。1975年に無名塾に入塾。1期生として研鑽を積み78年『オイディプス王』で初舞台。80年に映画『影武者』織田信長役でブルーリボン賞新人賞を受賞。また80年のNHK大河ドラマ『峠の群像』でエランドール賞新人賞を受賞。以降、個性派俳優として数多くの映画、舞台、ドラマに出演した。

●**榎その** 漫画家。4月13日、誤嚥性肺炎のため死去。93歳。社会時評をテーマにした作品を『演劇界』や朝日新聞に連載。1991年『歌舞伎・文楽に寄せて』で第20回日本漫画家協会賞選考委員特別賞を受賞した。

●**若松武史** 俳優。4月14日、甲状腺がんのため死去。70歳。1974～83年まで寺山修司率いる「演劇実験室◎天井桟敷」に所属。その後も数々の舞台に出演。主な出演作品に『青森県のせむし男』『NINAGAWA マクベス』『毛皮のマリー』『ダブリンの鐘つきカピ人間』『新・雨月物語』など。またNHK大河ドラマ『武田信玄』『翔ぶが如く』『琉球の風』『龍馬伝』、『ランタンの花咲くころ』『うみのほたる』など多くのドラマや映画にも出演した。

●**清水邦夫** 劇作家。4月15日、老衰のため死去。84歳。早稲田大学在学中に『署名人』でデビュー。1974年『ぼくらが悲情の大河をくだるとき』で第18

回岸田國土戯曲賞を受賞。蜷川幸雄とタッグを組み『真情あふる軽薄さ』など若者の心情を描いた作品を発表し、全共闘世代の熱狂的な支持を得た。その後、妻で俳優の松本典子さんと演劇集団「木冬社」を結成し、多くの自作を発表する一方で演出も手がけた。代表作に『楽屋』『幻に心もそぞろ狂おしのわれら将門』『火のようにさみしい姉がいて』『タンゴ・冬の終わりに』『エレジー』など。2001年『女優Nー戯曲推理小説より』が最後の作品となった。02年に紫綬褒章、08年に旭日小綬章を受章。

●**中里友豪(本名：仲里朝豪)** 詩人、劇作家。4月17日、心不全のため死去。84歳。1961年に演劇集団「創造」の結成に参加。『アンネの日記』などに出演したほか、2000年発表の戯曲『越境者』で第4回沖縄市戯曲大賞を受賞。また85年に詩誌「EKE」を設立。98年に詩集『遠い風』で第21回山之口獺賞を受賞した。

●**リアム・スカーレット** 英・振付家。4月17日、死去。35歳。2012年に26歳でロイヤル・バレエの常任振付師に。18年『白鳥の湖』を31年ぶりに新演出し、世界的に話題を集めた。またKバレエカンパニーで『プロムナード・センチメンタル』を日本で委託初演した。

●**チャーリー浜(本名：西岡正雄)** 喜劇俳優。4月18日、誤嚥性肺炎のため死去。78歳。1962年に吉本新喜劇に入団。「…じゃ、あ～りませんか」が人気を呼び、91年には「新語・流行語大賞」年間大賞に選ばれた。92年「上方お笑い大賞」金賞受賞。一方でNHK連続テレビ小説『やんちゃくれ』に出演するなど、ドラマや舞台で俳優としても活躍した。

●**ジム・スタインマン** 米・作曲家、プロデューサー。4月19日、死去。73歳。ボニー・タイラー、エア・サプライ、パニー・マニロウ、セリーヌ・ディオナなどの作曲・プロデューサーとして活躍。一方で、ミュージカル『ダンス・オブ・ヴァンパイア』『Bat Out of Hell(地獄のロックライダー)』などの作曲を手がけたほか、アンドリュー・ロイド・ウェバー『ホイッスル・ダウン・ザ・ウィンド』にも参加した。

●**河野洋一郎** 俳優。4月24日、肝硬変のため死去。60歳。劇団「南河内万歳一座」の旗揚げメンバーとして舞台を中心に活躍、またNHK連続テレビ小説『すずらん』、NHK大河ドラマ『武蔵 MUSASHI』『八重の桜』、ドラマ『HERO』『半沢直樹』などテレビやCMにも多数出演した。

●**菊池俊輔** 作曲家。4月24日、誤嚥性肺炎のため死去。89歳。映画『女囚さそり』シリーズの主題歌『怨み節』が大ヒット。その後、『キイハンター』『Gメン'75』『暴れん坊将軍』シリーズのテーマ曲や音楽を手がけた。また『仮面ライダー』『ドラえもん』『タ

イガーマスク』『パピル2世』『ドカベン』『ドラゴンボール』シリーズのアニメのテーマ曲や音楽を手がけた。

●**クリスタ・ルートヴィヒ** 独・メゾソプラノ歌手。4月24日、死去。93歳。1946年にフランクフルト歌劇場でデビュー。その後、ミラノ・スカラ座やメトロポリタン歌劇場など世界を舞台に活躍。カラヤン、バーンスタインに世界的指揮者やマリア・カラスら伝説的歌手とも共演し20世紀最高のオペラ歌手の一人と評された。

●**立花隆** ジャーナリスト。4月30日、急性冠症候群のため死去。80歳。田中角栄総理大臣の退陣ときっかけとなった文藝春秋「田中角栄研究 その金脈と人脈」のほか多くの調査研究やベストセラーを発表。“知の巨人”と呼ばれた。

【5月】

●**江原達怡** 俳優。5月1日、病気のため死去。84歳。子役として舞台などに出演する中、1948年に映画『鐘の鳴る丘』に出演。その後『若大将』シリーズや『独立愚連隊』『赤ひげ』『椿三十郎』など数多くの映画やドラマに出演。一方で実業家としても活躍した。

●**オリンピア・デカキス** 米・俳優。5月1日、死去。89歳。大学卒業後、オフ・ブロードウェイなどの舞台で活躍。1987年公開の映画『月の輝く夜に』でアカデミー賞助演女優賞を受賞。俳優である夫のルイス・ゾリックと共に劇団や劇場の設立に携わったほか、ニューヨーク大学で教鞭をとるなど、演劇界の発展に貢献した。

●**三ツ井康** 元フジテレビ副社長。5月3日、すい臓がんのため死去。84歳。フジテレビ副社長のほか、共同テレビジョン社長、扶桑社社長などを歴任。映画『ゲゲゲの鬼太郎』『梟の城』などを手がけた。

●**廣田康男** 舞台演出家。5月5日、誤嚥性肺炎のため死去。83歳。有名歌手のステージやコンサートの構成演出及び公演企画制作を数多く手がけた。

●**ノーマン・ロイド** 米・俳優。5月10日、死去。106歳。オーソン・ウェルズらが主宰する「マーキュリー劇場」で活躍後、1942年にヒッチコック監督『逃走迷路』でスクリーンデビュー。チャップリンとも親交が深く『ライムライト』に出演した。

●**江上健二** 俳優。5月11日、肝細胞がんのため死去。54歳。1992年に劇団四季創立40周年記念オーディションに合格し入団。『異国の丘』『ライオンキング』『美女と野獣』『コーラスライン』『人間になったがった猫』『解ってたまるか!』など多彩な演目出演。2020年12月の大阪四季劇場『リトルマーメイド』スカットル役での出演が最後の舞台となった。

●**澤田隆治** テレビ・ラジオプロデューサー。5月

16日、死去。88歳。1955年に毎日放送に入社。担当したコメディ番組『てなもんや三度笠』が視聴率60%を超える驚異の人気を博した。その後『花王名人劇場』を手がけ、漫才ブームの巻き起こし、多くの名コンビを育てた。全日本テレビ番組製作者連盟、日本映像事業協同組合で理事長を務めた。

●**若山弦蔵** 声優、俳優。5月18日、心不全のため死去。88歳。『007』シリーズのショーン・コネリー、『スパイ大作戦』シリーズのジム・フェルプスの吹替を担当。低音域ながらよく通る洪い声で人気に。時代劇『暴れん坊将軍』シリーズや『赤い運命』シリーズのナレーションでも知られる。またTBSラジオ『若山弦蔵の東京ダイヤル954』では前身番組から約22年間休まずパーソナリティーとして活躍。日本点字図書館で朗読ボランティアも続けていた。

●**チャールズ・グローディン** 米・俳優。5月18日、骨髄がんのため死去。86歳。アクターズ・スタジオで演技を学んだ後にブロードウェイで舞台デビュー。その後、『天国からきたチャンピオン』『ミッドナイト・ラン』『ベートーベン』など数多くの映画やドラマに出演した。

●**松山樹子** 松山バレエ団名誉芸術監督。5月22日、急性心不全のため死去。98歳。1936年、日劇クラシックバレエ科1期生に選ばれ、その後、日本のバレエの草分けとして活躍。芦原英子らが結成したバレエ団公演『白鳥の湖』に参加、公演は帝国劇場で1か月間のロングランを記録した。1948年に清水正夫と共に松山バレエ団、松山バレエ学校を設立。森下洋子をはじめ、世界で活躍するバレエダンサーの育成に尽力した一方で、中国の革命歌劇『白毛女』のバレエ化や『赤い陣羽織』『高野聖』など文学の要素を盛り込んだ作品を創作した。85年紫綬褒章、94年勲四等宝冠章を受章。

●**片岡秀太郎** 歌舞伎俳優。5月23日、慢性閉塞性肺疾患のため死去。79歳。十三世片岡仁左衛門の次男。片岡彦人として1946年『吉田屋』禿役で初舞台。56年『河内山』浪路役で二代目片岡秀太郎を襲名。上方らしいほんやりとした芝居を継承する女方として活躍し、上方歌舞伎の振興に力を注いだ。また一般家庭出身の片岡愛之助を養子に迎え指導を行うほか、松竹・上方歌舞伎塾や子ども歌舞伎スクール「寺子屋」などで講師を務め、後進の育成にも力を注いだ。最後の舞台は2020年12月南座『一谷嫩軍記 熊谷陣屋』の経盛室藤の方。2019年重要無形文化財保持者(人間国宝)、2021年旭日小綬章。

●**エリック・カール** 米・絵本作家。5月23日、腎不全のため死去。91歳。1969年に出版された代表作『はらぺこあおむし』は70か国以上で翻訳され、累計1億7000万部以上を出版、日本でも人気を集め

た。同作はロックフェラー・プロダクションによる人形劇として2016年に米・オフブロードウェイで上演され話題を集め、世界ツアーのほか2019年には初の来日公演が行われた。

●**志村智雄** 俳優、演出家。5月23日、胃がんのため死去。76歳。東京演劇アンサンブル附属養成所を経て1970年に前進座に入座。代表作は『さぶ』さぶ役や『今日われ生きてあり』香坂司郎役など。一方で『夢千代日記』『如月の華』の脚本・演出を手がけた。

●**鳥居清光(本名：鳥居せつ子)** 浮世絵師、舞台美術家。5月24日、急性心不全のため死去。83歳。東京芸術大学日本画科卒業後、日生劇場のデザイン室、舞台課に所属。その後、父で鳥居派八代目鳥居清忠の元で修業し、1982年に鳥居派九代目・鳥居清光を襲名。浮世絵師として歌舞伎の絵看板や筋書を手がけたほか、舞台美術や衣装を手がけた。2005年黄綬褒章。日本演劇協会会員。

●**岡田晃一** 能楽師観世流シテ方。5月25日、すい頭部がんのため死去。66歳。重要無形文化財保持者(人間国宝)。

●**船戸順(本名：岩井常隆)** 俳優。5月26日、進行期肺がんによる呼吸器不全のため死去。82歳。1960年に映画『地の涯に生きるもの』でデビュー。多くの映画や「水戸黄門」「特捜最前線」「はぐれ刑事純情派」シリーズなどに出演。また舞台『孤愁の岸』『無法松の一生』『屋根の上のバイオリン弾き』などでも活躍。妻で俳優、日本舞踊家の岩井友見と共演した胃腸薬「キャベジンコーワ」のCMなどでも親しまれた。

●**一龍齋貞山** 講談師。5月26日、心不全のため死去。73歳。七代目貞山の長男として生まれ、六代目神田伯龍に入門。1979年に八代目貞山を襲名。赤穂義士伝や怪談などを得意とし、89年に文化庁芸術祭賞を受賞した。

●**伊藤喜久雄** 興行会社「アイエス」創業者。5月29日、死去。87歳。芸能界の黎明期から興行で活躍。舟木一夫、都はるみなど多くの興行を手がけた。また梅沢富美男を「夢芝居」で大ヒットさせ、一躍人気スターに引き上げた功績でも知られた。

●**B・J・トーマス** 米・歌手。5月29日、肺がんに伴う合併症のため死去。78歳。1969年の映画『明日に向かって撃て!』の挿入歌『雨にぬれても』のヒットで人気歌手に。グラミー賞を5度受賞した。

●**小林亜星** 作曲家。5月30日、心不全のため死去。88歳。1961年にレナウンのCM曲で注目を集め、「酒は大関こころいき」「日立の樹(この木なんの木)」などのCM曲を多数作曲。また演歌や歌謡曲も手がけ、都はるみ「北の宿から」では76年日本レコード大賞を受賞。そのほか「魔法使いサリー」「ひみつのアッコちゃん」「科学忍者隊ガッチャマン」「怪物く

ん」などのアニメ主題歌や、「ママと遊ぼう!ピンポンパン」の「ピンポンパン体操」なども手がけた。一方で74年のドラマ『寺内貫太郎一家』に主演したほか、NHK連続テレビ小説『さくら』に出演するなど俳優としても活躍した。

【6月】

●**清元美治郎** 清元節三味線方。6月4日、新型コロナウイルス肺炎感染症のため死去。76歳。1964年、初代清元寿国太夫に入門。79年に『ザ・カブキ 歌舞伎誕生』で初めて歌舞伎の立三味線を勤める。2013年度芸術選奨文部大臣賞、14年度芸術祭音楽部門大賞。

●**西野皓三** 西野バレエ団創設者。6月5日、心不全のため死去。94歳。宝塚歌劇団のバレエ指導・振付などを経て1954年に西野バレエ団を創設。金井克子、由美かおる、奈美悦子らを輩出した。

●**ギィ・フォウシィ** 仏・劇作家。6月11日、心不全のため死去。88歳。代表作に『相寄る魂』『関節炎』『壁の崩れるのを眺めて』など。戯曲は世界各国で上演、出版され、日本でも1977年に設立された「ギィ・フォウシィ・シアター」などが上演してきた。

●**寺内タケシ** ギタリスト。6月18日、器質化肺炎のため死去。82歳。1962年「寺内タケシとブルージーンズ」を結成。“エレキギターの神様”と呼ばれた。

●**原信夫** サックス奏者。6月21日、肺炎のため死去。94歳。1951年にビッグバンド「原信夫とシャープ&フラッツ」を結成。日本のジャズの黎明期を切り開いた。また自ら作曲した美空ひばり「真っ赤な太陽」が大ヒットするなど、歌謡曲の世界でも広く親しまれた。

●**宮田章司** 江戸売り声漫談家。6月21日、老衰のため死去。88歳。「朝顔売り」「納豆売り」など江戸の情緒と季節を感じさせる江戸売り声の第一人者として活躍した。

●**李麗仙** 俳優。6月22日、肺炎のため死去。79歳。1960年代から唐十郎・主宰の劇団状況劇場で看板女優として活躍。“紅テント”公演での圧倒的な演技で“アングラの女王”と呼ばれた。『少女仮面』『二都物語』『唐十郎版 風の又三郎』など代表作は多数。また数多くのドラマにも出演。人気ドラマ『3年B組金八先生 第4シリーズ』では武田鉄矢演じる金八先生と対立する教頭役を演じ、お茶の間の人気を集めた。

●**瓜生正美** 劇作家、演出家。6月27日、老衰のため死去。96歳。火野葦平らと創立した劇団「かもめ座」、いずみたくらと設立した「東京喜劇座」などを経て、1964年「秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場」

を仲間と立ち上げ97年まで代表。また日本劇団協議会会長も務めた。代表作に脚本・演出を手がけた『青春の砦』など。

【7月】

●**リチャード・ドナー** 米・映画監督。7月5日、死去。91歳。1976年『オーメン』で人気監督の仲間入りに。代表作は78年『スーパーマン』、85年『グーニーズ』、『リール・ウェポン』シリーズなど。

●**ウラジミール・メンシヨフ** 露・映画監督。新型コロナウイルス感染の影響のため死去。7月5日発表。81歳。モスクワ芸術座俳優養成学校や全ロシア映画大学で学ぶ。1979年『モスクワは涙を信じない』で米アカデミー賞外国語映画賞を受賞。84年『愛と鳩』など国民に愛される多数の作品を監督した。

●**ディリップ・クマール** 印・俳優。7月7日、死去。98歳。インド映画界「ボリウッド」で最も尊敬を集めるベテラン俳優の一人。代表作は、ボリウッド史上最高の興行収入を記録した作品のひとつ『偉大なムガル帝国』。

●**前田米造** 映画撮影監督。7月6日、誤嚥性肺炎のため死去。85歳。日活ロマンポルノ作品を手がけたほか、『家族ゲーム』『マルサの女』などを担当。1986年『それから』で日本アカデミー賞最優秀撮影賞を受賞。2007年旭日小綬章。

●**亀石征一郎** 俳優。7月11日、多発性脳梗塞のため死去。82歳。劇団文化座を経て1959年に東映ニューフェイス第6期に合格。同期に千葉真一、太地喜和子ら。60年『おれたちの真昼』でデビュー。70年代半ば以降は「影の軍団」「水戸黄門」「必殺」シリーズなど、名悪役として多くの時代劇に出演した。

●**浅見真州** 観世流シテ方。7月13日、病気のため死去。80歳。4歳で初舞台を踏み、故観世寿夫に弟子入り。国内外で多くの名舞台を残したほか、古典の復活上演や新作創作にも精力的に取り組んだ。2005年紫綬褒章、11年旭日小綬章、18年仏・レジオン・ヌール勲章(シュバリエ)受章。

●**酒井政利** 音楽プロデューサー。7月16日、心不全のため死去。85歳。1961年日本コロムビアに入社。プロデュースした青山和子『愛と死をみつめて』が日本レコード大賞を受賞。CBS・ソニーに移った後、69年にカルメン・マキ『時には母のない子のように』を手がけてミリオンセラーを記録。フォーリーブス、キャンディーズ、南沙織、郷ひろみ、松田聖子らを手がけたほか、山口百恵『横須賀ストーリー』『プレイバックPart2』『いい日旅たち』などの数々の名曲を手がけた。2005年に音楽業界初の文化庁長官表彰、2020年文化功労者。

●**中嶋弘子** ファッションデザイナー。7月18日、

老衰のため死去。95歳。NHK「夢であいましょう」で司会を務め人気を集めた。

●**那須正幹** 児童文学作家。7月22日、肺炎腫のため死去。79歳。被爆体験を基に『絵で読む広島の実爆』など反戦や反核、平和をテーマにした作品のほか、「ズッコケ三人組」シリーズを刊行。同シリーズは2004年の50巻まで続き、累計発行部数は児童文学として戦後最大の2500万部に上るベストセラーとなった。

●**渡辺善太郎** 音楽プロデューサー。7月22日、死去。Chara、hitomi、いきものがかりの楽曲を手がけたほか、映画『Laundry』『重力ピエロ』やNHKドラマ『はつ恋』の楽曲も担当した。

●**サトウサンペイ(本名：佐藤幸一)** 漫画家。7月31日、誤嚥性肺炎のため死去。91歳。1951年に新大阪新聞の4コマ漫画『大阪の息子』でデビュー。朝日新聞で65年4月から連載が始まった『フジ三太郎』では平凡なサラリーマンの日常をユーモアや風刺を交えて描き人気を集め、91年9月までの26年半、8168回に及ぶ長期連載となった。97年紫綬褒章、2006年旭日小綬章。

【8月】

●**本郷直樹** 歌手、俳優。8月2日、心筋梗塞のため死去。71歳。1971年『燃える恋人』で歌手デビューし、日本レコード大賞新人賞を受賞。俳優としてドラマ『アイちゃんが行く!』、映画『新・同棲時代』などに出演した。

●**神宮輝夫** 児童文学者。8月4日、間質性肺炎のため死去。89歳。児童文学「かいじゅうたちのいるところ」シリーズなどの翻訳を手がけた。

●**岩豪友樹子** 劇作家。8月4日、死去。65歳。1991年、歌舞伎脚本『大力茶屋』で国立劇場新作歌舞伎脚本佳作に選ばれる。1993年『松平忠直豊後配流始末』で同優秀賞、『斑雪白骨城』で同佳作に。歌舞伎上演作品で脚色も担当した。また1995年には『お菊虫』で日本演劇興行協会第4回脚本募集歌舞伎部門優秀作、『江戸宵闇妖艶爪』で大谷竹次郎奨励賞を受賞した。日本演劇協会会員。

●**小林章夫** 英文学者、上智大学名誉教授。8月5日、心不全のため死去。71歳。著書に『イギリス紳士のユーモア』『シェイクスピア・ハンドブック(共編：河合洋一郎)』。

●**みなもと太郎** 漫画家。8月7日、心不全のため死去。74歳。1967年にデビュー。79年から連載が始まった『風雲児たち』は歴史漫画に新しい地平を開いた。同作は三谷幸喜の脚本で2018年にテレビドラマに、2019年には『三谷かぶき 月光露針路日本 風雲児たち』(出演：松本白鸚、松本幸四郎、市川猿之

助、八嶋智人ほか)として上演された。

●**藤島メリー泰子** ジャニーズ事務所名誉会長。8月14日、肺炎のため死去。93歳。同事務所を創業した故ジャニー喜多川の姉で、長年、副社長として経営面を支えると共に、多くの人気アイドルを育てた。2019年に会長に就任。20年から名誉会長を務めていた。

●**ジェリー藤尾(本名：藤尾薫紀)** 歌手、俳優。8月14日、慢性閉塞性肺疾患による急性肺炎のため死去。81歳。1961年にレコードデビューし、NHK紅白歌合戦に初出場。62年、人気番組「夢であいましょう」で発表した「遠くへ行きたい」が大ヒットした。また俳優として黒澤明監督『用心棒』など数々の映画やドラマで活躍した。

●**山内静夫** 映画プロデューサー。8月15日、老衰のため死去。96歳。1925年に作家・里見淳の四男として生まれ、48年に松竹に入社。56年『早春』から『東京暮色』『彼岸花』『秋日和』、62年『秋刀魚の味』まで小津安二郎作品のプロデューサーを務めた。一方で神奈川・鎌倉の芸術文化振興に尽力し鎌倉文学館館長も務めた。

●**松井清人** 前「文藝春秋」社長。8月15日、病気のため死去。70歳。1974年に文藝春秋に入社。「週刊文春」「文藝春秋」の編集長を務めた。

●**坂上弘** 作家。8月16日、がんのため死去。85歳。「三田文学」に発表した小説『息子と恋人』が芥川賞候補になり、『ある秋の出来事』で中央公論新人賞を受賞。会社員としての生活感を土台に社会や家族の問題を描き、内省的な作風から吉井由吉らと共に「内向の世代」と呼ばれた。日本文芸協会理事長なども歴任した。

●**笑福亭仁鶴** 落語家。8月17日、骨髄異形成症候群のため死去。84歳。1962年に六代目笑福亭松鶴に入門。松鶴や桂米朝ら戦後の上方落語を牽引した四天王に続く世代として古典落語にこだわり、『崇徳院』『道具屋』『壺算』などを得意とした。高座に上る一方でラジオの深夜番組に出演して若者の人気を集めたほか、バラエティー番組「ヤング おー！おー！」の初代司会者、また「ボンカレー」のCMに出演するなどして、人気と全国区の知名度を獲得。落語家タレントの先駆けとして多彩な活躍もみせた。

●**滝良子** ラジオ・パーソナリティ。8月17日、肺血栓塞栓症のため死去。76歳。ニッポン放送の名物番組『ミュージックスカイホリデー』を担当、「そろまめ」の愛称で親しまれた。

●**辻萬長** 俳優。8月18日、腎臓がんのため死去。77歳。1962年に劇団俳優座付属養成所14期生として入所。その後、井上ひさし主催の劇団こまつ座の看板俳優などとして活躍。『父と暮らせば』『人間合

格』『黙阿弥オペラ』『紙屋町さくらホテル』、蜷川幸雄演出『NINAGAWA マクベス』『尺には尺を』、三谷幸喜作・演出『大地』など出演作は多数。76年『ボンソワール・オフエンバック』文化庁芸術祭優秀賞、2001年『一人芝居 化粧二題』読売演劇大賞個人賞、2003年『雨』『ロンサム・ウェスト』紀伊國屋演劇賞個人賞。数多くの映画やドラマでも活躍した。

●**千葉真一**(本名: 前田禎穂) 俳優。8月19日、新型コロナウイルスに伴う肺炎の悪化のため死去。82歳。1959年に東映ニューフェイスに合格。60年代から映画やドラマに出演し、自らスタントアクションをこなせる俳優として注目された。66年には日米合作映画『海底大戦争』に出演、「サニー・チバ」として知られた。68年のドラマ『キイハンター』で人気を博し、69年にアクション俳優らを育成する「ジャパンアクションクラブ(JAC)」を創設。真田広之、志穂美悦子、堤真一らを輩出。82年に上演したミュージカル『ゆかいな海賊大冒険』は、その後3年に渡り満員御礼になる記録的成功を取めたほか、『酔いどれ公爵』など複数の作品で企画・演出・主演を務め、JACミュージカルとして定期的に公演を行った。代表作は『戦国自衛隊』『魔界転生』『キル・ビル vol.1』など多数。映画のほか、NHK大河ドラマ『風林火山』、時代劇『影の軍団』シリーズなど1000本を超える作品に出演した。

●**野村幻雪** 観世流シテ方楽師。8月21日、多発性血管炎肉芽腫症のため死去。84歳。和泉流狂言方・六世野村万蔵の四男として生まれ3歳で初舞台を踏むが、後に能の道を志し、1952年に二十五世観世元正(後の左近)に入門。62年に独立。端正で優美な芸風で、『関寺小町』『檜垣』『嫉捨』などの老女物をはじめとする古典のほか、新作能や他ジャンルとの共演にも意欲的に取り組んだ。98年紫綬褒章、2016年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定、18年旭日小綬章。日本能楽協会や観世会顧問も歴任した。

●**二瓶正也** 俳優。8月21日、誤嚥性肺炎のため死去。80歳。東宝芸能学校に進み1960年に第15期東宝ニューフェイスとして入社。岡本喜八監督作品の常連となったほか、加山雄三主演の若大将シリーズなどにも出演。66年『ウルトラマン』で科学特捜隊の開発担当者、イデ・ミツヒロ隊員役のコミカルな演技で人気を集めた。

●**岡田博** ワイズ出版社長、映画プロデューサー。8月27日、膀胱がんのため死去。72歳。89年にワイズ出版を設立。日本映画に関する本や劇画・漫画などの出版を手がけた。映画『無頼平野』などの映画製作も手がけた。

【9月】

●**澤井信一郎** 映画監督。9月3日、多臓器不全のため死去。83歳。1961年に東映に入社。マキノ雅弘監督の下で助監督を務め、81年に松田聖子主演『野菊の墓』で監督デビュー。監督と共同脚本を務めた84年『Wの悲劇』では日本アカデミー賞をはじめ数多くの映画賞を受賞した。代表作には『早春物語』『めぞん一刻』『福沢諭吉』『わが愛の譜 滝廉太郎物語』『時雨の記』など。2006年紫綬褒章。

●**鬼沢慶一** 芸能リポーター。9月5日、老衰のため死去。89歳。スポーツニッポン新聞社に入社後、報知新聞社に転職。芸能記者として活動。1971年からはTBS系ワイドショー『モーニングジャンボ』で芸能リポーターの草分け的存在として活躍した。

●**ジャンポール・ベルモンド** 仏・俳優。9月6日、死去。88歳。コンセルバトワール(国立演劇学校)を卒業後、パリで『シーザーとクレオパトラ』などの舞台に出演。1957年映画デビュー。59年『勝手にしやがれ』でふてぶてしい自転車泥棒役を好演、一躍国際スターとなった。出演作は『気狂いピエロ』『リオの男』『ボルサリーノ』など。その後、舞台演劇に活動の重点を移し『シラノ・ド・ベルジュラック』など多くの舞台に出演した。

●**仲里松子** 俳優。9月7日、死去。87歳。戦後に女性だけで構成された沖縄芝居の劇団「乙姫劇団」に所属、数々の舞台に出演。乙姫劇団解散後は「劇団うない」で活動していた。

●**山本暎一** アニメーション監督。9月7日、心不全のため死去。88歳。手塚治虫による虫プロダクションの創設に参加。テレビアニメシリーズ『鉄腕アトム』『ジャングル大帝』の演出や脚本など数多くの作品に携わった。アニメ映画『千夜一夜物語』『クレオパトラ』は監督を、アニメ映画『宇宙戦艦ヤマト』は脚本を担当した。

●**深澤弘** 元ニッポン放送アナウンサー。9月8日、死去。85歳。プロ野球中継「ニッポン放送ショウアップナイター」の実況を長く担当。74年には巨人・長嶋茂雄の引退試合を担当した。

●**正司敏江** 漫才師。9月18日、脳梗塞のため死去。80歳。夫婦漫才コンビ「正司敏江・玲児」を組み、「どつき漫才」で人気を博した。

●**勘太郎** 漫才師。9月18日、心不全のため死去。65歳。1982年、たにしと漫才コンビ「ホームラン」結成。俳優や司会者としても活躍した。

●**ロジャー・ミッシェル** 英・映画監督。9月22日、死去。65歳。ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの演出家などを経て、舞台演出や映画監督として活躍。99年の映画『ノッティングヒルの恋人』が世界的なヒットを記録、米ゴールデン・グローブ

賞にノミネートされた。

●**さいとう・たかを** 漫画家。9月24日、膵臓がんのため死去。84歳。1955年、『空気男爵』で漫画家デビュー。68年、『ゴルゴ13』の連載を開始。2021年7月には単行本201巻が発売され、「最も発行巻数が多い単一漫画シリーズ」としてギネス世界記録に認定された。2003年紫綬褒章、2010年旭日小授章。

●**三遊亭栄馬** 落語家。9月29日、急性心筋梗塞のため死去。77歳。三遊亭小圓馬に入門し、1981年に真打ちに。76年NHK新人落語コンクール最優秀賞、84年第19回国立演芸場花形演芸会銀賞。

●**すぎやまこういち** 作曲家。9月30日、敗血症性ショックのため死去。90歳。東京大学卒業後、文化放送を経てフジテレビに入社。「ザ・ヒットパレード」「おとなの漫画」などの番組を手がけ、同時に作曲家としても活動を開始。ゲーム「ドラゴンクエスト」シリーズの音楽のほか、『亜麻色の髪の乙女』『恋のフーガ』『学生街の喫茶店』などの多くのヒット曲やCMソング、アニメ、映画音楽、東京・中山競馬場の発走ファンファーレなど幅広いジャンルの音楽を多数手がけた。2017年文化庁長官表彰、2018年旭日小綬章、2020年文化功労者。

【10月】

●**里村龍一** 作詞家。10月5日、アルコール性肝硬変のため死去。72歳。1988年に「雨酒場」(香西かおり)でデビュー。85年「望郷じよんがら」(細川たかし)で日本作詞大賞、日本レコード大賞金賞を受賞した。

●**柳家小三治** 落語家。10月7日、心不全のため死去。81歳。1959年に五代目柳家小さんに入門し、69年に異例の17人抜きで真打ちに昇進、十代目小三治を襲名。「青菜」「小言念仏」「厩火事」などの滑稽ばなしを得意とし、江戸落語の第一人者として活躍した。2004年芸術選奨文部科学大臣賞、05年紫綬褒章、14年旭日小綬章。14年には落語家で3人目となる重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された。

●**白土三平** 漫画家。10月8日、誤嚥性肺炎のため死去。89歳。紙芝居制作や人形劇団での活動を経て1957年『こがらし剣士』でデビュー。59年から『忍者武芸帳―影丸伝―』を刊行。67年には大島渚監督、山本圭主演で映画化された。64年からは『カムイ伝』の連載を開始。ライフワークとなりシリーズ累計1500万部を超える。一方で『サスケ』など少年漫画でもヒット作を生み出した。68年には代表作のひとつ『赤目』が劇団自由劇場(演劇センター68参加作品)により舞台化された(作:斎藤憐、演出:観世栄夫)。

●**中島靖子** 10月10日、悪性リンパ腫のため死去。

95歳。生田流箏曲の流派である正派邦楽会二代目家元。箏曲や三弦の曲などを手がけ、邦楽の振興に努めた。

●**山本文緒** 作家。10月13日、膵臓がんのため死去。58歳。1999年『恋愛中毒』吉川英治文学新人賞、2001年『プラナリア』直木賞を受賞。

●**花柳千代** 日本舞踊家。10月17日、老衰のため死去。97歳。1950年全国舞踊コンクール邦舞第一部で1位となり、51年に花柳千代舞踊研究所を開設。日本舞踊の指導と普及に貢献した。90年紫綬褒章、95年勲四等宝冠章。

●**飯島敏宏** テレビプロデューサー、脚本家。10月17日、誤嚥性肺炎のため死去。89歳。1957年にラジオ東京(現TBSホールディングス)に入社。66年、特撮ドラマ『ウルトラマン』の脚本と監督を担当。人気キャラクター「バルタン星人」の生みの親として知られる。脚本家名は千束北男。83年から連続ドラマ「金曜日の妻たちへ」シリーズをプロデュースして大ヒットとなった。

●**前田五郎** お笑い芸人。10月17日、死去。79歳。吉本新喜劇を経て1968年に坂田利夫と漫才コンビ「コメディNo.1」を結成した。

●**エディタ・グルベローヴァ** ソプラノ歌手。10月18日、死去。74歳。1970年、ウィーン国立歌劇場の公演「魔笛」の「夜の女王」に抜擢された後は世界中で活躍。「コロラトゥーラの女王」と評された。

●**松田秀知** テレビディレクター。9月に死去していたことが10月18日分かった。71歳。故・田村正和主演のドラマ「古畑任三郎」シリーズや「世にも奇妙な物語」シリーズなど数多くの作品で演出を担当。米倉涼子主演『黒革の手帳』や「ドクターX〜外科医・大門未知子」シリーズの演出も手がけた。また映画『交渉人〜THE NEGOTIATOR THE MOVIE』で監督も務めた。

●**牧阿佐美** 舞踊家。10月20日、大腸がんのため死去。87歳。日本バレエ界の草分けだった橋秋子の長女に生まれ4歳で初舞台。アメリカにバレエ留学後、1956年に母と「牧阿佐美バレエ団」を結成。日本のトップ舞踊家の一人として活躍。71年に現役を引退後は後進の育成に専念、草刈民代や金森雅、上野水香らを輩出した。99年から2010年、新国立劇場の舞踊芸術監督。96年紫綬褒章、2008年文化功労者。

●**渡辺淳** フランス文学者、評論家。10月20日、肺炎のため死去。98歳。フランス文学や思想などの紹介、演劇や映画の評論などで活躍。著書に『パリの世紀末―スベクトルへの招待』『現代演劇のゆくえ―失われたドラマを求めて』、訳書に『ヴィジュアル演劇の事典』など。

●**川口真** 作曲家、編曲家。10月20日、敗血症のため

め死去。83歳。引田三枝子『人形の家』で作曲家デビュー。西郷輝彦『真夏のあらし』で日本レコード大賞作曲賞を受賞。『ウルトラマンタロウ』の主題歌も手がけたほか、明治「カール」のCMソングなども作曲した。

●**高岩 淡** 元東映社長。10月28日、肺炎のため死去。90歳。1954年東映に入社。71年に京都撮影所所長に就任し、75年には国内初の映画テーマパーク・東映太秦映画村をオープンさせた。また映画製作者として『柳生一族の陰謀』『青春の門』『鉄道員(ぼっばや)』など多くの作品を手がけた。

●**樋口有介** 作家。10月26日、自宅で倒れているところを発見され死亡が確認された。71歳。1988年『ぼくと、ぼくらの夏』でサントリーミステリー大賞読者賞を受賞。同作は90年に映画化(出演：和久井映見、蟹江敬三ほか)、同年テレビドラマ化(出演：濱田万葉、江守徹ほか)された。

●**太田淑子** 俳優、声優。10月29日、心不全のため死去。89歳。宝塚歌劇団を経て1963年テアトル・エコーに入団。『日本人のへそ』『表裏源内蛙合戦』『あしたも7時』などに出演。声優としても活躍し、『ジャングル大帝』レオ役、『リボンの騎士』サファイヤ役、『ひみつのアッコちゃん』アッコ役などを担当した。

【11月】

●**瀬戸内寂聴** 作家、僧侶。11月9日、心不全のため死去。99歳。1946年中国から引き揚げ後、丹波文雄主宰「文学者」の同人に。57年新潮社同人雑誌賞を受賞、初の短編集『白い手袋の記憶』を刊行。以後、『花芯』『田村俊子』『夏の終わり』『美は乱調にあり』などを発表。92年から『源氏物語』の現代語訳に取り組み、98年に全10巻が完成。岩手・中尊寺で73年に得度。法名「寂聴」に改名し、京都・寂庵を拠点に説法活動を展開。岩手・天台寺住職も兼ね、孤独や病などに悩む人々に寄り添った。また歌舞伎『源氏物語』の訳・脚本を手がけた。

●**笹本稜平** 作家。11月12日、急性心筋梗塞のため死去。70歳。2001年『時の渚』でサントリーミステリー大賞と読者賞を受賞。04年『太平洋の薔薇』で大藪春彦賞。代表作のひとつ『春を背負って』は14年に映画化(出演：松山ケンイチ)された。

●**ワダエミ** 衣装デザイナー。11月13日、死去。84歳。大学を卒業後、衣装デザイナーとして様々な衣装デザインを手がけ、1985年公開の黒澤明監督『乱』で米アカデミー賞の最優秀衣装デザイン賞を受賞。その後『利休』(勅使河原宏)『御法度』(大島渚)など邦画のほか海外作品でも活躍。一方、オペラ『エディプス王』(指揮：小澤征爾)、オペラ『マクベス』(演

出：野田秀樹)、『幽霊はここにいる』『セツァンの善人』(演出：串田和美)『太平洋序曲』(演出：宮本亜門)、『母・肝っ玉とその子供たち』(演出：栗山民也)など多くの舞台作品の衣装を手がけた。

●**鶴澤正一郎** 竹本三味線奏者。11月17日、老衰のため死去。90歳。1948年に文楽三味線方・四代目鶴澤清六に入門し、49年に東京宝塚劇場の文楽公演『義経千本桜』道行で初舞台。75年に歌舞伎竹本に転向。重厚かつ華麗な演奏で活躍すると共に、国立劇場の養成事業講師として後進の育成に尽力した。2010年旭日双光章。

●**柿原崇志** 能楽囃子高安流太鼓方。11月17日、脳出血のため死去。80歳。能楽師だった父・繁蔵の指導を受けて1956年初舞台。後に安藤春雄のもとで技術を磨く。あらゆる曲を的確に表現する安定する技術で太鼓の名手として長年に渡り活躍。一方で後進育成にも取り組んだ。2015年日本芸術院賞と恩賜賞を受賞、2018年重要無形文化財保持者(人間国宝)。

●**穂高稔** 俳優。11月23日、心不全のため死去。94歳。八田元夫演出研究所や劇団青俳を経て1980年俳協に所属。出演作はドラマ「暴れん坊将軍」「太陽にほえろ!」やNHK大河「山河燃ゆ」、映画「仁義なき戦い 完結篇」など。

●**スティーブン・ソンドハイム** 米・作詞家、作曲家。11月26日、死去。91歳。オスカー・ハマースタイン2世にミュージカル制作の基礎を学び、学生時代からミュージカルの作詞・作曲を手がける。『ウエスト・サイド・ストーリー』では作詞を担当、『カンパニー』『リトル・ナイト・ミュージック』『スウィーニー・トッド』『太平洋序曲』『イントゥ・ザ・ウッド』など人気ミュージカルの作詞・作曲を数多く手がけた。トニー賞のほかアカデミー賞、ピュリッツァー賞、グラミー賞など8回受賞。2015年には米・大統領自由勲章を授与された。

●**中村吉右衛門** 歌舞伎俳優。11月28日、心不全のため死去。77歳。八代目松本幸四郎(初代松本白鸚)の次男。のちに母方の祖父・初代中村吉右衛門の養子となる。1948年東京劇場『御存俎板長兵衛』の長松ほかで中村萬之助を名のり初舞台。1996年帝国劇場『祇園祭礼信仰記 金閣寺』の此下東吉ほかで二代目中村吉右衛門を襲名した。歌舞伎界を代表する立役の一人として深い人物造形と巧みなセリフ術で魅了し、『熊谷陣屋』熊谷直実、『仮名手本忠臣蔵』大星由良之助、『俊寛』俊寛僧都など数々の当たり役を持った。初代中村吉右衛門の俳名・秀山にちなみ、生誕120周年を記念して2006年9月から始まった「秀山祭」では、当代以来の当たり役に挑むほか、後進の指導も行った。2012年からは文化庁事業に参加し、

全国の小学校をまわり、歌舞伎の楽しさを伝える活動も行った。一方、ドラマ「鬼平犯科帳」シリーズでは1989年から2016年まで長谷川平蔵役に主演し、人気シリーズとなった。最後の舞台は2021年3月歌舞伎座『桜門五三桐』石川五右衛門。2011年重要無形文化財保持者各個認定(人間国宝)、2017年文化功労者。日本演劇協会会員。

●**横山仁一** 劇団東京オレンジ主宰、演出家。11月29日、死去。早稲田大学在学中の1992年、演劇研究会を母体に堺雅人や高橋洋らと劇団東京オレンジを旗揚げ。全作品の構成・演出を手がけた。また、洗足学園音楽大学ミュージカルコース講師や演劇専門学校「ENBUゼミナール」講師など後進の育成にも尽力した。

●**三遊亭円丈** 落語家。11月30日、心不全のため死去。76歳。1964年六代目三遊亭円生に入門。「ぬう生」を名乗り、78年真打に昇進、円丈に改名。「グリコ少年」など、古典落語にとどまらない奇想天外な世界観の新作落語を多く発表し、若い世代など新たなファンを獲得した。

[12月]

●**信本敬子** 脚本家。12月1日、病気のため死去。57歳。第3回フジテレビヤングシナリオ大賞を受賞後、ドラマ『白線流し』、アニメ『カウボーイビバップ』『東京ゴッドファーザーズ』などを手がけた。

●**八条見栄児** 声優。12月3日、死去。90歳。アニメ『巨人の星』伴宙太、『ゲゲゲの鬼太郎』一反木綿などのほか、また洋画や海外ドラマの吹き替えも数多く担当。『ヤッターマン』ボヤッキーでは「ポチっとな」「全国の子供高校生の皆さん」などのユニークな台詞で人気を集めた。

●**新井満** 作家。12月3日、誤嚥性肺炎のため死去。75歳。1987年『ヴェクサシオン』で野間文芸新人賞、88年『尋ね人の時間』で芥川賞受賞。またヒット曲『千の風になつて』の翻訳と作曲でも知られた。

●**中尾幸男** テレビプロデューサー。12月6日、肝臓がんのため死去。75歳。ドラマ「水戸黄門」シリーズのチーフプロデューサーを務めるなど、人気テレビ番組を手掛けた。映像制作会社C・A・L社長、全日本テレビ番組製作社連盟理事長も務めた。

●**アン・ライス** 米・作家。12月11日、脳卒中による合併症で死去。80歳。1976年の第一作『インタビュー・ウィズ・ヴァンパイア』がベストセラーに。94年にトム・クルーズとブラッド・ピットの出演で映画化され人気を博した。

●**神田沙也加** 俳優。12月18日、死去。2002年に歌手デビューし、2004年にミュージカル『Into The Woods』で舞台初主演を果たす。その後、『レ・ミゼ

ラブル』『マイ・フェア・レディ』『王家の紋章』などミュージカル作品を中心に舞台上で活躍。『キューティ・ブロード』では、その演技が評価され、第43回菊田一夫演劇賞を受賞した。また、2014年公開のディズニー映画『アナと雪の女王』の日本語吹替版・アナ役でも人気を集めた。父は俳優・神田正樹、母は歌手・松田聖子。

●**内田優** 東海テレビ放送会長。12月20日、肺炎のため死去。71歳。報道制作局長や専務取締役などを歴任後、2013年社長に就任。在任中、ドキュメンタリー番組の映画化・劇場公開に注力し、2018年に一連の活動が評価されて「東海テレビドキュメンタリー劇場」が菊池寛賞を受賞。一方で、日本民間放送連盟の副会長や理事を務めるなど、放送業界全体の発展と向上に尽力した。

●**藤木達弘** テレビプロデューサー。12月23日、膵臓がんのため死去。60歳。NHKディレクター、プロデューサーとしてNHKスペシャル『ワーキングプア』(ギャラクシー大賞、新聞協会賞)、『日本海軍400時間の証言』(早稲田ジャーナリズム大賞)などを手がけた。

●**ジョーン・ディディオン** 米・作家、脚本家。12月23日、パーキンソン病に伴う合併症で死去。87歳。1963年に小説家デビュー。2作目の『Play It As It Lays』が映画化され、脚本を夫のジョン・グレゴリー・ダンと共に担当。『スター誕生』『告白』などの脚本も共同で執筆。2003年にノンフィクション『悲しみにある者』がベストセラーに。全米図書賞を受賞したほか、ヴァネッサ・レッドグレイヴ主演で舞台化されブロードウェイで上演された。

●**瀬川昌久** 音楽評論家。12月29日、肺炎のため死去。97歳。1950年代に銀行員として渡米し、チャーリー・パーカーらジャズ・ミュージシャンの演奏に触れ評論活動を開始。戦前の日本のジャズの発掘や紹介に尽力した。また雑誌「ミュージカル」編集長や日本ポピュラー音楽協会名誉会長も歴任。2015年文化庁長官表彰。

●**ベティ・ホワイト** 米・俳優。12月31日、死去。99歳。高校卒業後、舞台などを経て1949年にテレビの世界へ。『ザ・ゴールデン・ガールズ』など数多くのドラマなどに出演しエミー賞も受賞したほか、2010年には88歳で人気コメディ番組『サタデー・ナイト・ライブ』のホスト役も担当。2014年版のギネス世界記録では「最も長いテレビキャリアを持つ女性芸能人」に認定された。



公益社団法人日本演劇協会

Japan Theatre Arts Association (JTAA)

当会は1920年(大正9年)に菊池寛・山本有三両氏を中心として組織された「劇作家協会」を母体とし、1951年(昭和26年)4月に設立されました。2013年(平成25年)4月には内閣府より公益社団法人の認可を受け、演劇(劇放送を含む)の向上発展を図り、芸術及び文化の高揚に寄与するとともに演劇関係者の社会的地位の確立を目的とし活動しています。

～沿革～

- 1920年(大正9年)
菊池寛・山本有三両氏を中心に「劇作家協会」が組織される
- 1941年(昭和16年)
久保田万太郎・高田保を中心に「(第一次)日本演劇協会」が設立される
- 1945年(昭和20年)
第二次世界大戦終戦と同時に解散
- 1946年(昭和21年)
新たに「劇作家組合」として組織される
- 1951年(昭和26年)4月
「(第二次)日本演劇協会」と改称
- 1953年(昭和28年)12月
「社団法人」の認定を受け、「一般社団法人日本演劇協会」となる
- 2013年(平成25年)4月
内閣総理大臣より「公益社団法人」の認定を受け、現在に至る

～歴代会長～

初代：久保田 万太郎	1951年(昭和26年)～1963年(昭和38年)
二代：北條 秀司	1964年(昭和39年)～1993年(平成5年)
三代：河竹 登志夫	1993年(平成5年)～2007年(平成19年)
四代：植田 紳爾	2007年(平成19年)～



〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル17階

info@jtaa.or.jp

Tel : 03-3541-2025 / FAX : 03-3541-2026